符原

（寸五十二）

第　號	一金　　圓也	區收入役印
即時拂戻金受領證	右金額ノ即時拂戻金受領證ヲ發付ス	年　月　日
第三十四號		備考
注意（金額ヲ變更シ及證印ヲ改竄シキモノ又ハ無主蹟ト認ムルモノハ絶對ニ拂渡ヲ爲サヽルコト）		

（寸五）

第　號	一金　　圓也	第　節
即時拂戻金受領證	右金額ノ即時拂戻金受領證ヲ發付ス	別　種　號
第三十四號		別
注意（金額ヲ變更シ及證印ヲ改竄シキモノ又ハ無主蹟ト認ムルモノハ絶對ニ拂渡ヲ爲サヽルコト）		

（寸四）

年　月　日
東京中央郵便局
御中

右正ニ受領候也

一金　　圓

種別（國稅又ハ何）

口座番號	東京特　番
加入證印者氏名	東京市收入役（又ハ何）區收入役
公金取扱銀行名及證印	
受領者	

日局渡拂　印付

收入印役　收入役印

（備考）

一　金額ハ印顆ヲ以テ押捺スルコト

二　金庫ニ交付シタルトキハ備考ニ領收ノ證印ヲ押捺セシムルコトヲ得

三　市役所ニ在テハ原符中金額以外ノ事項ヲ變更使用スルコトヲ得

領收證用紙寸法　縱六寸　橫四寸六分

歲入歲出外現金　年　月分收入支出計算書

種別	前月越高	本月收入高	本月支出高	差引翌月へ繰高
	圓	圓	圓	圓

右之通

年　月　日

東京市長殿

東京市收入役印

（備考）

收支金計算書ニ準シ調製ノコト

●市各經濟統合整理方

明治四十二年三月三十日
市會議決第三十二號

本市各經濟左ノ通統合スルモノトス

（明治四十三年十一月、同四十四年八月、大正二年二月市會議決ノ結果左欄中訂正）

新經濟	舊經濟	整理方法
市		
公園	公園	毎年度豫算歳入出差額ハ之ヲ公園改良準備金トシテ積立ヲ爲シ不足スル場合ハ此準備金ヨリ支出スルモノトス
墓地	墓地	毎年度豫算歳入出差額ハ之ヲ墓地準備金トシテ積立ヲ爲シ不足スル場合ハ此準備金ヨリ支出スルモノトス
市（普通）		
市有地	市有地	
教育資金	教育資金	
施療病院基本金利子	施療病院基本金利子	施療病院建設マテハ寄付者ノ指定ニ依リ其利子ヲ蓄積スルノ義務アルヲ以テ其間ハ收入全部ヲ基本金ニ蓄積スル爲メ特別基金中ニ於テ整理スルモノトス
養育院	養育院	
基本財産河岸地	基本財産河岸地	
市區改正	市區改正	
市區改正下水道改良費		
水道	水道	
神田上水	神田上水	
水道準備積立金收入	水道準備積立金收入	
市區改正臨時費	市區改正臨時費	
配水工費	配水工費	
事業公債償還基金中水料收入	事業公債償還基金中水料收入	水料收入ノ全部ヲ受入レ毎年度參拾七萬圓以上ヲ事業公債償還基金ニ編入スルモノトス
事業公債費	事業公債費	事業公債募集及償還法ノ定ムルトコロニ依リ毎年度金參拾七萬圓以上ヲ水道經濟ヨリ受入スルモノトス
市立小學校建設資金	市立小學校完成資金	
特別基金	特別基金	教育基金利殖金及小學校基本財産利殖金ハ從來ノ支出及新事業ニ支出スル場合トモ之ヲ市（普通）經濟ニ編入シ市經濟ノ歳出ト爲スモノトス
火災共濟費	火災共濟費	
火災共濟基金	火災共濟基金	
電氣事業費		

●收支命令書其他諸通知書中訂正ノ場合注意

明治三十九年五月二十五日
助役通牒會發第五百四十二號（各課長宛）

會計規程施行細則ニ依リ收入役ニ對シ發スル收支命令書其他諸通知書ノ金額及納人債主名ハ之カ改竄ヲ許ササルコトハ該細則ノ明定スル所ナレトモ其以外ノ事項ニ付テハ別ニ明示ナキカ爲メ往往改竄塗抹シ事項ノ判明ヲ缺クモノ等有之本市會計整理上ノ重要ナル證憑書トシテハ其訂正事項ニ關シ後日紛ヲ生スルノ恐ナキニ非サレハ將來ハ金額納人債主名以外ノ事項ト雖モ可成訂正セサルコトニ御注意相成度若シ已ムヲ得スシテ訂正ヲ施ス場合ニ於テハ原字體ヲ存セシメ且其訂正ヲ證スル爲メ主務課長ニ於テ必ス之ニ證印相成度此段及通知候也

●金錢ノ收支ニ關スル書類誤記訂正方

明治三十四年十二月八日
助役通牒會發第千四百六十一號（各課長宛）

金錢ノ收支ニ關スル回議又ハ債主ヨリ差出ス所ノ請求書領收證及納付書等ニ記載ノ金員ニシテ誤記アルモノハ自今出來得ル限リ更ニ之カ書換ヲ爲サシメ時宜ニ依リ不得止モノアルトキハ其誤記シタル金錢ノ數字ハ（誤字ノ訂正ハ原字ヲ存置シ塗抹、改描、貼紙、又ハ貼紙シタル上ニ書スルコトヲ禁ス）誤字ノ正中ニ朱ヲ以テ竪ニ二線ヲ畫シテ取消ヲ爲シ其傍側ニ黑字ヲ以テ訂正ヲ施シ而シテ其上部カ餘白ヘ之カ正誤ノ文（例ヘハ「壹」ヲ「貳」ノ字ニ改ム又ハ「何圓何錢何厘」ヲ「何圓何錢何厘」ニ改ムト書スルノ類）ヲ明記シタル上其處ニ對シ回議ニ於テハ當該課長、主任ノ捺印ヲ要シ債主ノ請求書領收證納付書等ニ於テハ其當人ニ捺印セシムル事ニ決定相成候條已來右ニ據リ御處理有之度此段及通牒候也（明治三十五年八月二十二日助役通牒會發第千百四十四號ヲ以テ本通牒中回議面記載ノ金員誤記訂正方一切禁止ノ旨各課長ヘ更ニ通牒）

●市役所仕拂金證明規程

明治四十一年三月十一日（收入役、各局課）
市訓令甲第十四號

第一條　市役所ニ於ケル現金支出ハ此規程ニ依リ之ヲ證明スヘシ

第二條　決算ト共ニ提出スヘキ證憑書ハ正當領收證書、返納書其他支出及戻入ノ所由竝計算ノ基クトコロヲ證明スヘキ書類トス但事ノ複雜ニ渉ルモノハ明細書又ハ說明書ヲ添附スヘシ

正當受取人ノ領收證書ヲ得難キトキハ其事由ヲ詳記シタル仕拂書ヲ以テ之ニ代フヘシ

外國文ヲ以テ記載シタル證憑書ニハ其譯文ヲ附スヘシ

第三條　證憑書ハ項ヲ以テ區分シ款每ニ之ヲ編纂スヘシ

前項ノ區分ヲ爲シ難キ證憑書ハ便宜ノ項ニ編綴シ關係科目ニハ其科目ノ金額及證憑書ノ所在ヲ附記スヘシ

第四條　決算ニ際シ領收證書ノ未到達アルトキハ其事由ヲ證憑書ニ附記スヘシ

前項ノ領收證書到達シタルトキハ其時時之ヲ〔市參事會〕ニ提出スヘシ

第五條　俸給其他一定ノ給與ニ關スル領收證書ニハ給額ノ異動ヲ生シタルモノアルトキハ其事由、年月日、職名等ヲ附記セシムヘシ規定ノ支給期ニ依ラサルトキ亦同シ

退隱料及一時金ノ領收證書ニハ受領者ノ舊職名ヲ附記セシムヘシ

死亡給與金ノ領收證書ニハ死亡者ノ舊職名ヲ附記セシムヘシ

第六條　債主ノ代理人又ハ權利繼承人ノ領收證書ニハ其權利ヲ證スヘキ書類ヲ添付セシムヘシ

第七條　旅費ノ領收證書又ハ精算書ニハ其旅行ノ用務、場所、年月日、路程、宿泊地及概算受領ノ年月日ヲ詳記シタル明細書竝他府縣管內ニ於ケル郵便線路ニ該當セサル陸路ハ別ニ路程調査ノ方法アル場合ヲ除ク外其所轄行政廳ノ路程證明書ヲ添附セシムヘシ但概算拂ニ係ル明細書ニハ宿泊地ノ記載ヲ要セス

前項ノ明細書ハ領收證書又ハ精算書ニ附記シテ之ヲ省クコトヲ得

第八條　工事ニ關スル領收證書ニハ著手及竣功ノ年月日ヲ附記セシムヘシ

第九條　會計規程第二十三條ニ依ル支出證憑書ニハ工事既濟部分又ハ物件既納部分ノ調書ヲ添附スヘシ

第十條　數回ニ區分シテ仕拂ヲ爲ス物件買入代價及工事其他ノ請負金領收證書ニハ仕拂既濟額ヲ附記セシムヘシ

第十一條　契約履行ノ終了ニ伴フ支出證憑書ニハ工事竣功又ハ物件皆納明細書ヲ添附セシムヘシ

第十二條　勞務ニ關スル領收證書ニハ其從業シタル期間及所要ノ事由ヲ附記スヘシ

第十三條　物品買入及修繕ニ係ル證憑書ニハ其名稱、種類、品位、數量及單價ヲ明示シ且物品整理ニ關スル帳簿ニ登記濟ノ年月日ヲ記載スヘシ但現金前渡、前金拂ニ係ルモノハ其事由ヲ附記スヘシ

前項ノ外物品買入ノ證憑書ニハ其物品ノ用途ヲ明示スヘシ但物品ノ名稱ニ依リ用途ノ明ナルモノハ此限ニ在ラス

第十四條　物件賃借料ノ領收證書ニハ其賃借ヲ爲シタル事由ヲ附記スヘシ

第十五條　保險料、移轉料及評價料ノ類ノ領收證書ニハ其家屋、所在地及名稱等ヲ明示セシムヘシ

第十六條　手數料、使用料、補助費、交際費及印刷費ノ類ノ領收證書ニハ其所要ノ事由ヲ附記スヘシ

第十七條　歲入拂戻ノ證憑書ニハ其拂戻ヲ要スル事實ノ生シタル因由ヲ附記スヘシ

第十八條　金額五圓以上ニシテ印紙稅納付ノ義務ナキ領收證書ニハ其事由ヲ附記スヘシ但納付ノ義務ナキコト明ナル證書ハ此限ニ在ラス

第十九條　數葉ヲ以テ一通ヲ爲ス證憑書ニハ作製者ヲシテ各葉間ニ契印ヲ施サシムヘシ

第二十條　〔市參事會〕ハ支出及戻入ヲ命令スルニ際シ正當領收證書ヲ除ク外第二條ノ證憑書ヲ命令書ニ添附シ之ヲ收入役ニ交付ス第九條ノ調書及第十一條ノ明細書亦同シ

前項ノ外債主ノ代理人又ハ權利繼承人ニ仕拂ヲ爲スヘキ支出命令書ニハ其權利ヲ證スヘキ書類ヲ添附ス

第二十一條　此規程ハ明治四十一年度分支出ヨリ之ヲ適用ス

◉市役所仕拂金證明規程ニ依リ本人又ハ受任者ヨリ請求書等ヲ徴シ難キ場合取扱證

書式　明治四十一年四月二十四日助役通牒會發第三百六十九號（各局課長宛）

仕拂金證明規程第二十條ニ依リ命令書ニ添附スヘキ第二條ノ證憑書ニシテ本人又ハ受任者ヨリ請求書等ヲ徴シ難キ場合ハ左記樣式ニ準シ御取扱相成度此段及通牒候也

（左記）

證

課長

一金　何程

但何……ヲ徴收スヘキ理由及計算ノ基ク所詳記）

右何市（縣）何區（郡）何町（村）何番地何某ヨリ徴收相成度候也

局課

年月日　主任　何　某印

〔東京市參事會〕

東京市長宛

證

課長

一金　何程

但何：〔仕拂フヘキ理由「例令ハ年月日〔參事會決議〕第號ニ依ル給與金」及計算ノ基ク所ヲ詳記スルコト〕

右何市（縣）何區（郡）何町（村）何番地何某ヘ仕拂相成度候也

局課

年月日　主任　何　某印

〔東京市參事會〕

東京市長宛

◉區役所仕拂金證明規程

明治三十八年十月四日（市收入役市訓令甲第四十五號　各區役所）

第一條　會計規程施行細則第十七條ノ支出金及歲入拂戻ノ仕拂ハ此規程ニ依リ之ヲ證明スヘシ

第二條　最終支出報告書提出ノ際現金前渡、概算拂ノ精算ニ至ラサルモノ及前金拂ニ係ル物件ノ買入ニシテ其完納ニ至ラサルモノアルトキハ其事由及完結期限ヲ記載シタル調書ヲ添附スヘシ」最終支出報告書提出ノ後過渡、誤拂又ハ科目違ヲ發見シタルトキハ其都度之ヲ市收入役ニ報告スヘシ

前二項ノ各事項ハ完結ニ隨ヒ其證憑書ヲ添ヘ之ヲ市收入役ニ報告スヘシ（明治四十三年三月八日市訓令甲第十二號ヲ以テ本條及第五、六、八條中改正四月一日ヨリ實施）

第三條　證憑書ハ細科目ニ區分シ款毎ニ編纂シテ其金額紙數ヲ各科目別ノ表紙ニ記載シ現金前渡、概算拂、前金拂、定額戻入、科目更正又ハ領收證書ノ未到達アルトキハ其金額ヲ附記スヘシ」

各科目ニ區分シ難キ證憑書ハ便宜ノ科目ニ編綴シ關係科目ニハ其科目ノ金額及證憑書ノ所在ヲ附記スヘシ

第四條　證憑トシテ提出スヘキモノハ正當受取人ノ領收證書、返納書其他支出及歲入ノ因由竝計算ノ基ク所ヲ證明スヘキ書類トス但事ノ複雜ニ渉ルモノハ明細書又ハ說明書ヲ添附スヘシ」正當受取人ノ領收證書ヲ得難キトキハ其事由ヲ詳記シタル仕拂書ヲ提出スヘシ

證憑書ノ表面左方上部ニハ區長之ニ檢印ヲ捺スヘシ

第五條　證憑書ハ原本ニ限ル若シ原本ヲ提出シ難キトキハ謄本ヲ以テシ其事由ヲ附記スヘシ

外國文ヲ以テ記載シタル證憑書ニハ其譯文ヲ附スヘシ

第六條　未到達ニ係ル領收證書ノ到達シタルトキハ之ヲ其月ノ支出報告書ト共ニ市收入役ニ提出スヘシ但最終支出報告書提出ノ後到達シタルモノ及乙種支出委任ニ係ルモノハ其時時之ヲ提出スヘシ

第七條　俸給其他一定ノ給與ニシテ給額ニ異動ヲ生シタルモノアルトキハ其事由、年月日及職名ヲ證憑書ニ附記スヘシ

退隱料及一時金ノ領收證書ニハ受領者ノ舊職名ヲ附記スヘシ

俸給其他ノ支給ニシテ規定ノ支給期ニ依ラサリシトキ又ハ轉任、退職、死亡其他支給ヲ止ムヘキ事實ヲ生シタルトキハ證憑書ニ其事由ヲ附記スヘシ

死亡給與金ノ領收證書ニハ死亡者ノ舊職名ヲ附記スヘシ

第八條　債主ノ代理人又ハ權利繼承人ノ領收證書ニハ其權利ヲ證スヘキ書類ヲ添附スヘシ但代理委任狀ニシテ添附シ難キトキ又ハ區長ニ於テ其書類ヲ徴セスシテ之ヲ認メタル場合ハ領收證書ニ其事由ヲ附記スヘシ

第九條　旅費ノ領收證書又ハ精算書ニハ其旅行ノ用務、場所、年月日、路程、宿泊地及概算受領ノ年月日ヲ詳記シタル明細書竝他府縣管內ニ於ケル郵便線路ニ該當セサル陸路ハ其市役所、町村役場ノ路程證明書ヲ添附スヘシ但概算拂ニ係ル明細書ニハ宿泊地ノ記載ヲ要セス

前項ノ明細書ハ領收證書又ハ精算書ニ附記シ路程證明書ハ別ニ調査ノ方法アルトキハ之ヲ省クコトヲ得

第十條　營繕工事ニ關スル領收證書ニハ著手及竣功ノ年月日ヲ附記スヘシ

第十一條　會計規程第二十三條ニ依ル支出證憑書ニハ工事既濟部分、物件既納部分ノ調書ヲ添附スヘシ

第十二條　數回ニ區分シテ仕拂ヲ爲ス物件買入代價及工事其他ノ請負金領收證書ニハ仕拂既濟額ヲ附記スヘシ

第十三條　契約履行ノ終了ニ伴フ支出證憑書ニハ工事竣功又ハ物件皆納明細書ヲ添附スヘシ

第十四條　行旅病人、同死亡人、精神病者及棄兒其他之ニ準スヘキ者ノ取扱ニ要シタル費用ノ領收證書ニハ被取扱者ノ住所氏名ヲ附記スヘシ若シ住所氏名判明セサルトキハ其旨ヲ記載シ尙推

定年齢、男女ノ別及當初ノ發見地ヲ附記スヘシ

前項ノ費用ニシテ規定ノ制限額ヲ超過シタルモノアルトキハ其事由ヲ附記スヘシ

前二項ノ外精神病者ヘ院料ノ證憑書ニハ監置ノ年月日ヲ記載シ尚監置替、退院、死亡等ニ因リ仕拂ヲ止メタルモノアルトキハ其事由及年月日ヲ附記スヘシ

第十五條　筆耕料及人足賃ノ領收證書ニハ其從業シタル期間及所要ノ事由ヲ附記スヘシ

第十六條　物品買入及修繕ニ係ル證憑書ニハ其名稱、種類、品位、數量及單價ヲ明示シ且物品整理ニ關スル帳簿ニ登記濟ノ年月日ヲ記載スヘシ但現金前渡、前金拂ニ係ルモノハ其事由ヲ附記スヘシ

前項ノ外物品買入ノ證憑書ニハ其物品ノ用途ヲ明示スヘシ

第十七條　物件賃借料ノ領收證書ニハ其賃借ヲ爲シタル事由ヲ附記スヘシ

第十八條　歲入拂戻ノ證憑書ニハ其拂戻ヲ要スル事實ノ生シタル因由ヲ附記スヘシ

第十九條　金額五圓以上ニシテ印紙稅納付ノ義務ナキ領收證書ニハ其事由ヲ附記スヘシ但納付ノ義務ナキコト明ナル證書ハ此限ニ在ラス

第二十條　數葉ヲ以テ一通ヲ爲ス證憑書ニハ作製者ヲシテ各葉ニ契印ヲ施サシムヘシ

第二十一條　此規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●收支金計算方法

大正二年三月十三日市告示第二十四號

本市會ノ議決ヲ經東京府知事ノ許可ヲ受ケ市ノ收入金及支拂金ノ計算ニ關スル件左ノ通定メ大正二年度分ヨリ之ヲ適用ス

市ノ收入金又ハ支拂金ニ一錢未滿ノ端數アルトキ及內譯金額ニ一厘未滿ノ端數アルトキ其端數ハ之ヲ切捨ツ

前項ノ規定ヲ適用セサルモノハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

●收入支出金及俸給等日割計算方法

明治三十七年一月十一日助役通牒會發第二千六百七十三號二（各課長各區長宛）

收入支出金錢位ニ止ムル計算及ヒ俸給給料等ノ日割支給額打算方客年十二月二十五日（市參事會）ニ於テ左ノ通決議相成候ニ付本月十六日以後ノ收入及支拂金ハ該決議ニ基キ計算可相成候

收入支出金計算方法

一削除

（大正二年三月十三日市告示第二十四號ニ依リ削除）

俸給給料等日割支給額打算方法

一　年俸若クハ月俸額ヲ增減シタル場合ハ年俸ニアリテハ元年俸額ト增減年俸額トニ各支給スヘキ日數ヲ乘シテ合算シ其月ノ現日數ニ十二ノ數ヲ乘シタルモノヲ以テ之ヲ除シ得タル額ヲ、月俸ニアリテハ元月俸額ト增減月俸額トニ各支給スヘキ日數ヲ乘シテ合算シ之ヲ其月ノ現日數ニテ除シ得タル額ヲ以テ確定支給額トス

右及通牒候也

●收支命令書ニ押捺スヘキ印章雛形

明治三十三年十一月二十四日市訓令甲第六十七號（各課）

（市參事會）ヨリ收入役ニ交付スル收支命令書ニ押捺スヘキ印章左ノ通相定ム

東京市	方六分
收支命	字體篆書
令之印	

印章

●仕拂金領收證書式

明治三十一年十一月十四日會計課通牒會發第百六十七號（各課宛）

第二篇　類規　第十七類　會計　第一節　通規

市ノ各經濟仕拂金ハ請求書ノ外ニ領收證書ヲ徵シ來リ候處請求者ノ便宜ヲ計リ自今領收證書ヲ徵セス請求書ノ結尾ニ左記文字ヲ附記セシメ以テ金員受領ノ證ト爲スモノトス但結尾文字ヲ記スル爲メ更ニ用紙ヲ付スル場合ニハ請求書ト用紙トノ間ニ本人實印ヲ以テ契印ヲ押捺セシムルモノトス

結文式

前書ノ金額正ニ受領候也

年　月　日　　氏　名　印

●仕拂金代理請求ノ場合委任狀ニ課長檢印方

明治三十六年五月五日收入役通知會發第八百四十五號（各課長宛）

本市ノ仕拂金ヲ受クル債主ニシテ代理請求ノ場合ニ提出スル委任狀ノ印章ハ主務ノ課ニ於テ之ヲ認ラレタル證トシテ其委任狀表面ノ上部ニ課長ノ檢印ヲ押捺セラレ候樣致度此段申進候也

●收支命令書交付後權義承繼者ニ對シ收支執行方

明治三十八年三月二十九日市長命令會發第六百九十七號（市收入役宛）

一身ニ專屬スル權利義務ニ關スルモノノ外收支命令書ノ交付ヲ受ケタル後其納入又ハ債主ノ權義ニ承繼ノ事實ヲ生シタルトキハ承繼者ニ對シ收支ヲ執行スヘシ

右命令ス

●使用料及貸地料徵收額報告書ニ明細書添附方

明治三十八年四月七日
助役通牒會發第八百三十二號（各區長宛）

道路堤塘ノ使用料及河岸地其他ノ貸地料ニ係ル徵收額報告書ニハ自今左記ノ明細書ヲ添附相成度此段及通牒候也

一　道路堤塘ノ使用料徵收額報告書ニハ納入及納金額ノ明細書
二　河岸地其他ノ貸地料徵收額報告書ニハ前月分ニ對スル增減金額及增減ノ生シタル河岸名番地等明細書

●市吏員出張旅費支出經濟別

明治四十年九月十七日
助役通牒庶發第千四百十八號（各局課長宛）

本市吏員（名譽職員ヲ除ク）出張旅費ハ各其用向ノ屬スル經濟ヨリ支出シ其經濟ニシテ事務費ヲ設ケサルモノ及用向カ二經濟以上ニ跨ルトキハ出張吏員ノ俸給所屬經濟ヨリ支出スルコトニ決定相成候條依命及通牒候也

追テ同一經濟中數個ノ事務費アルモノハ右ニ準シ取扱フヘキ義ト被心得度候也

●郵便振替貯金特別取扱規則ニ依リ公金收納方

明治四十五年三月十二日
市會議決第五十四號

明治四十五年度分ヨリ郵便振替貯金特別取扱規則ニ依リ公金ノ收納ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

●郵便振替貯金特別取扱ニ關シ東京遞信管理局ト協定事項

（明治四十五年三月十四日
市長判決一發第二千六百七十八號）

東京市公金受拂ノ爲ニスル郵便振替貯金特別取扱ニ關シ東京遞信管理局ト東京市役所トノ間ニ於テ協定スルコト左ノ如シ

第一條　納稅告知書及徵稅令書等（以下單ニ令書ト稱ス）ハ振替貯金口座ノ異ナル毎ニ各部欄外上部ニ其口座番號ヲ1、2等ノ字體ニ依リ表示スルモノトス

令書ハ國稅ト其他ト識別ヲ容易ナラシムル爲國稅ハ白紙ニ赤刷スルモノトス

第二條　令書ノ合計金額ハ印顆ヲ以テ明瞭ニ押捺シ塗抹改竄等ヲ許ササルモノトス

第三條　令書ノ內譯金額ト合計金額ト符合セサル場合アルモ郵便局ニ於テハ令書ニ記載スル合計金額ニ依リ受入ヲ爲シタルモノト推定ス

第四條　郵便局ニ於テハ令書ノ合計金額カ告知書、領收書及原符等各部符合スルモノニ非ラサレハ之カ取扱ヲ爲ササルモノトス萬一領收ヲ爲シタル場合ハ告知書ノ金額ニ依リタルモノト推定ス

第五條　郵便局ニ於テハ徵稅額拾錢未滿ノモノト雖モ之カ取扱ヲ爲スモノトス

第六條　郵便局ニ於テハ納稅人ニ對シ釣錢ノ要求ニ應セサルコトヲ得ルモノトス

第七條　國稅ハ法定納期經過後ノ令書ニ對シ郵便局ハ之カ取扱ヲ爲サス但隨時收入ノモノニアリテハ其指定納期限リトシ其令書ニハ「特別納期」ナル文字ヲ表示スルモノトス

第八條　國稅以外ノ諸收納金ハ指定納期經過後ノ令書ニ對シテモ其指定期日ノ屬スル月ノ末日迄郵便局ハ之カ取扱ヲ爲スモノトス

第九條　管理局ニ於テ郵便局カ第七條ニ違反シテ國稅ノ受入ヲルコトヲ發見シタルトキハ其令書ヲ當該市、區役所ニ送付シ其市、區役所ノ通知ニ依リ相當處理スルモノトス

第十條　管理局ヨリ發スル拂込通知書ハ各受入令書取扱ノ翌日午後三時迄ニ當該市、區收入役宛ニ送付スルモノトス但日曜祭日ニ相當スルトキハ其翌日トス

管理局ハ前項ノ外尙區役所別受入金高ヲ可成速ニ市役所ニ通知スルモノトス

第十一條　市、區役所ニ於テ拂込通知書ニ添屬スル證據書ニ左記事故アルヲ發見シタルトキハ直ニ其旨ヲ電話ヲ以テ管理局ニ通知シ尙第一號ハ到達後三日以內第三號及第四號ハ卽日拂込通知書添附管理局ニ返戻シ第二號ノ場合ハ便宜更正シタル上交書ヲ以テ更ニ管理局ニ通知スルモノトス

一　拂込通知書記載ノ金額ト證據書ノ合計金額ト不符合ノ場合ハ其證據書全部
二　拂込通知書記載ノ口數ト證據書ノ數ト符合セサルトキ
三　證據書類中自己ノ口座ニ屬セサルモノアルトキハ該證據書
四　受入日附印押捺洩アルトキハ該證據書

第十二條　市役所ニ於テハ國稅以外ノ諸收納金ハ一箇年ヲ通シ可成郵便局取扱納稅件數ヲ平均セシムル樣納期ヲ定ムルモノトス

第十三條　市役所ニ於テ一時ニ多數ノ令書ヲ發行スルトキハ法令其他規定ノ許ス範圍內ニ於テ可成其發行期日ヲ繰上ケ置ク

モノトス

第十四條　市役所ニ於テ一定ノ納期アル令書ヲ發行セシトキハ其種類、口座、金額及納期ヲ直ニ管理局ニ通知シ又隨時ニ徵收スル令書ニ付テハ毎月其口數、金額ヲ總メ同局ニ通知スルモノトス

第十五條　市役所ハ振替貯金ニ依ラスシテ收納セシ口數、金額ハ各種類毎ニ月別トシ翌月中ニ管理局ニ通知スルモノトス

第十六條　卽時拂ハ市ノ指定シタル銀行ヲシテ東京中央郵便局ヨリ受領セシムルモノトス

●市公金受拂ノ爲ニスル郵便振替貯金卽時拂ニ關シ東京中央郵便局ト協定事項

（明治四十五年三月十九日市長判決一發第二千六百七十八號）

東京市公金受拂ノ爲ニスル郵便振替貯金卽時拂ニ關シ東京中央郵便局ト東京市役所ト協定スルコト左ノ如シ

第一條　市公金受拂ノ爲ニスル郵便振替貯金特別取扱規則第六條ノ二ニ依リ卽時拂戻ヲ爲サントスルトキハ左記各號ニ依ルモノトス

一　卽時拂戻金額ヲ當日午後二時迄（爲替取扱時間正午迄ノトキ及土曜日ハ午前十一時迄）ニ電話ヲ以テ中央郵便局ニ豫告スルコト

二　市役所ハ別記樣式ノ受領證ニ相當事項記入捺印ノ上最近受拂通知票ト共ニ公金取扱銀行ヘ交付シ同銀行ハ之カ相當欄ニ署名捺印ノ上中央郵便局ニ持參シ受拂通知票呈示卽時拂戻ノ旨申出ツルコト

三　中央郵便局ハ出納官吏現金取扱規則第六條ニ依ル引出切符ヲ發行シ前項受領證ト引換ニ之ヲ公金取扱銀行ニ交付スルコト

四　公金取扱銀行ハ前項引出場切符ニ依リ中央金庫ト交換計算ヲ爲スコト

第二條　市役所ニ於テハ卽時拂照査用トシテ受領證用紙見本及之ニ押捺スヘキ加入者ノ印鑑竝受領者ノ氏名及印鑑ヲ豫メ中央郵便局ニ届出置クモノトス

受領證用紙ハ豫メ逐號番號（年度毎ニ更新ノコト）ヲ印刷シ順次使用シ番號ヲ逐ハサルモノハ無效トスルモノトス但廢紙ト爲シタルモノハ之ヲ中央郵便局ニ交付シ同局ハ番號順ニ整理シ置クモノトス（大正二年四月四日二發第六百八十四號ヲ以テ市長ヨリ東京郵便局長宛照會ノ結果本項受領證用紙ハ甘番號ヲ年度毎ニ更新セサル旨差支ナキコトトナレリ）

第三條　卽時拂戻ハ日曜、大祭日、祝日ハ之カ取扱ヲ爲ササルモノトス

第四條　中央郵便局ニ於テハ第二條ノ受領證ヲ提出シタル者ヲ以テ正當權限アル者ト看做シ其拂渡ニ對シ一切其責ニ任セサルモノトス

（別記樣式略ス）

第二節　帳簿及科目整理

●市計算簿記樣式

明治三十六年三月五日市收入役、會計課）
市訓令甲第四號各區役所）

本市計算簿記樣式別冊ノ通相定メ明治三十六年度ヨリ施行ス

明治二十二年八月本市訓令第五十五號、同三十年三月本市訓令甲第二號附屬帳簿樣式ハ明治三十五年度限リ之ヲ廢止ス

（別冊）

（號一十四第）　明治　年　月　日

表在現券證價有（部雜）保擔

種目	現在額 圓	錢	円

明治　年　月末日（第三十九號）

明治　年度歲出月計表

費目	豫算額	支出額	豫算殘額
	円 錢 厘	円 錢 厘	円 錢 厘

明治　年　月　日（第四十號）

雜部金日計表

借 科目	現在額	貸 科目	現在額
	円 錢 厘		円 錢 厘

第三十八號
（明治四十五年三月二十七日市訓令甲第六號ヲ以テ本號改正）

歲入月計表

何區役所

年月日	摘要	調定額	收入額		不納缺損額	未收入額
			金庫收入	振替貯金收入		
		円	円	円	円	円

明治　年　月　日（第三十六號）

貸付金及預託金現在表

科目	貸付及預先	貸付又ハ預金種別	貸付又預入年月日	滿期年月日	期間	利子割合	貸付及預金額	合計
			月 日	月 日			円 錢 厘	円 錢 厘

明治　年　月　日（第三十七號）

基本財產及準備金現在表

借

科目	金額	科目	金額
	円 錢 厘		円 錢 厘

明治　年　月　日（第三十五號）（甲）

年度市各經濟（基本財產及準備金又ハ雜部金）現金受拂日計表

種目	前日ヨリ越高	受	拂	殘
	円 錢 厘	円 錢 厘	円 錢 厘	円 錢 厘

明治　年　月　日（第三十五號）（乙）

現金受拂日計表

種類	前日ヨリ越高	受	拂	殘
	円 錢 厘	円 錢 厘	円 錢 厘	円 錢 厘

明治　年　月　日（第三十三號）

明治　年度歲入歲出原簿計算表

借

科目	金額	科目	金額
	円 錢 厘		円 錢 厘

明治　年　月　日（第三十四號）

明治　年度各經濟歲入歲出現計表

科目	豫算額	收入又ハ支出額	殘額
	円 錢 厘	円 錢 厘	円 錢 厘

第三十二號）

雜部有價證券整理簿

何區役所

1

年月日	摘要	受入額	還付額	現在額
明治　年		円 錢 厘	円 錢 厘	円 錢 厘

第三十一號ノ三
（明治四十五年三月二十七日市訓令甲第六號ヲ以テ本號追加）

計量給水料徴納金整理簿

備考
1　第二十七號ノ記載ニ準ス
2　支出高ニハ拂戻及振替高ヲ記載ス
3　總括ヲ附スヘシ

1

年月日	摘要	調定額	收入額		未收入額	支出高	收支殘高
			金庫收入	振替貯金收入			
		円	円	円	円	円	円

第三十一號ノ二
（明治四十五年三月二十七日市訓令甲第六號ヲ以テ本號追加）

郵便振替貯金受拂簿

區役所

備考
種別毎ニ口座ヲ設ケ且總括ヲ附スヘシ

1

年月日	摘要	受	拂	殘	受入口數	拂出口數
		円	円	円		

（第三十一號）

雜部金整理簿

何區役所

1

年月日	摘要	受	拂	殘
明治　年		円　錢　厘	円　錢　厘	円　錢　厘

（第三十號）
（大正二年三月一日市訓令甲第四號ヲ以テ本簿中改正）

乙種支出金整理簿

何區役所

1

年月日	摘要	支出通知額	支出濟額	殘額	備考
明治　年		円　錢　厘	円　錢　厘	円　錢　厘	

（第二十九號）
（大正二年三月一日市訓令甲第四號ヲ以テ本號中改正）

甲種支出額整理簿

何區役所

1

年月日	摘要	豫算額	支出濟額	豫算殘額
明治　年		円　錢　厘	円　錢　厘	円　錢　厘

1

（第二十八號）

歳出內譯簿

何區役所

1

年月日	摘要	豫算額	支出額	豫算殘額
明治　年		円　錢　厘	円　錢　厘	円　錢　厘

（第二十七號）

（明治四十五年三月二十七日市訓令甲第六號ヲ以テ本號改正）

歳入內譯簿

何區役所

年月日	摘要	調定額	收入額		不納缺損額	未收入額
			金庫收入	振替貯金收入		
		円	円	円	円	円

（第二十六號）

擔保有價證券明細簿

東京市役所

年月日	摘要	證憑番號	證書番號	記入名	記番號	借方		貸方		殘高		顚末
						券面又ハ株數	價格	券面又ハ株數	價格	券面又ハ株數	價格	
明治年							円 錢 厘		円 錢 厘		円 錢 厘	

（第二十五號）

擔保有價證券內譯簿

東京市役所

1

年月日	摘要	受入額	還付額	現在額
明治　年		円　錢　厘	円　錢　厘	円　錢　厘

（第二十四號）

擔保有價證券主計簿

東京市役所

1

年月日	摘要	借	貸	借或貸	殘
明治　年		円　錢　厘	円　錢　厘		円　錢　厘

（第二十三號）

雜部金整理簿

東京市役所

1

年月日	摘要	受	拂	殘
明治　年		円　錢　厘	円　錢　厘	円　錢　厘

（第二十二號）

國稅金整理簿

東京市役所

1

年月日	摘要	受	拂	殘
明治　年		円　錢　厘	円　錢　厘	円　錢　厘

（第二十一號）

現金受拂簿

東京市役所

1

年月日	摘要	受	拂	殘
明治　年		円　錢　厘	円　錢　厘	円　錢　厘

（第二十號）

國稅金及雜部金主計簿

東京市役所

1

年月日	摘要	受	拂	殘
明治　年		円　錢　厘	円　錢　厘	円　錢　厘

（第十九號）

有價證券明細簿

東京市役所

1

年月日	摘要	證憑番號	書入證書番號	記名	記番號	借方 券面又ハ株數	借方 價格	貸方 券面又ハ株數	貸方 價格	殘高 券面又ハ株數	殘高 價格	末顧
							円 錢 厘		円 錢 厘		円 錢 厘	
明治 年												

1

（第十八號）
（乙）
（明治三十七年四月七日市訓令甲第十一號ヲ以テ本簿中改正）

貸付金及預託金整理簿

東京市役所

年月日	摘要	利子入收濟 月	利子入收濟 日	預金額	引出額	現在額	利子勘定 日數	利子勘定 利子合歩	利子勘定 積數	利子勘定 積數累計	利子額
				円 錢 厘	円 錢 厘	円 錢 厘			円	円	円 錢 厘
明治 年											

（第十八號）
（甲）

貸付金及預託金整理簿

東京市役所

1

年月日	摘要	預金額	引出額	現在額	滿期	月數	利子歩合	利子額	利子收入濟
明治 年		円 錢 厘	円 錢 厘	円 錢 厘	月 日			円 錢 厘	月 日

（第十七號）

基本財産（準備金）整理簿

東京市役所

1

年月日	摘要	借	貸	借貸	殘
明治 年		円 錢 厘	円 錢 厘		円 錢 厘

（第十六號）

現金受拂簿

東京市役所

1

年月日	摘要	受	拂	殘
明治　年		円　錢　厘	円　錢　厘	円　錢　厘

（第十五號）

基本財產及準備金主計簿

東京市役所

1

年月日	摘要	借	貸	借或貸	殘
明治　年		円　錢　厘	円　錢　厘		円　錢　厘

（第十四號）

有價證券明細簿

東京市役所

年月日	摘要	證憑番號	書入證書番號	記名	記番號	借方 券面又ハ株數	借方 價格	貸方 券面又ハ株數	貸方 價格	殘高 券面又ハ株數	殘高 價格	顛末
明治年							円 錢 厘		円 錢 厘		円 錢 厘	

（第十三號）（乙）

（明治三十七年四月七日市訓令甲第十一號ヲ以テ本簿中改正）

貸付金及預託金整理簿

東京市役所

年月日	摘要	利子收入濟	預金額	引出額	現在額	利子勘定 日數	利子勘定 利子歩合	利子勘定 積數	利子勘定 積數累計	利子額
明治年		月 日	円 錢 厘	円 錢 厘	円 錢 厘			円	円	円 錢 厘

1 1

（第十三號）
（甲）

貸付金及預託金整理簿

東京市役所

年月日		摘要	預金額			引出額			現在額			滿期		月數	利子歩合	利子額			利子收入濟	
明治	年		円	錢	厘	円	錢	厘	円	錢	厘	月	日			円	錢	厘	月	日

1

（第十二號）

概算支出整理簿

東京市役所

年月日		摘要	精算濟月日		概算支出額			精算濟額			戻入額			未精算額		
明治	年		月	日	円	錢	厘	円	錢	厘	円	錢	厘	円	錢	厘

（第十一號）

（大正二年三月一日市訓令甲第四號ヲ以テ本簿式削除）

（第十號）

歳入調定報告整理簿

東京市役所

1

年月日	摘要	調定額	收入額	不納缺損額	未收入額
明治　年		円　錢　厘	円　錢　厘	円　錢　厘	円　錢

1

（第九號）

支出金報告整理簿

東京市役所

年月日	摘要	市金庫支出報告額			區役所支出報告額			差額		
		円	錢	厘	円	錢	厘	円	錢	厘
明治　年										

1

（第八號）
（明治四十五年三月二十七日市訓令甲第六號ヲ以テ本號改正）

收入金及拂戻金報告整理簿

（備考）
（一）市金庫及區役所ノ報告ニ依リ收入金及拂戻金ヲ整理ス

年月日	摘要	收入			拂戻	區役所收入報告高	殘
		金庫收入高	郵便振替貯金收入高				
		円	円		円	円	円

（第七號）
（大正二年三月一日市訓令甲第四號ヲ以テ本號中改正）

豫算令達額整理簿

東京市役所

1

年月日	摘要	豫算額	支出額	豫算殘額
明治　年		円　銭　厘	円　銭　厘	円　銭　厘

（第六號）

豫備費整理簿

東京市役所

1

年月月	摘要	豫算額	補充額	殘額
明治　年		円　銭　厘	円　銭　厘	円　銭　厘

1

（第五號）

歲出內譯簿

東京市役所

年月日		摘要	豫算額						支出額					豫算殘額		
			決定			豫備費補充及流用增減			支出濟							
明治	年		円	錢	厘	円	錢	厘	月	日	円	錢	厘	円	錢	厘

1

（第四號）

歲入內譯簿

東京市役所

年月日		摘要	豫算額			收入額			差額		
明治	年		円	錢	厘	円	錢	厘	円	錢	厘

1

（第三號ノ三）

（明治四十五年三月二十七日市訓令甲第六號ヲ以テ本號追加）

郵便振替貯金受拂高整理簿

東京市役所

年月日	摘要	受	拂	殘	備考	
					受入口數	拂出口數
		円	円	円		

1

（第三號ノ二）

（明治四十五年三月二十七日市訓令甲第六號ヲ以テ本號追加）

郵便振替貯金受拂簿

東京市役所

（備考）　各經濟別ニ口座ヲ設ケ總括ヲ附スヘシ

年月日	摘要	受高	拂高	殘	備考
		円	円	円	

（第三號）

現金受拂簿

東京市役所

1

年月日	摘要	受	拂	殘
明治　年		円　錢　厘	円　錢　厘	円　錢　厘

（第二號）

原　　　　　　簿

東京市役所

1

年月日	摘要	日記丁數	借	貸	借或貸	殘
明治　年			円　錢　厘	円　錢　厘		円　錢　厘

（第一號）

日記簿

東京市役所

（本簿式中◎印アル縦線ハ藍色）

1 明治 年 月 日 1

借							貸						
原簿丁數	円	錢	厘	円	錢	厘	原簿丁數	円	錢	厘	円	錢	厘

簿記ニ依リ調製スル表記

第三十三號　歳入歳出原簿計算表
一　第二號ニ依リ其殘高ヲ記載シ一箇月二回之ヲ調製スヘシ
第三十四號　歳入歳出現計表
一　第二號ニ依リ各經濟ヲ區分シ毎月末日之ヲ調製スヘシ
二　歳入歳出各別ニ合計シ末尾ヘ收入支出ノ差額ヲ掲クヘシ
第三十五號　現金受拂日計表
一　第三號、第十六號及第二十一號ニ依リ各別調製シ又其合計ヲ掲ケタルモノヲ調製スヘシ
第三十六號　貸付金及預託金現在表
一　第十三號及第十八號ニ依リ毎月三回之ヲ調製スヘシ
二　經濟別及財産種別ニ依リ小計ヲ附スヘシ
第三十七號　基本財産及準備金現在表
一　第十五號及第十七號ニ依リ毎月末日之ヲ調製スヘシ
第三十八號　歳入月計表（明治四十五年三月二十七日市訓令甲第六號ヲ以テ本表樣式中改正）
一　第二十七號ニ依リ調製スヘシ
第三十九號　歳出月計表
一　第二十八號ニ依リ調製スヘシ
第四十號　雜部金日計表
一　第三十一號ニ依リ調製スヘシ
二　現在高ヲ掲クヘシ
第四十一號　擔保（雜部）有價證券現在表
一　第二十五號又ハ第三十二號ニ依リ毎月末日之ヲ調製スヘシ
二　第二十五號ニ依ルモノハ擔保種別ニ依リ小計ヲ附スヘシ
簿記帳簿ハ第十四號、第十九號及第二十六號ヲ除クノ外毎年度之ヲ調製スヘシ
簿記ハ收支命令書及證據ト爲スヘキ書類ニ依ルニ非サレハ記帳スルヲ得ス

第十號　歲入調定報告整理簿
一　區役所ノ報告ニ依リ歲入調定額ヲ整理ス
二　第四號ノ記載ニ準ス
三　區役所別ニ總括ヲ附スヘシ
第十一號　（大正二年三月一日市訓令甲第四號ヲ以テ削除）
第十二號　概算支出整理簿
一　概算支出ヲ爲シタル經費ヲ整理ス
二　第三號ノ記載ニ準ス
第十三號　貸付金及預託金整理簿（明治三十七年四月七日市訓令甲第十一號ヲ以テ本簿乙申改正）
一　貸付金、定期預金、當座預金及之ニ對スル利息ヲ整理ス
二　第三號ノ記載ニ準ス
第十四號　有價證券明細簿
一　經濟別及證券ノ種別ニ依リテ數年度繼續整理ス
二　第三號ノ記載ニ準ス

基本財産及準備金ニ屬スルモノ

第十五號　基本財産及準備金主計簿
一　財産種別ニ依リ日日ノ金錢及有價證券ノ出納ヲ記帳シ一箇年度間ノ收支ヲ整理ス
二　第四號及第五號ノ記載ニ準ス
三　總括ヲ附スヘシ
第十六號　現金受拂簿
一　整理及記載共第三號ニ準ス
第十七號　基本財産（準備金）整理簿
一　財産種別ニ依リ內譯ヲ爲シ一箇年度間ノ收支ヲ整理ス
二　第四號及第五號ノ記載ニ準ス
三　財産ノ種別ニ依リ總括ヲ附スヘシ
第十八號　貸付金及預託金整理簿（明治三十七年四月七日市訓令甲第十一號ヲ以テ本簿乙申改正）
一　整理及記載共第十三號ニ準ス
第十九號　有價證券明細簿
一　整理及記載共第十四號ニ準ス

國稅金及雜部ニ屬スルモノ

第二十號　國稅金及雜部金主計簿
一　國稅金、市役所雜部金及區役所雜部金ヲ區分シ日日ノ金錢出納ヲ整理ス
二　第三號ノ記載ニ準ス
三　總括ヲ附スヘシ
第二十一號　現金受拂簿
一　整理及記載共第三號ニ準ス
第二十二號　國稅金整理簿
一　區役所別ニ依リ受拂ヲ整理ス
二　第三號ノ記載ニ準ス
三　總括ヲ附スヘシ

第二十三號　雜部金整理簿
一　區役所別又ハ種別ニ依リ整理ス
二　第三號ノ記載ニ準ス
三　總括ヲ附スヘシ
第二十四號　擔保有價證券主計簿
一　擔保種別及證券種別ニ依リ受拂ヲ整理ス
二　第三號ノ記載ニ準ス
第二十五號　擔保有價證券內譯簿
一　擔保提供者別、擔保種別及證券種別ニ依リテ受拂ヲ整理ス
二　第三號ノ記載ニ準ス
第二十六號　擔保有價證券明細簿
一　整理及記載共第十四號ニ準ス

區役所ニ於テ設備スヘキ帳簿

歲入歲出ニ屬スルモノ

第二十七號　歲入內譯簿（明治四十五年三月二十七日市訓令甲第六號ヲ本簿式改正）
一　細科目ニ依リ調定額、收入額、缺損額及未收入額ヲ整理ス
二　第四號ノ記載ニ準ス
三　納期ノ一定シタルモノハ之ヲ各納期毎ニ區分スヘシ但月次徵收ノモノハ此限ニ在ラス
四　款毎ニ總括ヲ附スヘシ（明治三十八年三月十六日市訓令甲第五號ヲ以テ本號中「三」ヲ改正シ「四」ヲ追加シ三十八年度ヨリ施行ス）
第二十八號　歲出內譯簿
一　細科目ニ依リ豫算及之ニ對スル支出金ヲ整理ス
二　第五號ノ記載ニ準ス
第二十九號　甲種支出額整理簿（大正二年三月一日市訓令甲第四號ヲ以テ本號中改正）
一　削除
二　第五號ノ記載ニ準ス
第三十號　乙種支出金整理簿（大正二年三月一日市訓令甲第四號ヲ以テ本號中改正）
一　豫算ニ依ラサル支出ヲ整理ス
二　第五號ノ記載ニ準ス

雜部ニ屬スルモノ

第三十一號　雜部金整理簿
一　整理記載共ニ第二十三號ニ準ス
第三十一號ノ二　郵便振替貯金受拂簿（明治四十五年三月二十七日市訓令甲第六號ヲ以テ本號追加）
一　第二十三號ノ記載ニ準ス
第三十一號ノ三　計量給水料豫納金整理簿（明治四十五年三月二十七日市訓令甲第六號ヲ以テ本號追加）
一　第二十七號ノ記載ニ準ス
二　支出高ニハ拂戻及振替高ヲ記載ス
三　總括ヲ附スヘシ
第三十二號　雜部有價證券整理簿
一　整理記載共ニ第二十五號ニ準ス

東京市計算簿記様式

市役所ニ於テ設備スヘキ帳簿
歳入歳出ニ屬スルモノ

第一號　日記簿
一　歳入、歳出ノ豫算、同豫算差額及歳入、歳出ニ屬スル金錢、有價證券ノ出納ヲ各經濟別ニ區分シ日日記帳シ原簿記帳ノ基本ト爲ス
二　豫算減額、歳入還付、歳出戻入及更正等ニ係ルモノハ其事項及金額ヲ朱書スヘシ

第二號　原簿
一　日記簿ノ記帳ヲ轉載シ歳入歳出ヲ整理ス
二　追次又ハ合計ヲ爲ストキハ反對ノ欄ノ朱書金額ヲ黑書金額ヨリ控除スヘシ以下之ニ準ス
三　簿首ニ各口座ノ索引ヲ附シ又出納完整後直ニ各口座トモ結算スヘシ以下之ニ準ス
四　殘ノ欄ニ記載スヘキ金額ナキトキハ零ヲ黑書スヘシ以下之ニ準ス
五　豫算ニ對シ實收入額ノ超過シタルトキハ其額ヲ殘ノ欄ニ朱書スヘシ以下之ニ準ス

第三號　現金受拂簿
一　各經濟ヲ區別シ日日ノ金錢出納ヲ整理ス
二　更正ニ係ル金額及事項ハ朱書シ追次又ハ合計ヲ爲ス際其欄ノ黑書金額ヨリ控除スヘシ

第三號ノ二　郵便振替貯金受拂簿（明治四十五年三月二十七日訓令甲第六號ヲ以テ本簿及第三號ノ三追加）
一　第三號ノ記載ニ準ス

第三號ノ三　郵便振替貯金受拂高整理簿
一　區役所及種別毎ニ口座ヲ設ケ整理スヘシ
二　第三號ノ記載ニ準ス

第四號　歳入内譯簿
一　豫算表ニ記載スル細科目ニ依リ歳入豫算及之ニ對スル收入ヲ整理ス
二　豫算減額、還付額及更正額ハ金額事項共ニ朱書シ追次又ハ合計ヲ爲ス際其欄ノ黑書金額ヨリ控除スヘシ

第五號　歳出内譯簿
一　前號ニ準シ歳出豫算及之ニ對スル支出ヲ整理ス
二　豫算減額、戻入額、流用減、豫備費補充減及更正額ハ金額事項共ニ朱書シ追次又ハ合計ヲ爲ス際其欄ノ黑書金額ヨリ控除スヘシ

第六號　豫備費整理簿
一　豫算表ニ記載スル豫備費及之ニ準スヘキ經費ヲ整理ス
二　豫算減額及更正ニ係ル金額、事項ハ朱書シ其他前號ニ準ス

第七號　豫算令達額整理簿（明治三十七年四月七日市訓令甲第十一號ヲ以本簿中改正及大正二年三月一日市訓令甲第四號ヲ以本號中更ニ改正）
一　區役所ニ於ケル支出金ヲ整理ス
二　第五號ノ記載ニ準ス

第八號　收入金及拂戻金報告整理簿（明治四十五年三月二十七日市訓令甲第六號ヲ以テ本號改正）
一　市金庫及區役所ノ報告ニ依リ收入金及拂戻金ヲ整理ス

第九號　支出金報告整理簿
一　前號ニ準シ支出金ヲ整理ス
二　第五號ノ記載ニ準ス
三　總括ヲ附スヘシ

區役所計算簿記整理手續

（明治三十六年三月二十三日市訓令甲第六號（各區役所））

區役所計算簿記整理手續左ノ通定メ明治三十六年度ヨリ之ヲ施行ス

明治二十九年三月本市訓令甲第一號及明治二十二年五月本市訓令甲第十六號ハ明治三十五年度限リ之ヲ廢止ス

區役所計算簿記整理手續

歳入内譯簿

一　總括ハ各款ノ名ヲ以テ口座ト爲シ一箇年度ヲ通シテ之ヲ設クヘシ

二　月稅、月次徵收ノモノ、日稅及隨時徵收（月稅及月次徵收ノモノハ其他ノモノト區分シ各別ニ口座ヲ設クヘシノモノヲ除ク）

三　（明治三十八年三月十六日市訓令甲第五號ヲ以テ削除）

四　年月日ノ欄ニ記載スル數字ハ一、二、三、十等ノ文字ヲ用フヘシ以下之ニ準ス

五　摘要欄ニハ調定額、收入額、缺損額、何何ニ依リ調定減額何何ニ依リ還付額、何何ニ依リ何何額更正ト記載スヘシ

歳出内譯簿

一　摘要欄ニハ豫算額ニ屬スルモノハ豫算令達額、豫算令達增（減）額、何何（科目）ヨリ（ヘ）流用ト記載シ支出額ニ屬スルモノハ支出又ハ戻入ノ原因及債主又ハ納入等ヲ詳記シ更正ノ場合ハ何何ニ依リ何何額更正ト記載スヘシ

甲種支出額整理簿（大正二年三月市訓令甲第四號ニ基キ訂正）

一　（明治二十八年八月二十三日市告示第六十九號會計規程施行細則第三十六條及第四十五條ニ依リ自然消滅）

二　摘要欄ニハ豫算令達額、豫算令達增（減）額、支出額、支出額戻入、何何ニ依リ何何額更正ト記載スヘシ

乙種支出金整理簿（大正二年三月市訓令甲第四號ニ基キ訂正）

一　經濟別ニ依リ口座ヲ設クヘシ

二　摘要欄ニハ支出通知額第何號、支出通知減額第何號、何號通知（ノ内）支出濟何誰渡、何何ニ依リ何何額更正ト記載スヘシ

三　備考欄ニハ支出通知額ノ支出濟月日等支出通知額及支出濟額ニ關シ參考トナルヘキ事項ヲ記載スヘシ

雜部金整理簿（明治三十八年三月十六日市訓令甲第五號及同四十四年三月二十五日市訓令甲第八號ヲ以テ本簿中改正）

一　各種別ニ依リ口座ヲ設クヘシ

二　摘要欄ニハ受、拂又ハ更正ノ原因及納付者、受領者ヲ詳記スヘシ

雜部有價證券整理簿

一　公債、株券ヲ區分シ公債、株券等トシテ口座ヲ設クヘシ

二　摘要欄ニハ受入、還付又ハ更正ノ原因及證券ノ員數、番號等ヲ詳記スヘシ

歳入月計表

一　歲入內譯簿ノ各口座ニ依リテ科目ヲ記載シ調定額、收入額、不納缺損額、未收入額ノ現況ヲ登記スヘシ

二　各款及各項等ニ依リ合計ヲ附シ經濟ニ依リ總計ヲ附スヘシ（明治三十八年三月十六日市訓令甲第五號ヲ以テ「及各項等」ノ四字削除）

歲出月計表

一　歲入月計表ニ準ス

雜部金日計表

一　雜部金整理簿總括ノ口座ヲ借方ニ登記シ各內譯ノ口座ヲ貸方ニ登記スヘシ

雜部有價證券現在表

一　雜部有價證券整理簿ノ各口座ニ依リテ登記シ合計ヲ附スヘシ

帳簿及表記ノ金額ヲ記入スヘキ欄ハ圓位ノ單位、十位、百位等ヲ區分スル爲靑線ヲ設クヘシ

區役所諸收納事務取扱手續

大正元年十二月二日（各區役所）市訓令甲第十六號（第二部）

第一條　諸稅其他ノ收納簿ニハ町別、種別又ハ冊別每ニ集計用紙ヲ編綴シ調定額及督促額其他ノ事項ヲ登記スヘシ但町別、種別ニ依リ集計ノ必要ナキモノハ之ヲ省略スルコトヲ得

第二條　納稅告知書、徵稅令書又ハ納額告知書等ヲ發シタルトキハ其種別、金額、口數及指定納期日ヲ東京遞信管理局ニ通知スヘシ但隨時收入ハ每月ノ豫定額ヲ通知スヘシ

第三條　金庫又ハ郵便官署ヨリ納入濟通知書ヲ收受シタルトキハ遲クモ三日以內ニ收納簿其他ノ關係帳簿ニ登記スヘシ但郵便官署ニ於テ受入タルモノハ收納簿領收月日ノ上ニ局ノ一字ヲ附記スヘシ

納入濟通知書ハ金庫收入、振替貯金收入及科目別トシ之ニ收入日表ヲ附スヘシ

第四條　納期限ヲ經過シタルトキハ收納簿ノ未納額ヲ合計シ歲入內譯簿ニ於ケル未收入額ト照查ノ上納期後遲クモ十五日以內ニ督促狀ヲ發付スヘシ

第五條　督促狀發付月日及指定納期日其他必要ナル事項ハ收納簿摘要欄ニ督促手數料ハ其納期收納金額欄左端ニ朱書スヘシ但督促狀發付月日及指定期日ハ之ヲ簿首ニ記載シ各人欄ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

第六條　督促狀ノ指定期限ハ發付ノ日ヨリ七日以內トシ其期限迄ニ完納セサルモノアルトキハ爾後五日以內ニ滯納票ヲ調製シ速ニ其處分ニ著手スヘシ

第七條　財產ノ差押處分ヲ爲シタルトキハ滯納處分臺帳ニ登記スヘシ出納閉鎖迄ニ其處分ノ結了ニ至ラサルモノ亦同シ

第八條　令書及督促狀發付其他滯處納分ニ關スル事項ハ左ノ帳簿ニ依リ之ヲ處理スヘシ

一　令書、督促狀發付及收入月計高登記簿
二　滯納票授受及處分成績簿
三　滯納金領收證用紙受拂簿
四　差押調書用紙受拂簿
五　現金受拂簿
六　滯納處分吏員出張及復命簿

第九條　區長ハ左ノ報告書ヲ調製シ各其指定期限迄ニ之ヲ市長ニ提出スヘシ

一	每月金庫收入高報告書	翌月十日限
二	每月末日現在歲入歲出外現金額報告書	同上
三	每半期國稅金中央金庫拂込高報告書	前期分十月七日限後期分四月七日限
四	每半期督促手數料收入高報告書	同上
五	每納期內收納成績報告書	納期後十日限
六	每年度滯納處分成績報告書	出納閉鎖後三十日限

第十條　區收入役ハ每月振替貯金口座受拂口數報告書ヲ調製シ翌月十日迄ニ之ヲ市收入役ニ提出スヘシ

第十一條　郵便振替貯金ノ特別取扱ニ關シテハ本手續ニ定ムルモノノ外東京遞信管理局及東京中央郵便局ト協定シタル所ニ依リ處理スヘシ

附　則

明治三十四年八月市訓令甲第四十一號諸稅滯納者筆帳樣式同三十八年九月市訓令甲第四十二號國稅徵收金取扱竝計量給水料豫納金區役所雜部金現在額定期報告方及本手續ニ牴觸スル從前ノ規定ハ之ヲ廢止ス

樣式

一　收入日表
二　滯納票
三　滯納金領收證書
四　差押調書
五　滯納金領收證用紙受拂簿
六　現金受拂簿
七　滯納處分臺帳
八　滯納票受授及處分成績簿
九　令書督促狀發付及收入月計登記簿
十　收納簿集計用紙
十一　滯納處分吏員出張及復命簿
十二　令書發付高通知書
十三　金庫收入高報告書
十四　歲入歲出外現金額報告書
十五　振替貯金口座受拂口數報告書
十六　收納成績報告書
十七　滯納處分成績報告書
十八　國稅金中央金庫拂込報告書
十九　督促手數料收入高報告書

用紙美濃

滯納處分臺帳

第　　號

年度
府税（又ハ何何）
市税（同）
區市税（同）
計
督促手數料

期分
円
月　日拂込

收納簿番號　第　　號
滯納票番號　第　　號
差押月日　　月　　日
何　何
同
同
同

住所氏名
　　町　　番地
　　　　氏　　名

事　　由

（備　考）
一　本簿ニハ物件ノ差押ヲ爲シタルトキ登記スルコト
二　本簿ニ依リ納入完了シタルモノモ收納簿ニ收納登記ノコト
三　繰越ニ係ルモノハ總テ本簿ニ依リ整理ノコト

第　　號

收入日表

區收入役
掛長（主務）
掛長（主務）
主任
主任

年度
期別
科目
（府税營業税及同附加又ハ何何）

收入月日　月　日
受理月日（郵便局扱分）
登記月日　月　日

府税（又ハ何何）　円
市税（又ハ何何）　円
「何何」　円
「何何」　円
計　円
口數

備　　考

（備　考）
一　番號ハ科目別ニ逐號番號ヲ附スルコト
二　科目ハ府税ノ區分ニ依リ調製シ市税ノ科目區分ニ依ル金額等ハ本樣式ニ準シ別ニ調製添附スルコト
三　月計表モ本表ニ準シ調製ノコト
四　炭酸紙複寫紙ニ依リ二通ヲ作リ其一通ハ内譯簿登記證憑ニ添附ノコト

滯納金領收證書

第　　號

納人
　　町　　番地
　　　　氏　　名

一金　　滯納金及督促手數料

内譯

年度
期別
種別
金額　円

右前記住所地ニ於テ領收候也

年　月　日

東京市「何」區役所
滯納處分吏「何　某」㊞

（備　考）
一　番號ハ印刷トシ筆書ヲ許サス
二　炭酸複寫紙ニ依リ正副二通ヲ作リ其一通ハ之ヲ保存スルコト
三　書損紙ハ切取ルコトヲ得ス
四　一册ハ百枚綴ト爲スコト

用紙寸法縱四寸八分横三寸四分

滯納票

第　號

目科	分期		年度	
（項又ハ目）	日月	付發狀促督	額金	別種
	日月	期納定指	四	何何ハ又）税府
	日月	告公		（同）税市
	號第	號番簿納收		税市屬所區
	日月	日月收領		計
	號第	號番書證收領		料數手促督
	日月	日月込拂		

町番地

氏名

月日	事由	主任認印
月日		

（備考）

一　事由欄ニハ處分事由ヲ詳記シ且差押ヲ爲シタルトキハ其調書番號ヲ記載スルコト

二　所在不明ノモノハ其調査ノ顚末ヲ記入スルコト

三　本票ハ科目毎ニ逐號番號ヲ改メ之ヲ附スルコト但款ニ依リ之ヲ附スルモ妨ナシ

四　事由欄ノ餘白ナキニ至リタルトキハ裏面ニ記載スルコト

用紙半紙

（第　號）　差押調書

何何滯納ニ付　月　日　本人　立會ノ上前期ノ財産ヲ差押フル者也

年　月　日　ニ於テ此調書ヲ作ル

東京市「何」區役所

滯納處分吏員　何　某印

立會人　何　某印

差押物件保管事項	表書差押財産保管被命封印ノ儘無償ヲ以テ御預申候御用ノ節ハ御通知次第何時ニテモ差出可申候也 年　月　日
物件還付受領事項	本書差押物件還付相成正ニ領收候也 年　月　日

（備考）

複寫紙ニ依リ正副二通ヲ作製スルコト

用紙半紙　滯納金領收證用紙受拂簿

月日	交付	受領者印	使用	返納	受領者印	備考
	自號 至號 一冊		自號 至號 何枚	「何」號 以下一冊		

（備考）
一　總數及其異動ハ備考欄ニ記入ノコト
二　毎月使用高ヲ合計シ累計ヲ附スルコト
三　差押調書用紙ノ受拂モ本樣式ニ準シ調製ノコト

用紙美濃　現金受拂簿

檢印		領收	府稅	市稅	「何何」	計	檢印		拂込月日	備考
區長	掛長	月日	（又ハ何何）	（又ハ何何）			區長	掛長	拂込書番號	
		何外 何名分								處分吏氏名

（備考）
一　毎月合計シ累計ヲ附スルコト
一　處分吏員別ニ調製スルコトヲ得

用紙半紙　滯納票受授及處分成績簿

月日	滯納票總數	交付枚	受領印	返納枚	受領印	完結	處分中 著手	處分中 未著手	備考

（備考）
一　滯納票ノ科目及期別ニ依リ口座ヲ區分スルコト
二　完結ニハ缺損處分ヲモ含ム
三　徵收囑託中ノモノハ未著手トシ備考ニ其枚數ヲ記入スルコト
四　著手欄ニハ差押及缺損處分中ノモノヲ掲クルコト
五　處分中ノ欄ハ少クモ毎月二回（十五日及末日）之ヲ掲記スルコト

用紙美濃　令書督促狀發付及收入月計高登記簿

發付高								收入高							
月日	摘要	府稅	市稅	何何	計	口數		月日	摘要	府稅	市稅	「何何」	計	口數	
四月五日	令書一ノ部							四月中	金庫局						
五月五日	同　二ノ部							五月中	同						
六月	日　同　三ノ部							六月中	同						
七月十日	督促狀							七月九日迄計	同						
同十五日	同							七月十日以後同月中	同						

（備考）
一　科目（項又ハ目）期別毎ニ口座ヲ設クルコト但月次及隨時收入ハ前後ノ兩期ニ區分スルコト
二　府稅ノ科目區分ニ依リ區分スルヲ妨ケス
三　發付高ノ減ハ一箇月取纏メ朱書スルコト
四　收入高ハ納入濟通知書ニ添付ノ收入月表ニ依リ記入スルコト
五　本簿ハ各別ニ調製スルコトヲ得

用紙美濃　収納簿集計用紙　（期別）

月日	國税	府税	市税	市税内譯 市税	市税内譯 市区改正特別税	區所屬市税	口數	備考
四月五日	一〇〇〇円	二〇〇〇円	三〇〇〇円	二〇〇〇	一〇〇〇	五〇〇〇	六〇	
同七日	一〇〇〇	二〇〇〇	三〇〇〇	二〇〇〇	一〇〇〇	五〇〇〇		集計違算發見增
同十日								何何ニ依リ減
五月末日滯納額								國税滯納報告
六月末日現在								府税以下滯納額
七月七日								督促狀發付
月日								缺損處分
月日								繰越

（備考）

一　本用紙ハ收納簿町別、種別、冊別毎ニ編綴シ總計ヲ附スルコト

二　期別毎ニ別紙ト爲スコト但月次及隨時收入ハ此限ニ在ラス

三　減額ハ金額事由共ニ朱書シ且其事由ハ之ヲ詳記スルコト

四　地租附加、家屋税、府税營業税、雜種税、不動産取得税等ニハ其標準額欄ヲ設ケ記載スルコト

五　税外諸收入モ本樣式ニ準ス

滯納處分吏員出張及復命簿

出張命令					
區長	掛長	主任			
年月日「何時」出發 年月日「何時」歸所					
滯納票數	戸數				
出張區域					
復命					
出張者職氏名	氏名㊞				
出張票	戸數				
	票數				
處分濟	戸數				
	票數				
通貨提供	戸數	票數	金額 円		
物件差押	同	票數			
住所移轉又ハ不明	同	同			
無資産處分	同	同			
何何	同	同			
出張未濟	同	同			
右之通					
區長	掛長				

（備考）

一　出張區域ハ出張順ニ記載スルコト

二　處分濟戸數及票數中ニハ通貨提供、物件差押及缺損處分ヲ合算記入ノコト

三　本簿ハ出張吏員別ニ調製スルコトヲ得

用紙半紙　令書發付高通知書

種別	金額	口數	備考
國稅何稅	円		（發付月日）
府稅何稅			
市稅何稅			
區所屬市所稅（何何）			
何何			

右之通候也

年　月　日

遞信管理局宛

（備考）

一　口數ハ各種ニ通シ重複セサルモノヲ揭クルコト

用紙半紙　年　月分金庫收入高報告書

種別	前月迄累計 金額	口數	本月分 金額	口數	合計 金額	口數	備考
國稅	円		円		円		
府稅							
市稅							
區所屬市稅							

右及報告候也

年　月　日

市長

區長　宛

（備考）

一　口數ハ令書ノ枚數トス

二　府稅市稅等令書ニ合記スルモノハ府稅欄ニ其口數ヲ記入シ市稅欄ニハ之ト重複セサル口數ノミヲ記入ノコト

用紙半紙　年　月　末日現在歲入歲出外現金額報告書

種別	金庫現在	振替貯金現在	計	備考
國稅	円	円	円	
計量給水料				
豫納金				
雜部金				
計				

右及報告候也

年　月　日

市長

區長　宛

稅外諸收入
計

用紙半紙

年　月分振替貯金口座受拂口數報告書

種別	口數	補正拂口數	補正受入口數	備考
郵便局受入				
振替受入				
即時拂出				
振替拂出				
計				

右及報告候也

年　月　日　　　區收入役

市收入役宛

（備考）

一　郵便局受入ハ振替貯金受拂通知票ノ現金受入レ即時拂出ハ現金拂出ニ相當ス

二　本表ハ振替貯金受拂通知票ノ日付印ニ依リ月ノ區分ヲ爲スコト

三　本表ノ類別ニ入ラサルモノハ備考欄ニ記入スルコト

用紙美濃

年度　期分收納成績報告書　府税營業税（又ハ何）

種別	調定額	口數	收入額		口數	收入歩合	金庫振替收入歩合	備考
府税	円		金庫					
			振替					
市税			同					
			同					
何何			同					
			同					

區所屬			同	
市税			同	

（備考）

一　本表中收入歩合ハ府税、市税同額ナルトキハ府税欄ニ記載シ他ハ之ヲ省略スルコト

二　府税營業税及雜種税ハ市税ノ科目區分ニ依ル

三　本表ハ納期限後十日以内ニ提出ノコト

四　本表ニ依リ調製スヘキ種類左ノ如シ

（國税、府税、市税、以下各種、水道使用料（水道使用料ノ種別ハ款ニ依リ調製ノコト）

用紙美濃

年度「何何」（家屋税附加又ハ何何）滯納處分成績報告書　（前期又ハ後期）

種別	金額／人員	滯納額	滯納後督促狀發付前收入	督促狀發付高	督促後收入	督促後收入ノ内 差押ヲ爲シ處分決行セシモノ徵收ノモノ	督促後收入ノ内 其他	缺損	繰越	備考
市税		円	円	円	円	円	円	円	円	
市區改正特別税										
區所屬市税										

（備考）

一　科目及期別ニ調製ノコト但月税隨時收入及過年度所屬ハ一箇年度ヲ通シ一表ニ調製ノコト

二　過年度所屬ハ滯納額欄ニ繰越額ヲ掲記ノコト

三　督促後收入中其他欄ニハ任意納付、通貨提供欄ニ納入及徵收囑託收入ヲ合算記入ノコト

四　人員ハ各種ヲ通シ同一ナルトキハ市税欄ノミニ記入シ差額アルトキハ其額ノミヲ當該欄ニ記入ス

五　本表ハ出納閉鎖後二十日以內ニ提出ノコト

（用紙半紙）

年自四月（自十月）
至九月（至三月）國稅金中央金庫拂込高報告書

種別	何（税目）	何	同	計
收入高				
過誤納金				
差引拂込高				
備考				

右及報告候也

年　月　日

市　長　區　長　宛

用紙半紙

年度前期（又ハ後期）督促手數料收入高報告書

摘要	金額	備考
自　月 至　月	円	

右及報告候也

年　月　日

市　長　區　長　宛

●水道土木工事中發掘ノ人骨埋葬費用支辨方

明治三十一年十一月二十一日
助役通牒内四乙第四千六百十五號ノ六（各區長宛）

水道又ハ土木工事中發掘シタル人骨ニシテ警察署ヨリ引繼ヲ受ケ之カ埋葬費用ヲ救助費ヨリ仕拂タル向モ有之候處右費用ハ工事所屬ノ費用ヨリ支辨スヘキモノニシテ區役所ニ於テ取扱ヲ要セサル儀ニ付爲念此段及通牒候也

●計量栓水料翌年度ニ調定シタルモノ收入整理方

明治三十八年三月十日會計
市訓令甲第四號（各區役所）

計量栓第四期水料ニシテ翌年度ニ調定ヲ爲シタルモノハ之ヲ其調定日所屬年度ノ當該科目（計量水料）ニ收入整理スヘシ右ノ場合ニ於テハ徵收令書中年度欄ニ其調定シタル年度期別欄ニ何年度第四期ト記載シ發付スヘシ

●府稅滯納處分ニ依リ領收シタル現金出納及拂込ニ關シ處理方

大正二年四月五日
助役通牒二發第六百五十六號（各區長宛）

府稅滯納處分ニ依リ領收シタル現金ノ出納及其拂込ニ關シ府知事ノ認可ヲ經候條本年四月一日以降左記ニ依リ御處理相成度此段通牒候也

一　滯納處分ノ執行ヲ命セラレタル吏員ノ領收シタル現金ノ出納ハ大正元年十二月市訓令甲第一六號區役所諸收納事務取扱手續附屬樣式第六號現金受拂簿ニ依リ整理スルコト

二　同上現金ノ拂込書ハ本市會計規程施行細則附屬別冊樣式第九號拂込書ヲ準用スルコト但此場合ニ於テハ「市金庫領收日付印」ヲ「金庫領收日付印」トシ「區派出市金庫名」ノ右方ニ「府支金庫名」ヲ加フルコト

以　上

第三節　市金庫

●市金庫ノ位置及金錢出納時限

明治三十八年八月十九日市告示第六十八號

東京市會計規程第二十四條ニ依ル東京市金庫ノ位置左ノ如シ（本文中市會計規程第二十四條トアルハ大正二年三月十三日市告示第二十二號ヲ以テ同規程改正ノ結果現行規程第十八條ニ該當ス）

名稱	位置
東京市金庫	東京市役所內
麹町區派出市金庫	麹町區役所內
神田區同	神田區役所內
日本橋區同	日本橋區役所內
京橋區同	京橋區役所內
芝　區同	芝區役所內
麻布區同	麻布區役所內
赤坂區同	赤坂區役所內
四谷區同	四谷區役所內
牛込區同	牛込區役所內
小石川區同	小石川區役所內
本郷區同	本郷區役所內
下谷區同	下谷區役所內
淺草區同	淺草區役所內
本所區同	本所區役所內
深川區同	深川區役所內

市金庫ニ於ケル金錢出納ハ本市所屬公廳ノ執務時限一時間前ニ閉鎖ス但正午限リ執務ノトキハ午前十一時ニ閉鎖ス（大正元年十月十九號ヲ以テ本項中「二時間前」トアリシヲ「一時間前」ニ改ム）

●市金庫事務取扱規程

明治三十八年九月十一日（市收入役、各區役所）市訓令甲第四十一號（市　金　庫）

第一條　市金庫ニ於テ出納スル現金ハ左ノ各經濟ニ區別シ年度毎ニ收入支出ヲ整理スヘシ

歲入歲出ニ屬スルモノ（明治三十九年四月四日市訓令甲第九號ヲ以テ本項中「四」養育院惣化部創立費ヲ削除シ「五」ヲ「四」トシ以下順次繰上ク同年八月四日市訓令甲第二十六號ヲ以テ「十四」事業公債償還基金ヲ追加シ同四十一年四月十五日市訓令甲第二十五號ヲ以テ「八」ヲ「七」トシ以下順次繰上ケ「十四」ニ市立小學校完成資金ヲ挿入シ「十五」「十六」追加同四十二年四月五日市訓令甲第七號ヲ以テ本項中更ニ改正ヲ加ヘ同四十三年三月八日市訓令甲第十一號ヲ以テ「十」市立小學校建設資金ヲ追加ス同四十四年三月十七日市訓令甲第六號ヲ以テ「六配水工費」ヲ削除シ「七」ヲ「六」トシ以下順次繰上ク大正二年四月一日市訓令甲第二十四號ヲ以テ本項中「五」以下ヲ改正シ同年度分ヨリ實施ス）

一　市

二　養育院

三　基本財産河岸地
四　市區改正
五　市區改正下水道改良費
六　水道
七　事業公債費
八　市立小學校建設資金
九　水災共濟費

歲入歲出外ノモノ（明治三十九年四月四日市訓令甲第九號ヲ以テ本項中「二、教育基金」ヲ「特別基金」ト改メ「三」乃至「八」ヲ削除シ「九」ヲ「二」トシ以下順次繰上ク）

一　市基本財産
二　特別基金
三　計量給水料豫納金
四　國稅金
五　市役所雜部金
六　區役所雜部金

第二條　市金庫ハ每年度左ノ帳簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登錄スヘシ

歲入歲出ニ屬スルモノ

一　現金受入簿
二　現金支拂簿
三　現金出納總括簿

歲入歲出外ノモノ

一　現金受拂簿

二　現金受拂總括簿

前項ノ帳簿中現金受入簿、現金仕拂簿及現金受拂簿ハ區役所派出市金庫ニ於テモ之ヲ備フヘシ

第三條　市金庫ハ現金出納總括簿及現金受拂總括簿每月末日ノ現況ニ依リ現金在高表ヲ調製シ之ヲ市收入役ニ提出スヘシ

市金庫ハ現金受拂簿每月末日ノ現況ニ依リ計量給水料豫納金、國稅金及區役所雜部金ノ各區役所別現在高表ヲ調製シ之ヲ市收入役ニ提出スヘシ（明治四十三年三月八日市訓令甲第十一號ヲ以テ本條及第四、五、七、八條中改正同年四月一日ヨリ實施同年十月十五日市訓令甲第四十一號ヲ以テ本項中「每」ノ下ニ「年三月末日及九」トアリシ七字削除ス）

第四條　市金庫ハ現金保管額ヲ證明スル爲メ金錢預リ帳正副二冊ヲ調製シ每日受入高及仕拂高ヲ記載シ證印ノ上之ヲ市收入役ニ提出スヘシ

市收入役ハ金錢預リ帳副本記載ノ仕拂高ニ對シ證印ノ上之ヲ市金庫ニ返付スヘシ

第五條　市金庫ハ區役所派出市金庫ニ役員ヲ常置スヘシ

市金庫ニ於テ常置スル役員ヲ以テ過少ナリト認ムルトキハ市收入役及區長ハ增員ヲ命スルコトヲ得

前項ノ外市收入役及區長ハ臨時規定時限外ノ金錢出納ヲ命スルコトヲ得

第六條　市金庫ハ現金收受濟ノ賦課令狀、納額通知書、納付書及現金交付濟ノ案內切符ヲ一箇月每ニ取纏メ之ヲ帳簿ニ照査シ其月計ヲ表記シ置クヘシ

第七條　市金庫ハ其保管金額ニ相當スル〔市參事會〕指定ノ有價證券ヲ市收入役ニ提供スヘシ

前項有價證券ノ擔保價格ハ〔市參事會〕ノ定ムルトコロニ從フヘシ（明治四十四年九月二十二日內務省令第十五號市町村財務規程第二十八條ニ依リ本條消滅）

第八條　市金庫ハ金券ニ書換ヲ爲スヘキ仕拂切符ヲ受ケタルトキハ現金ノ仕拂ヲ爲サシテ之ヲ一覽拂ノ爲替手形ト交換スヘシ」

前項ノ爲替手形ニシテ仕拂ヲ拒絕セラレタルトキハ市金庫ハ市收入役又ハ區收入役ニ對シ現金ヲ納付スヘシ

第八條ノニ　市金庫ハ國稅金ノ拂込ニ充ツル仕拂切符又ハ郵便振替貯金卽時拂戻受領證ヲ受ケタルトキハ卽日中央金庫ニ拂込ヲ了シ其領收書ヲ仕拂切符發行者ニ送付スヘシ（明治四十五年四月八日市訓令甲第十五號ヲ以テ本條追加大正二年三月十三日市告示第二十三號市會計規程施行細則第三十一條ニ依リ消滅）

第九條　市金庫ノ帳簿及書類等ハ吏員ヲシテ隨時之ヲ檢查セシムヘシ

第十條　市金庫ニ於ケル帳簿及證憑書ハ年度經過後五箇年ヲ經ルニ非ラサレハ之ヲ廢棄スルコトヲ得ス

第十一條　此規程ニ依リ調製ヲ要スル帳簿其他ノ樣式ハ別冊ノ示ストコロニ依ル

（別冊樣式）

1

（第一號）

明治　年度

現金受入簿

東京市金庫

（備考）

一 現金仕拂簿モ此樣式ニ依ル

二 各經濟共市役所、各區役所別ニ口座ヲ設ケ總括ヲ附スルコト但區役所派出市金庫ニ於テハ各經濟別ニ口座ヲ設クルコト

三 受入金報告書及仕拂金報告書ニ依リ記載スルコト

四 還付及戻入ハ之ヲ摘要欄ニ明記スルコト

五 更正ニ係ル金額及事項ハ之ヲ朱書シ追次又ハ合計ノ際黑書金額ヨリ控除スルコト

年月日	摘要	受（拂）				累計			
		円	錢	厘		円	錢	厘	
明治　年									

1

（第二號）

明治　年度

現金受拂簿

東京市金庫

（備考）

一 現金出納總括簿及現金受拂總括簿モ此樣式ニ依ル

二 區役所派出市金庫ニ於ケル現金受拂簿ハ案內切符ニ依リ仕拂ノ記帳ヲ爲スコト

三 前二項ノ外現金受入簿ニ準ス

年月日	摘要	受				拂				殘			
		円	錢	厘		円	錢	厘		円	錢	厘	
明治　年													

明治　年　月末日　（第三號）

明治　年　度現金在高表

經濟別	現在高			區役所受入未報告高			區役所仕拂未報告高			差引高			備考
	円	錢	厘	円	錢	厘	円	錢	厘	円	錢	厘	
合計													

明治　年　月　日

東京市金庫㊞

明治　年　月末日　（第四號）

計量給水料豫納金（國稅金雜部金）現在表

區役所別			金額			備考
			円	錢	厘	
麴神日京芝麻赤四牛小本下淺本深	本石	町田橋橋　布坂谷込川鄉谷草所川				
		計				

明治　年　月　日

東京市金庫㊞

1

（第五號）

（大正二年三月十三日市告示第二十三號ニ依リ本簿消滅）

明治　年度

現金仕拂通知額差引簿

東京市「何」區派出市金庫

（備考）

一　甲種現金仕拂通知額ト乙種現金仕拂通知額トヲ區別スルコト

二　各經濟別ニ口座ヲ設ケ整理スルコト

三　通知書及案內切符ノ番號ハ之ヲ摘要欄ヘ記載ノコト

四　戻入通知減額及更正ニ係ル金額及事項ハ之ヲ朱書シ追次又ハ合計ノ際其欄黑書金額ヨリ控除スルコト

年月日		摘要	現金仕拂通知額			仕拂濟額			差額		
明治	年		円	錢	厘	円	錢	厘	円	錢	厘

●市金庫事務取扱銀行

明治四十四年十二月七日
市會議決第二百七號

市金庫事務ハ株式會社東京府農工銀行ヲシテ取扱ハシムルモノトス

●市金庫事務取扱命令書

明治三十八年九月八日
〔市參事會命令〕會丙第五號二

東京市麹町區有樂町二丁目一番地
株式會社東京府農工銀行

其銀行ニ東京市金庫事務ノ取扱ヲ命シ候條左ノ條項遵守スヘシ

左記（明治四十三年三月四日〔市參事會議決〕第九百七十三號ヲ以テ第三、第五號中改正シ四月一日ヨリ施行）

一　此命令ニ依リ市金庫事務ノ取扱ヲ爲サシムルハ明治三十八年十月一日以降トス但〔市參事會〕ハ何時ニテモ事務取扱ヲ解除スルコトヲ得

二　本市ノ規定若クハ此命令ニ違背シ又ハ盜難、火災其他何等ノ事故ニ拘ラス本市ニ對シ損害ヲ生セシメタルトキハ其賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

三　金錢出納ニ使用スル爲メ左ノ印章ヲ調製スヘシ但其形體ハ市收入役ノ承認ヲ經テ之ヲ定ムヘシ

（一）東京市金庫、東京市金庫日付印（大正二年三月二十七日市長命令二發第六百二十七號ヲ以テ「何」區派出市金庫日付印追加）

（二）「何」區派出市金庫、「何」區派出市金庫日付印（大正二年三月二十七日市長命令二發第六百二十七號ヲ以テ「何」區派出市金庫ノ印鑑各二葉頭取、支配人及銀行ノ印鑑各一葉ヲ市役所ニ提出シ市金庫及區役所派出市金庫ニ於ケル取扱主任者ノ印鑑ハ之ヲ當該役所ニ提出スヘシ其變更シタルトキ亦同シ

四　市金庫及區收入役ノ職印竝ニ檢印ノ印鑑ハ市役所ヨリ市役所及區役所ニ於ケル收支事務取扱主任者ノ印鑑ハ當該役所ヨリ之ヲ交付ス其變更シタルトキ亦同シ

四ノ二　郵便振替貯金卽時拂戻金受領者氏名及印鑑ヲ市金庫ニ在リテハ市收入役ニ區役所派出市金庫ニ在リテハ區收入役ニ屆出ヘシ其變更シタルトキ亦同シ（明治四十五年四月九日二發第八百號ヲ以テ追加）

五　市收入役及區收入役ノ職印竝ニ檢印ノ印鑑ハ市役所ヨリ市役所及區役所ニ於ケル收支事務取扱主任者ノ印鑑ハ當該役所ヨリ之ヲ交付ス其變更シタルトキ亦同シ

六　市金庫トシテ取扱ヒタル帳簿及證憑書ハ事務取扱ヲ解除シタル後ト雖尙ホ年度經過後五箇年間之ヲ保存スヘシ

七　市金庫事務取扱ニ關スル手數料ノ給否及其給額等ハ每年度ノ初メニ於テ之ヲ通知ス「但明治三十八年度ニ屬スル分ハ金壹千八百七拾五圓トシ來ル明治三十九年四月之ヲ交付ス

八　市金庫事務ノ取扱ヲ解除シタルトキハ其翌日迄ニ保管金ニ明細書ヲ添附シテ還納スヘシ

九　第二項及前項ノ場合ニ於テ其義務ヲ履行セサルトキハ擔保物ヲ處分シ之ヲ以テ賠償ニ充ツルコトアルヘシ

十　前各項ノ條規ハ之ヲ變更スルコトアルヘシ

十一　事務取扱ヲ解除シ又ハ前項ニ依リ條規ヲ變更シタルニ因リ銀行ニ損害ヲ生セシムルコトアルモ本市ハ其賠償ノ責ニ任セス

十二　此命令ノ條規ニ關シ疑義ヲ生シタルトキハ〔市參事會〕ノ解スルトコロニ從フヘシ

以上

●市金庫竝區役所派出市金庫現金受拂帳簿ヘ受拂高記入方

明治三十九年六月八日
市役所通知會發第六百四十一號（市金庫）

市金庫事務取扱規程第二條ニ依リ受拂ヲ整理スヘキ現金受拂簿中派出市金庫ニ於テハ受高ノミアリテ市金庫ニ於テハ拂高ノミノ口座アルトキハ其年度出納閉鎖期日ニ至リ左ノ通リ記帳シ出納ヲ結算スヘキ儀ト御承知相成度及通知候也

左記

一　區役所派出市金庫ノ帳簿
「市金庫ニ於ケル拂高」トシテ受高ニ對照スヘキ額ヲ拂ノ欄ニ記入スルコト

第二篇　類規　第十七類　會計　第三節　市金庫

一　市金庫ノ帳簿
「何區派出市金庫ニ於ケル受高」トシテ拂高ニ對照スヘキ額ヲ受ノ欄ニ記入スルコト

以上

●市金庫ニ於テ郵便振替貯金卽時拂戻受領證ヲ受ケタル場合取扱方

明治四十五年四月九日
市長命令二發第八百號

東京市金庫

郵便振替貯金卽時拂戻受領證ヲ受ケタルトキハ左記各項ニ依リ取扱フヘシ

一　市公金ニ屬スル卽時拂戻受領證ノ金額ハ之ヲ其日ノ收入金ニ編入スヘシ（大正二年三月十二日市告示第二十三號市會計規程施行細則第七條ニ依リ本項自然消滅）

二　卽時拂戻金ノ受領方法ハ別紙協定事項ノ指示スル所ニ從フヘシ

以上

（別紙）（明治四十五年三月十九日市長判決一發第二千六百七十八號郵便振替貯金卽時拂ニ關スル協定事項ト同樣ニ付略ス）

●區役所內派出府金庫名列記ノ印章使用方

大正二年四月二日（各區長宛）
助役通知二發第六百二十號（區收入役）

明治三十八年九月市金庫事務取扱命令第三項ニ「市金庫日付印」及「何區派出市金庫日付印」ヲ追加シ又區役所內派出府金庫名列記ノ印章使用方其筋ノ認可ヲ經別紙樣式ニ依リ調製候樣市金庫ニ通知置候條御了知相成度通知候也

追テ該日付印ハ徵稅令書等ニ依リ現金收受ノ場合ニ使用シ其他ハ從前ノ通リニ候條申添候也

（別紙樣式略ス）

第四節　滯納處分

●滯納處分財產差押證票記載方

明治三十年七月二十四日書記官通牒內四發第千四百三十七號（各區長宛）

市收入金ニシテ滯納處分ヲ爲スニ際シ國稅徵收法施行細則第九條ニ依リ交付スヘキ證票ニハ滯納金ノ種目ヲ列記シ（例ヘハ市稅、市特別稅、市使用料ノ類）區役所印押捺相成度此段及通牒候也

●市稅特別稅滯納處分費中用紙代辨償方

明治三十一年十二月七日助役通知會乙第八百六號（各區長宛）

市稅特別稅滯納處分執行ニ付國稅徵收法第二十七條ニ依リ滯納處分費トシテ所要ノ用紙代所辨セシムルノ可否本所區長ヨリ問合ニ對シ右ハ滯納處分費ノ範圍外ト認メ辨償セシメサル旨回答ニ及ヒ置キ候條爲念此段及通知候也

●滯納處分ノ剩餘金供託方

明治三十二年十月七日市訓令甲第三十六號（各區役所）

府縣郡市町村其他公共團體ニ於ケル徵收金ニシテ國稅滯納處分ノ例ニ依リ處分シタル場合ニ於テ滯納者ヘ還付スヘキ剩餘金アルトキ滯納者所在不分明等ノ爲メ還付シ得サルモノハ國稅ノ例ニ依リ民法第四百九十四條ニ依リ供託スルコトニ其筋ニ於テ決定相成リ候條此旨心得ヘシ

追テ本文ニ牴觸スル從前ノ指令通牒等ハ取消サレタルモノトス

第五節　豫算決算

●市役所雇員及小使日給者使用方

明治三十一年十一月二十一日市會議決第九十號

市役所雇員及小使ハ豫算範圍内ノ金額ヲ以テ日給者ヲ使用スルコトヲ得

●市普通豫算編製方法

明治四十二年七月五日市長判決庶發第千七十號

毎年度通常豫算ノ編製ハ各課ノ要求及之ニ對スル財源ノ關係等ニ依リ庶務課ト各課間ニ於テ相當交渉ヲ重ネ更ニ之ヲ査定シ其査定ニ基キ豫算表ヲ編製シ常設委員會及〔參事會〕ノ議ニ付シ常設委員會及〔參事會〕ハ更ニ之ニ審査ヲ加ヘラルルニ依リ當初各課ニ於テ作製シタル詳細ナル調書ハ其間再三變更セラレ或ハ全然削除セラルルモノ等アリテ其手數ノ煩ナルノミナラス時日ヲ費スコト多キ爲メ提出ノ期ニ付市會ノ催告ヲ受クル等事故尠カラス之レ財源ノ關係上特ニ審査ヲ要スルニ職由スルモノナレハ明治四十三年度以降市普通豫算ノ編製ハ一般規定ノ外左ノ方法ニ依ルモノトス

方法

一　各部局及第一部中ノ各課ハ其管掌ニ屬スル翌年度經費及收納ノ豫定額ヲ調査シ左ノ區別ニ依リ調書ヲ作製シ毎年十月十五日迄ニ第一部（第一部中ノ各課ハ庶務課）ニ送付スルコト

（イ）經常費ニ屬スルモノハ其前年度ノ通常豫算額其年九月末日迄ノ追加豫算額、同豫備費支出額ヲ各別ニ併記シ各目別ニ金額ヲ記シ（節以下ノ金額ハ記スルニ及ハス）且項別ニ前年度ニ比スル增減ノ說明ヲ附記スルコト

（ロ）臨時費ニ屬スルモノハ其事業ノ大要及費額ヲ細目ニ區分シ計上スルコト但既決繼續費ノ年度割支出額ハ記スルニ及ハス

（ハ）項目ノ區分前年度ト異ナルモノアルトキハ其說明ヲ附スルコト

二　第一部ハ前項ノ調書ニ依リ之ニ對スル歲入ノ豫定額ヲ調査シ豫算概算書ヲ作ルコト

三　前項ノ概算書ハ市長、助役ノ裁定ヲ經其裁定額ニ基キ各部局（第一部ハ各課）ハ其主管ニ屬スル豫算調書ヲ作製シ十一月二十日迄ニ第一部（第一部中ノ各課ハ庶務課）ニ送付スルコト

四　第一部ハ前項調書ニ依リ十二月十五日迄ニ豫算表ヲ編製シ之ヲ常設委員會、〔市參事會〕等ニ提出ノ手續ヲ爲スコト

以上

●令達豫算種目項内組替流用ノ場合認可申請方

大正二年三月二十四日市訓令甲第十八號（各區役所）

令達豫算項内各種目金額ノ組替流用ハ事由ヲ具シ豫メ認可ヲ受ケラルヘシ

●豫算金額計上ニ關シ四捨五入法採用方

明治四十二年十一月十六日（市參事會議決）第六千九十八號

豫算ニ計上スル金額ハ從來厘位ニ充タサル端數ニ四捨五入法ヲ採用シ來レルモ其實益ヲ見ルニ乏シク反テ繁雜ニ渉リ徒ニ手數ヲ要スルノミナルニ付明治四十三年度ヨリ政府ノ例ニ倣ヒ豫算金額ハ之ヲ圓位ニ止メ圓位ニ充タサル端數ニ四捨五入法ヲ採用シ調製スルモノトス

●區豫算歳入中家屋稅附記欄内記載方竝四捨五入法採用方

明治三十七年二月十日助役通牒庶發第百八十四號（各區長宛）

區豫算歳入中家屋稅附記欄内一個當ニ於テ一個ニ付何程ト記載スルハ從來ノ慣例ニ有之候處右記載方ハ附加稅ニアラサルヤノ嫌アルニ依リ府稅ノ單位ニ對スル歩合ヲ記載スヘク又從來歳入中課稅標準額及稅額ハ厘位マテ計算有之候ヘ共三十五年法律第二十二號ニ依リ總テ四捨五入ノ法ニヨリ錢位ニ止メ計算スヘキ旨其筋ヨリ申越有之候條併セテ三十七年度ヨリ更正相成度此段及通牒候也

●區役所費豫算調書式

明治二十八年八月三十日市訓令第百號（各區役所）

區役所費ニ關スル歳入出豫算調別紙書式ニ據リ毎年九月三十日限リ差出スヘシ

（別紙書式）

何年度何區役所歳入豫算調書

科目	前年度豫算	本年度豫算	增減	增減ノ理由
雜收入	△ 円	△ 円	△ 円	
第一項 區役所建物拂代				
第二項 不用品拂代				
（一） 區役所下掃除料				
（二） 區役所備品拂代				
（三） 區役所反古紙類拂代				

（備考）

前記ノ外科目ノ新設ヲ要スルトキハ適宜之ヲ掲ケ其理由ヲ詳記スヘシ

何年度何區役所費豫算調書

費目	前年度豫算	本年度豫算	增減	增減ノ理由
第一款 區役所費	△ 円	△ 円	△ 円	
第一項 給料				
（一） 區長給料				
（二） 書記給料				
（三） 附屬員給料				

（書式中△印ヲ附シタル文字及横線ハ朱書）

月給
日給
（四）使丁給料
月給
日給
第二項　雜給
（一）雇人料
職工賃
人足賃
人力車賃
第三項　需用費
（一）備品竝消耗品費
備品新調修繕
消耗品
（二）通信運搬費
郵便電信
電話費

運送費
（三）賄費
書記宿直賄
使丁宿直賄
夜勤賄
吏員賄
使丁賄
（四）諸税
地租
「地方税」地租割
同　家屋税
（五）雜費
借家料
撤水除雪費
（六）議員選擧費
筆耕料
用紙代

人足賃	
立會人賄	
(六)會場雜費	
第四項營繕費	
(一)區役所修繕費	
(二)掲示場修繕費	
一金何程	書記給料
内譯	
名稱	員 一人 人 當 金額
何級書記	人　△円　△円
、、、、	

(備考)

一 附屬員給料、使丁給料、雇人料、備品並消耗品費、通信運搬費、議員選擧費、營繕費ハ書記給料ニ準シ内譯ヲ付スヘシ

一 此他新ニ費目ヲ設クルヲ要スルトキハ該當項目中ニ之ヲ掲ケ其理由ヲ詳記スヘシ

○市歳入歳出決算取調順序及書式

明治三十六年三月二十六日(市收入役/各課)
市訓令甲第七號

東京市歳入歳出決算取調順序及書式左ノ通改正シ明治三十五年度分ヨリ施行ス

東京市歳入歳出決算取調順序及書式

市收入役ハ第一號書式ニ依リ歳入出總決算報告書ヲ調製スヘシ但附記欄及ヒ摘要欄ノ事項ハ記載ヲ要セス

主務課ハ第二號書式ニ依リ歳入出總計書ヲ調製シ年度經過後三箇月内ニ會計課ニ送付スヘシ

會計課ハ歳入出總計書ニ依リ歳入出總決算報告書ニ附記欄及ヒ摘要欄ノ事項ヲ記入スヘシ

基本財産及ヒ準備金等ノ決算取調順序ハ此規程ニ準ス其書式ハ第三號及ヒ第四號ニ依ル

(書式)

(書式中△印ヲ附シタル文字及横線ハ朱書)

(第一號書式)用紙美濃(明治四十年五月十四日市訓令甲第十二號ヲ以テ本書式改正)

報告第　號

東京市明治　年度歳入出總決算報告

歳入

一金　總豫算額

一金　總收入額

科目	豫算額	收入額	差額 增	差額 減	附記 種目	附記 金額 豫算	附記 金額 決算	附記 個數 豫算	附記 個數 決算	附記 當壹個	摘要
第　款 何收入	円	円	円	円		△	△	△	△		本項ハ明治　年第　號市會ノ議決ニ依ル
第　項 何	△	△	△	△							
第　目 何											

科目	豫算額	收入額	差額 増	差額 減	附記 種目（豫算△ 決算△）	附記 金額（豫算△ 決算△）	附記 個數（豫算△ 決算△）	附記 壹個當	摘要
（　）何何									一金　未納金 一金　缺損金 本項ハ何何ニ因リ金何程ノ増收アリシモ前記ノ如ク未納及缺損アリシニ因リ豫算額ニ對シ減少セリ
（　）何何									
（　）何何					何何 何何				一金　何何　未納金 一金　何何　缺損金 本項ハ前記ノ如ク未納及缺損アリシモ何何ニ因リ豫算額ニ對シ増加セリ
第項何何									
第目何何									本項ハ何何ニ依リ豫算額ニ對シ減少（増加）セリ
第款何何									本項ハ明治　年第　號市會ノ議決ニ依ル
第項何何									
第目何何									
	—								＝

科目	豫算額	收入額	差額 増	差額 減	附記 種目（豫算△ 決算△）	附記 金額（豫算△ 決算△）	附記 個數（豫算△ 決算△）	附記 壹個當	摘要
第項雑收入	円	円	円	円		円		円	
第目不可豫知收入									一金　何　何 一金　何　何 一金　何　何 計金

費目	豫算額 議決額	豫算額 流用増減△ 豫備費充當	支出額	殘額	附記 種目（豫算△ 決算△）	附記 金額（豫算△ 決算△）	附記 個數（豫算△ 決算△）	附記 壹個當	摘要
									本項ハ何何ニ因リ豫算額ニ對シ増加（減少）セリ
合計	△	△	△	△		△		△	

歳出經常費

一金　總豫算額

一金　總支出額

費目	豫算額 議決額	豫算額 流用増減△ 豫備費充當	支出額	殘額	附記 種目（豫算△ 決算△）	附記 金額（豫算△ 決算△）	附記 個數（豫算△ 決算△）	附記 壹個當	摘要
第款何費	円	円	円	円		円		円	本項ハ明治　年第　號市會ノ議決ニ依ル
第項何何	△	△	△	△		△		△	
第目何何									
（　）何何									
（　）何何									一金　何何ヨリ流用 本項ハ何何ニ因リ不足シ前記ノ如ク流用支辨セリ
（　）何何									△一金　何何ヘ流用 本項ハ何何ニ因リ殘餘ヲ生シ前記ノ如ク流用セリ
（　）何何									一金　明治　年第　號ニ依リ豫備費充當 本項ハ何何ニ因リ不足シ前記ノ如ク豫備費ヲ以テ充當セリ

科目	豫算額・支出額等	摘要
目何何		
（）何何		一金△△ 豫備費充當 本項ハ何何ニ因リ不足シ前記ノ如ク豫備費ヲ以テ充當セリ
（）何何		一金△△ 何何ヘ流用△△△△△ 本項ハ何何ニ因リ前記ノ如ク流用セシモ尚ホ殘餘ヲ生セリ
（）何何	何何 何何	一金 何何ヨリ流用 一金 豫備費充當 本項ハ何何（種目）ニ於テハ剩餘ヲ生セシモ何何（種目）ニ不足ヲ生シ前記ノ如ク流用ヲ受ケ及豫備費ヲ以テ充當セリ
（）何何		一金 豫備費充當 本項ハ何何ニ因リ前記ノ如ク豫備費ヲ以テ充當セリ
第款何何		本項ハ明治 年第 號市會ノ議決ニ依ル
第項何何		
第目何何		
第款何何		本項ハ明治 年第 號市會ノ議決ニ依ル
第項何何		
第目何何		一金 明治 年第 號ニ依リ豫備費充當 本項ハ何何ニ因リ前記ノ如

科目	豫算額・支出額等	摘要
		ク豫備費ヲ以テ充當セリ
第款豫備費		本項ハ明治 年第 號市會ノ議決ニ依ル
第項豫備費		
第目豫備費		一金△△ 内 金△△ 何△何△（款） 金△△ 何△何△（款） 本項ヨリ前記ノ如ク各費目ニ補充セリ
合計		

臨時

一金 總豫算額

一金 總支出算額

費目	豫算額 議決額	豫算額 豫備費充當 流用增減△	支出額	殘額	附記 種目 豫算/決算	附記 金額 豫算/決算	附記 個數 豫算/決算	附記 壹個當	摘要
第款何何	円	円	円	円		円		円	本項ハ云云
第項何何									
第目何何									
（）何何									

歳出通計　△　△　△　△

何年度へ繰越（何　何）

歳入出差引

殘金

記載例

歳入ノ部

一　科目ノ欄ニハ款、項、目、節ヲ記載スヘシ

二　豫算額ノ欄ニハ市會ノ議決金額ヲ記載スヘシ

三　收入額ノ欄ニハ各科目ニ於ケル實收金額ヲ記載スヘシ

四　差額ノ欄ニハ豫算額ト收入額トヲ比較シ收入額超過シタルトキハ其金額ヲ增ノ段ニ收入額不足ナルトキハ其金額ヲ減ノ段ニ記載スヘシ

五　附記ノ欄ニハ種目ノ下ニ市會議決ノ金額、個數及壹個當ヲ右側ニ朱書シ決算ニ於ケル金額、個數及壹個當ヲ左側ニ黑書スヘシ

六　摘要ノ欄各科目中款ノ下ニハ市會議決番號ヲ記載シ細科目ノ下ニハ未納、缺損（細科目中二以上ノ種目アリテ各未納、缺損アルトキハ各別）等ノ金額アレハ之ヲ列記シ豫算額ニ對シ收入額ノ增減シタル理由ヲ記載スヘシ不可豫知收入、雜種拂代等科目ヲ以テ收入金ノ細別判明ナラサルモノハ其內譯金額ヲ列記シ豫算額ニ對シ收入額ノ增減シタル理由ヲ記載スヘシ

七　豫算額、收入額及ヒ差額ノ欄ニ於テ記載スヘキ金額ナキトキハ〇ヲ圓位ニ黑書スヘシ

八　二款以上アルトキハ末尾ニ合計ヲ附スヘシ但差額ノ欄ニハ豫算額ト收入額トノ差額ヲ記載スヘシ

九　合計ヲ附スル場合ハ其行ニ各款金額ノ合計ヲ記載スヘシ

十　摘要ノ欄ニ記載スル金額數字ハ壹、貳、參、拾ノ文字ヲ用ユヘシ

歳出ノ部

一　費目ノ欄ハ歳入ノ部第一ニ同シ

二　豫算額ノ欄中議決額ノ段ニハ市會ノ議決金額ヲ記載シ豫備費充當アルモノハ其金額（市會ノ議決アレハ其ノ番號ヲ附記）ヲ記載シ豫備費充當流用增減ノ段ニハ充當及流用ニ因リ增減アルモノハ增ヲ黑書、減ヲ朱書（市會ノ議決アレハ其ノ番號ヲ附記）列記シ豫備費充當アルモノハ其金額（市會ノ議決アレハ其ノ番號ヲ附記）ヲ記載シ豫算額中ノ議決額ニ對シ支出額ノ增減シタル理由ヲ記載スヘシ

三　支出額ノ欄ニハ各費目ニ於ケル實際ノ支出金額ヲ記載スヘシ

四　殘額ノ欄ニハ豫算額ヨリ支出額ヲ控除シタル殘餘ノ金額ヲ記載スヘシ

五　附記ノ欄ハ歳入ノ部第五ニ同シ

六　摘要ノ欄各費目中款ノ下ニハ市會ノ議決ニ依ルモノハ其番號ヲ記載シ細費目ノ下ニハ流用ニ因リ增減アルモノハ增ヲ黑書、減ヲ朱書（市會ノ議決アレハ其ノ番號ヲ附記）列記シ豫備費充當アルモノハ其金額（市會ノ議決アレハ其ノ番號ヲ附記）ヲ記載シ豫算額中ノ議決額ニ對シ支出額ノ增減シタル理由ヲ記載スヘシ

豫備費ノ下ニハ充當シタル各費目及金額ヲ朱書列記スヘシ

市區改正費中臨時改正費ノ記載例ハ豫備費ニ準ス

七　豫算額、支出額及殘額ノ欄ニ於テ記載スヘキ金額ナキトキハ〇ヲ圓位ニ黑書スヘシ

八　二款以上アルトキハ末尾ニ通計ヲ附スヘシ

九　合計ヲ附スル場合ハ各款及豫備費ノ金額中黑書ヨリ朱書ヲ控除シタル金額ヲ記載スヘシ通計ヲ附スル場合亦之ニ準ス

十　摘要ノ欄ニ記載スル金額數字ハ壹、貳、參、拾ノ文字ヲ用ユヘシ

歳入出差引殘金ノ處分ハ報告書ノ最末ニ詳記スヘシ

（第二號書式）用紙美濃（明治四十年五月十四日市訓令甲第十二號ヲ以テ本書式改正）

明治　年度歳入出總計書

歳入

科目	豫算額	收入額	差額 増	差額 減	摘要
第款　何收入	円	円	円	円	本項ハ明治　年第　號市會ノ議決ニ依ル
第項　何何	△	△	△	△	
第目　何何					
（一）何何					一金　未納金
（二）何何					一金　一金　本項ハ何何ニ因リ金何程ノ増收アリシモ前記ノ如ク未納及缺損アリシニ因リ豫算額ニ對シ減少セリ
（三）何何					一金　一金　本項ハ前記ノ如ク未納及缺損アリシモ何何ニ因リ豫算額ニ對シ増加セリ
第項　何何					本項ハ何何ニ依リ豫算額ニ對シ減少（増加）セリ
第目　何何					

附記

種目	豫算決算金額	豫算決算個數	豫算決算壹個當

歳出

經常費

科目	豫算額	收入額	差額 増	差額 減	摘要
第款　何何費	円	円	円	円	本項ハ明治　年第　號市會ノ議決ニ依ル
第項　何何	△	△	△	△	
第目　何何					
第項　雜收入	円	円	円	円	一金　何何
第目　不可豫知收入					一金　何何　計金
合計	△	△	△	△	本項ハ何何ニ因リ豫算額ニ對シ増加（減少）セリ

費目	豫算額	議決額	豫備費充當△流用増減	支出額	殘額
第款　何何費	円	円	円	円	円
第項　何何	△	∠	△	△	△
第目　何何					

附記

種目	豫算決算金額	豫算決算個數	豫算決算壹個當

第目何何		
（）何何		一金何何ニヨリ流用本項ハ何何ニ因リ不足シ前記ノ如ク流用支辨セリ
（）何何		△△一金△△△△本項ハ何何ニ因リ殘餘ヲ生シ前記ノ如ク流用支辨セリ
（）何何		一金　明治　年第　號ニ依リ豫備費充當本項ハ何何ニ因リ不足シ前記ノ如ク豫備費ヲ以テ充當セリ
（）何何		

第目何何		
（）何何		一金　豫備費充當本項ハ何何ニ因リ不足シ前記ノ如ク豫備費ヲ以テ充當セリ
（）何何		△△一金△△△△本項ハ何何ニ因リ前記ノ如ク流用セシモ尙殘餘ヲ生セリ
（）何何		一金　何何ヨリ流用豫備費充當本項ハ何何（種目）ニ於テハ剩餘ヲ生セシモ何何ニ依リ何何（種目）ニ不足ヲ生シ前記ノ如ク流用ヲ受ケ及豫備費ヲ以テ充當セリ
（）何何	何何	

（）何何		一金　豫備費充當本項ハ何何ニ因リ前記ノ如ク豫備費ヲ以テ充當セリ
第款何何		
第項何何		
第目何何		本項ハ明治　年第　號市會ノ議決ニ依ル
第款何何		
第項何何		
第目何何		一金　明治　年第　號ニ依リ豫備費充當本項ハ何何ニ因リ前記ノ如ク豫備費ヲ以テ充當セリ
第款豫備費		本項ハ明治　年第　號市會ノ議決ニ依ル
第項豫備費		
第目豫備費		一金△△内△金△△金△何何△（款）△何何△（款）本項ヨリ前記ノ如ク各費目ニ補充セリ
合計		

臨時費

費目	豫算額 議決額	豫算額 豫備費充當△ 流用增減△	支出額	殘額	附記 種目	附記 豫算△△ 決算	附記 金額	附記 豫算△△ 決算	附記 個數	附記 豫算△△ 決算	附記 壹個當	摘要
第款何何	円	円	円	円			円				円	本項ハ云云
第項何何												
第目何何												
（　）何何												
歳出通計	△	△	△	△			△				△	

記載例

第一號書式ニ準ス

（第三號書式）用紙美濃

明治　年度何何　收支總決算報告

收入

一金			
科目	金額	備考	
臨時收入	円		
何何	△	何何	
何何		何何	
合計			

支出

一金			
費目	金額	備考	
支出	円		
何何	△	何何	

何	何
合計	
收支差引	
殘金	

何年度へ繰越金
但何預金

（第四號書式）用紙美濃

明治　年度何何　收支總計書

收入

科目	額	備考
臨時收入	何	
何	何	
何	何	

支出

費目	額	備考
支出	円	
何	△	
何	何	
何	何	
合計	何	
合計	何	

第六節　檢　査

●市出納檢查規定

明治二十三年三月十日
〔市參事會議決〕第千三百八十八號

第一條　諸帳簿ノ檢查ハ每月十日迄ニ之ヲ執行スルモノトス

第二條　檢查ハ前月末日ノ原簿計算表ニ據ルモノトス

第三條　檢查ハ原簿計算表ト原簿ノ現計高ト照合シ檢查スルモノトス

第四條　原簿ノ檢查ヲ了リタルトキハ員外用紙ニ年月日ヲ記シ之ニ檢查濟ノ證ヲ記シ記名捺印スルモノトス

第五條　原簿檢查ヲ了リタルトキハ甲乙帳ト現金出納帳トヲ照合シ甲乙帳ノ殘高ト現金殘高表ニ檢查濟ノ檢印ヲナスモノトス

第六條　內譯簿其他補助簿ノ檢查ハ各內譯計算表ニ依リ之ヲ原簿殘高ニ照合シ檢查濟ノ檢印ヲナスモノトス

第七條　物品ノ檢查ハ基帳ニ記載シタル員數ニ依リ檢查ノ上檢印ヲナスモノトス

第八條　檢查ヲ了リタルトキハ左ノ事項ヲ記載シ之ニ計算表及內譯計算表ヲ添附シテ之ヲ〔市參事會〕ニ報告スルモノトス

一　議決ニ適合スルヤ否ヤノ事項

一　豫算ニ違フ所ナキヤノ事項

一　帳簿ノ整理規程ニ違ヒ又ハ延滯ナキヤノ事項

第九條　臨時檢查ハ前各條ノ手續ニ依リ之ヲ執行シ仍ホ收入支出ノ證書類ニ檢查濟ノ檢印ヲナスモノトス

第十條　臨時檢查ハ市金庫ニ就キ市ニ屬スル現金及帳簿ヲ檢查スルモノトス

第十一條　市金庫ニ於テ現金ノ檢查ヲ爲シタルトキハ殘高表ヲ調製シ之ヲ當廳ニ送付セシムヘシ

●區役所會計檢查規程

明治二十三年三月二十八日
市訓令第二十六號〔各區役所〕

第一條　區役所會計ノ檢查ヲ分テ通常檢查臨時檢查ノ二トス

第二條　通常檢查ハ〔市參事會〕ヨリ檢查主任ヲ派出シ前月末日ノ計算表ニ據リ之ヲ執行スルモノトス

第三條　臨時檢查ハ市會議員及〔市參事會員〕立會之ヲ執行スルモノトス

第四條　檢查ハ計算表ト各帳簿ノ現計高ト照合シ檢查スルモノトス

第五條　補助簿ノ檢查ハ各內譯計算表ニ依リ之ヲ內譯簿殘高ニ照合シ檢查濟ノ印ヲナスモノトス

第六條　甲乙帳ハ各帳簿ノ現在高ヲ合算シ殘高表ヲ調製シテ之ニ檢查濟ノ印ヲナスモノトス

第七條　物品ノ檢查ハ基帳ニ記載シタル員數ニ依リ檢查ノ上印ヲ

ナスモノトス

第八條　檢査ヲ了リタルトキハ員外用紙ニ年月日ヲ記シ之ニ檢査濟ノ證トシテ記名捺印スルモノトス

第九條　檢査ノ上成規ニ違ヒタルモノ又ハ計算ニ違ヒタルモノ又ハ事由不分明ナルモノアルトキハ推問書ヲ交付シ辯明ヲナサシムルモノトス（明治四十三年三月五日市訓令甲第九號ヲ以テ本條中推問書ヲノ下「區長ニ」ト加リシ三字ヲ削除シ同年四月一日ヨリ實施ス）

第十條　帳簿檢査ノ上仍ホ收入支出ノ證書類ヲ檢査シ之ニ檢査濟ノ印ヲナスモノトス

第十一條　檢査ニ際シ市金庫ニ就キ區役所ニ屬スル現金及帳簿ヲ檢査スルコトアルヘシ

第七節　預金及擔保

●請負入札保證金納入及還付方

法　明治三十六年十二月二十四日市訓令甲第三十八號（各區役所）

本市ノ施行ニ係ル土木工事及之ニ要スル物件供給請負入札保證金ノ納入及還付ハ左ノ方法ニ依リ區役所ニ於テ取扱フヘシ

一　入札保證金ノ取扱ハ區内ニ住所若クハ營業場ヲ有スル者ノ入札者ニ限ルモノトス

一　入札保證金ハ現金トス

一　入札者ヨリ別紙雛形ノ納入書ニ現金ヲ添ヘ納付シ來リタルトキハ該書ヘ納附シタルコトヲ證明シ入札者ヘ交付スルモノトス

一　入札保證金ノ還附ハ入札保證金納付書（別紙雛形之通）ヘ要還附ノ旨ヲ記シ土木課長證印シ入札者ニ交付スルヲ以テ其證明ニ依リ現金ノ還附ヲ爲スモノトス（明治四十三年三月五日市訓令甲第七號ヲ以テ書式中「區長印」ト加リシヲ「區收入役印」ニ改メ同年四月一日ヨリ實施ス）

（別紙書式）

（朱書）　明治何年何月何日受領　區收入役印

印紙

納入書

一金何程

但何區何町何丁目何工事又ハ何工事用何何供給請負入札保證金

右納入候也

年月日　　住所　某　印

（東京市參事會）

市長　宛

●請負入札保證金整理方

明治三十六年十二月二十四日助役通知會發第二百九十二號（各區役所）

今般發布相成候明治三十六年十二月東京市訓令甲第三十八號ニ依ル入札保證金ハ左記ニ依リ整理相成度此段及通知候也

一　（明治三十八年八月二十三日市告示第六十九號ニ依リ明治三十年四月市訓令甲第三十號自然消滅ニ付本項削除）

二　入札保證金ハ雜部金ニ編入スルコト

三　入札保證金ヲ還附スルニ際シテハ曾テ受領ヲ證印シタル納付書ト別ニ領收證書ヲ徵スルコト

●擔保物トシテ記名債券ヲ提供シタルトキ取扱方

明治三十三年七月六日（市參事會議決）第五千二百七十八號

本市市稅金取扱ノ擔保、預金ノ擔保及工事請負ノ身元保證物トシ

テ記名ノ債券ヲ提供スルモノアルトキハ自今民法所定ノ手續ニ據ラシメ該手續ヲ履マサルモノハ之ヲ拒絕スルモノトス

●契約擔保ニ屬スル有價證券帳簿整理方

明治三十七年四月二日
市長判決會發第七百二十四號

契約擔保ニ屬スル有價證券ハ從來本市所定價格ヲ以テ帳簿整理ヲ爲セシ所明治三十七年度以降ハ處務ノ簡便ヲ計ルカ爲メ券面額ニ依リ帳簿整理ヲ爲スモノトス

●預金ニ對スル擔保品提供方

明治三十七年六月三日
〔市參事會議決〕第千八百四十七號

本市預金ニ對スル擔保品ハ定期又ハ當座ノ區別ヲ廢止シ單ニ預金ニ對スル擔保品トシテ之ヲ提供セシムルモノトス

●市基本財産及準備金等ニシテ預金ト爲ス場合ニ於ケル銀行資格

明治四十二年三月三日
〔市參事會議決〕第九百十七號

市ノ基本財産及準備金等ニシテ預金ト爲ス場合ニ於テハ左ノ事項ニ該當スル銀行中ヨリ預ケ入レ銀行ヲ選定スルモノトス

一　資本金ノ拂込金額及ヒ積立金ヲ併セ金五拾萬圓以上ナルコト

一　東京市內ニ本店ヲ有スルコト

一　ヶ箇年以前ノ創立ニ係ルコト但豐國銀行ハ此限リニアラス

一　手形交換組合ニ加盟若クハ代理依託セルコト但農工銀行ハ此限リニアラス

一　預金ハ資本金拂込額ト積立金トヲ併セタル金額ノ半額ヲ超過スルコトヲ得ス但農工及日本興業銀行ハ此限リニアラス

右改正ノ結果資格ヲ失フヘキ現在預託銀行ノ預金ハ來ル九月末日迄漸次回收スルモノトス

第八節　財産管理

●市基本財産有價證券保護預方

明治三十七年三月七日
市會議決第九號

本市基本財産準備金等ニ屬スル有價證券ハ之ヲ日本銀行保護預ケトナスモノトス

●公園水道墓地ノ準備金ヲ以テ公債證書購入方

明治二十四年五月四日
市會議決第二十六號

公園水道（明治二十五年五月四日市會議決第三十七號）ヲ以テ「公園」ノ下「水道」ノ二字ヲ加フ）竝墓地ニ屬スル準備金ニシテ費途ニ充ツヘキ見込ナキ現金アルトキハ公ケノ入札ニ附セス〔市參事會〕限リ時價ヲ以テ公債證書ヲ購入スルモノトス

●市基本財産及準備金トシテ公債證書購入方

明治二十八年十月三日
市會議決第六十四號

本市基本財産及準備金トシテ所有スル有價證券ハ明治二十四年十月市會決議ノ旨趣ニヨリ東京市公債證書ニ限リタル處自今ハ右公債證書ニ限ラス最モ利益アリト認ムル公債證書ヲ時價ヲ以テ購入セトンス

●市及區所有建物火災共濟方法

明治四十一年三月三十日
市會議決第七十五號

市及區所有建物ノ火災ニ因ル損害ヲ共濟スル爲メ火災共濟基金ヲ設ケ市及各區間相互損害ノ塡補ヲ爲スモノトス

前項基金ノ積立及共濟ノ方法ハ〔市參事會〕ニ於テ各區ト協定スルモノトス

●市火災共濟基金規程

明治四十一年四月三十一日（各局、課、市訓令甲第十八號（各區役所）

第一條　此規程ニ依リ所有建物ノ火災ニ因ル損害ノ塡補ヲ受ケントスル區ハ市ト共ニ火災共濟基金ノ積立ヲ爲スヲ要ス

第二條　共濟ヲ受ケント欲スル者ハ建物ノ所在地、構造、種別、坪數、時價及罹災ノ際塡補ヲ受ケントスル金額ヲ各棟別ニ詳記シタル書面ヲ作製シ之ヲ火災共濟基金委員會ニ提出スヘシ

第三條　火災共濟基金ノ積立額ハ罹災ノ際塡補ヲ受ケントスル金額ニ對シ一箇年千分ノ四乃至十トス

前項ノ算出歩合ニハ千分ノ一以下ノ端數ヲ附スルヲ得ス

第四條　第二條ノ書類ヲ審査シ前條ノ積立金算出歩合ヲ決定シ並ニ塡補金額ヲ調査スル爲メ火災共濟基金委員會ヲ設置ス

委員會ノ組織左ノ如シ

一　委員長　　助役

二　委員　　（區長五名、課長三名、技師二名）

委員長及課長、技師ヨリ出ツル委員ハ市長之ヲ命シ區長ヨリ出ツル委員ハ現ニ火災共濟基金ノ積立ヲ爲ス區長ノ互選トシ毎年度初ニ於テ之ヲ改選ス

委員會ニ書記ヲ置キ事務員中ヨリ市長之ヲ命シ庶務ニ從事セシム

第五條　損害塡補ノ責任ハ積立金ヲ受領シタル時ヲ以テ始マリ翌年ノ之ニ應當スル日ノ午後零時ヲ以テ終ル但別ニ始期及終期ヲ定ムルコトヲ妨ケス

第六條　左ノ損害ニ對シテハ塡補ヲ爲ササルモノトス

一　重大ナル過失ニ因リ生シタル損害

二　天災、事變其他暴動等ノ爲メニ生シタル火災及其延燒ノ損害

第七條　火災共濟基金ノ積立ヲ爲ス建物ニ變更ヲ加ヘ又ハ其附近ニ火災ノ危險ヲ多カラシムヘキ事由ノ生シタルトキハ關係者ヨリ之ヲ火災共濟基金委員會ニ報告スヘシ

前項ノ報告ヲ怠リタルトキハ罹災ノ際塡補スヘキ金額ヲ減少スルコトアルヘシ

第八條　罹災ノ損害ニシテ建物時價ノ五分ノ四以内ナルトキハ爾後其殘存部分ニ對シ損害塡補ノ責アルモノトシ五分ノ四以上ナルトキハ其責ヲ免ルルモノトス

第九條　火災以外ノ事由ニ因リ又ハ第六條ノ災害ニ因リ建物滅失シタルトキハ其翌日以後ニ係ル既積立金ハ日割ヲ以テ之ヲ拂戻スモノトス

第十條　火災共濟基金ノ現在金ハ銀行預金ト爲シ利殖ヲ計ルモノトス

前項現在金ノ預托方法ハ火災共濟基金委員會ノ決スルトコロニ依ル

第十一條　火災共濟基金歲入出豫算ノ編成ハ火災共濟基金委員會ノ決定ヲ經ルモノトス

第十二條　火災共濟基金歲入出決算ハ之ヲ關係各區ニ報告スヘシ

第十三條　火災共濟基金ノ現在額三十萬圓ニ達シタルトキハ十萬圓以内ノ分配ヲ爲スコトヲ得

前項分配ノ割合ハ各積立ヲ爲シタル額ニ積立ノ翌年度ヨリ分配ノ前年度迄ノ年百分ノ五ノ利子ヲ加ヘタル額ニ應シ算出ス

前項積立ヲ爲シタル額ニハ前回ノ分配前ニ積立ヲ爲シタル額ヲ算入セス

第十四條　火災共濟基金ノ現在額ヲ以テ損害額ノ塡補ヲ爲スニ不足スル場合ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

第十五條　火災共濟基金ノ積立ヲ停止セントスル者ハ其停止ノ當時ニ於ケル前條ノ基金不足額ヲ分擔スヘシ其分擔ノ方法ハ第十三條第二項ノ例ニ依ル

●火災共濟ヲ受ケントスル場合書面二通提出方

明治四十一年七月十六日（各區長宛）
助役通牒庶發第千一號（各局課長）

東京市火災共濟基金規程ニ依リ所管建物ノ火災共濟ヲ受ケントスル場合ハ今後該規程第二條ノ書面二通ヲ作製シ御提出相成候樣致度此段及御通知候也

第十八類　物品

第十八類　物品

●市物品出納規程

明治三十九年四月二十七日（各課）
市訓令甲第十二號（所屬公廳）

第一條　此規程ニ於テ物品ト稱スルハ文書、債券及工事用材料ヲ除キタル市有ノ備品、消耗品、動物其他一切ノ動產ヲ謂フ

第二條　物品ノ種類、區分ハ別表ニ依ル

第三條　物品ノ出納ハ年度ヲ以テ區分シ每年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル十二箇月ヲ以テ一年度トス

年度所屬ハ出納シタル日ニ依リ區分スヘシ

第四條　物品出納ノ命令ハ管吏之ヲ爲スヘシ（明治四十一年三月九日市訓令甲第十三號及同年十月十九日市訓令甲第四十七號同年十二月十六日市訓令甲第五十三號同四十二年五月二十二日市訓令甲第十六號同四十四年五月十五日市訓令甲第二十三號、大正二年五月十四日市訓令甲第三十五號ヲ以テ本條第二項中改正追加）

前項ニ於テ管吏ト稱スルハ左ノ吏員ヲ謂フ

一　市役所、市直營學校、市設簡易圖書館、日比谷公園事務所ニ在リテハ　會計課長

一　市直接工事用器具機械竝機關運轉ニ要スル材料及器具機械（電氣局、下水改良事務所及淨水所ヲ除ク）　技師長

一　水道課及水道淨水所水源林事務所ニ在リテハ　水道課長

一　市設衞生試驗所ニ在リテハ　所長

一　區役所ニ在リテハ　區長

一　市立病院及養育院ニ在リテハ　院長

一　市立隔離所ニ在リテハ　隔離所長

一　第五號、第六號ノ市立病院及市立隔離所閉鎖中ニ在リテハ　衞生課長
（本號中第五號第六號トアルハ大正二年五月市訓令甲第三十五號ニ基キ自然ノ結果トシテ第六號第七號ニ該當スル義ト知ルヘシ）

一　公園事務所、墓地管理者詰所、市有地事務所ニ在リテハ　所管區長
（明治三十九年六月六日市訓令甲第十七號ヲ以テ本號中改正）

一　消毒所ニ在リテハ　所長

一　東京市立日比谷圖書館ニ在リテハ　主事

一　東京市立深川圖書館ニ在リテハ　首席事務員

一　東京市電氣局ニ在リテハ　電氣局經理課長
（明治四十四年八月一日市訓令甲第三十九號ヲ以テ本號追加）

一　下水改良事務所ニ在リテハ　總務課長
（明治四十五年三月三十日市訓令甲第十二號ヲ以テ本號追加）

第五條　物品ノ保管及其出納ヲ掌ラシムル爲メ物品出納吏ヲ置ク

物品出納吏ハ管吏ノ命令アルニ非サレハ物品ヲ出納スルコトヲ得ス

第六條　區長、課長其他之ニ準スヘキ吏員ハ物品取扱主任ヲ選定シ共用物品及日常需要アル消耗品ノ取扱ヲ爲サシムヘシ但市役所ニ於テハ物品取扱主任ヲシテ各吏員專用備品ノ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ニ依リ物品取扱主任ヲ選定シタルトキハ之ヲ物品出納吏ニ

通知スヘシ其交替シタルトキ亦同シ

第七條　物品ノ購入、生産其他物品出納吏ノ保管ニ屬スルヲ納トシ消耗、賣拂、亡失、廢棄、生産ノ爲メ消費其他其保管ヲ離ルルヲ出トス

第八條　物品出納吏ハ前條ノ保管ニ屬スヘキ物品ヲ接受スルトキハ物品收納簿ニ登記スヘシ

第九條　物品出納吏物品ヲ交付スルトキハ其受領者ヲシテ交付簿ニ登記證印セシムヘシ

返納品アリタルトキハ物品出納吏ニ於テ交付簿ニ登記スヘシ

第十條　日常ノ消耗品ハ一箇月以內ノ需要概算高ヲ見積リ物品取扱主任ニ交付スルコトヲ得

第十一條　交付ヲ受ケタル物品ニシテ不用ニ歸シタルモノ、修繕ヲ要スルモノ又ハ使用ニ堪ヘサルモノアルトキハ直ニ物品出納吏ニ返納スヘシ

第十二條　物品ノ亡失、毀損アリタルトキハ保管ノ責アル者ハ事由書ヲ調製シ直ニ管吏ニ屆出ツヘシ

動物ノ解剖、撲殺死亡アリタルトキ亦同シ

第十三條　毀損其他ノ事故ニ因リ修補ヲ加ヘ難キ物品ハ之ヲ廢棄品トシテ整理スヘシ

第十四條　物品ノ保管換ヲ爲ストキハ送付廳物品出納吏ハ送付書ト共ニ現品ヲ受送廳物品出納吏ニ送致シ受送廳物品出納吏ハ受領書ヲ送付廳物品出納吏ニ交付スヘシ

第十五條　物品出納吏ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ物品ノ出納ヲ整理スヘシ

備品出納簿
消耗品出納簿
動物出納簿
物品收納簿
備品交付簿
消耗品交付簿
動物交付簿
物品修繕整理簿
廢棄品整理簿
生産整整簿

第十六條　物品取扱主任ハ物品受渡簿ヲ備ヘ其取扱ヲ整理スヘシ」

第六條第一項但書ノ場合ニ於テハ專用備品交付簿ニ依リ其取扱ヲ整理スヘシ

第十七條　貯藏ノ物品ハ物品出納吏、專用ノ物品ハ專用吏員、其他ノ物品ハ物品取扱主任之ヲ保管スヘシ

第十八條　貯藏物品ハ取締アル場所ニ藏置シ品種ヲ區分シテ照合ニ便ナラシムヘシ

第十九條　管吏ハ物品出納吏ヲシテ廢棄品ヲ保管セシメ毎年度二回以上不用品ト共ニ之ヲ〔市參事會〕ニ報告スヘシ

傳染病等ノ爲メ汚穢シタル物品ニシテ管吏ニ於テ燒却スヘキモノト認メタルトキハ之ヲ施行シ直ニ〔市參事會〕ニ報告スヘシ

第二十條　物品出納吏又ハ物品取扱主任交替シタルトキハ前任者ハ直ニ其事務ヲ後任者ニ引繼クヘシ

前任者死亡其他ノ事故ニ因リ引繼ヲ爲ス能ハサル場合ニ於テハ管吏及課長其他之ニ準スヘキ吏員ハ他ノ吏員ヲシテ引繼ヲ爲サシムヘシ

別表

備品

金庫	長持	箪笥	戸棚	衝立					
屏風	帳場格子	卓子	机	椅子					
腰掛書架	本箱	狀箱	印箱						
下駄箱	硯箱	文鎭	文庫革封筒	鞄	水入	筆洗			
算盤	版木印	章印	得印	矩行李					
肉池	活字挾紙	挾狀	刺インキ入						
ペン立	石盤	繪圖書	籍諸標本						
簿冊	官報、雜誌時	計寒暖計	晴雨計						
顯微鏡	望遠鏡	鏡定規	軸木	度量衡					
製圖器具	測量器具	印刷器械	寫器械	醫術器械					

第二十一條　〔市參事會〕ハ毎年度一回以上檢查員ヲ命シ物品出納ノ整理及現品ヲ檢閱セシム物品出納吏交替シタルトキ亦同シ

第二十二條　此規程ニ依ル帳簿其他ノ樣式ハ別冊ニ定ム

第二十三條　此規程ハ明治三十九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十四條　此規程ニ抵觸スル從前ノ規定ハ之ヲ廢止ス

藥劑器具	消毒器具	セメント試驗器械	汽船用器具	園藝用器具
瓦斯用器具	教授用具	呼鈴	電鈴(附屬品共)	鐘
柏子木	喇叭	鞭	標札	札
簾	札・掛	帽子掛	窓掛	卓掛
諸上覆ヒ	風呂敷	布製袋	鏡	櫛
刷毛	マット	木槌	裁板	塗板
張板	糊板	置暖爐(附屬品共)	火鉢	手焙
焜爐	五德	火箸	炭取	十能
灰均	烟草盆	火入	灰吹	灰落
風呂桶	竈	釜	鍋	藥鑵
鐵瓶	土瓶	茶入	水差	茶碗槽
茶碗	コップ	盆	廣蓋	珈琲道具
飯櫃	椀	皿	鉢	壺
笊	箕	篩	柄杓	擔桶
手桶	水槽	水濾桶	小桶	バケツト
護謨管	手水鉢	石鹼入	盥	俎
水流シ	火鉢臺	水槽臺	洗面臺	椽臺

踏臺	傘臺	運搬臺	釣臺	紙打臺
燭臺	簿記臺	製圖臺	算盤臺	寢臺
毛布	蒲團	上敷布	衣著	抱卷
枕	蚊帳	氷嚢	ランプ	カンテラ
角燈	行燈	提灯	竹籠	屑籠
樽	塵取	啖吐器	塵取容器	消壺
消火器	ポンプ	梯子	箱番屋	幕
天幕	日覆	雨覆	釣竿	釣瓶
井戸車	井戸繩	薄緣	旗(附屬品共)	錨
斧	鋸	鑿	錐	鋏
小刀	ピンセット	鏝	剃刀	バリカン
鐵槌	鎌	鍬	鋤	馬鍬
庖丁	鉋	鉈	鑢	釘拔
螺旋廻シ	ヤットコ	鐵挺	鶴嘴	搔浚ヒ
鋤簾	シャブル	爪鍵	ブリキ鑵	熊手
如露	漏斗	雪搔	土剝器	油差
棒	竿	綱	船	船首

ローラル	木蛸	人力車	自轉車（附屬品共）	諸運搬車
泥舟	トロッコ	擔架	駕籠	杖
諸被服	諸貸與衣	帶	帽子	笠
簑	足袋	靴	呼吸器	傘
袖桐油	砥	金屬塊	礦物塊	其他以上ニ類スルモノ

消耗品

用紙	狀袋	薪	油	炭
石炭	コークス	蠟燭	ランプ用カサ、ホヤ、シン	燈芯
燐寸	附木	藁灰	筆	墨
インキ	墨汁	印肉	紐類	糸
繩	針	釘、鋲	布	綿
草履	活字	箒	塵拂	團扇
雜巾	油紙	海綿	石鹼	コロップ
新聞紙	茶	動物飼糧	飲食品	藥種
藥用材料品	教授用品	試驗管	塗料	磨砂
元結	水引	生麩	護謨	汚物燒却用樽
棺桶	果實	繪ノ具	野帳類	ペン先

鉛筆	砂紙	パツキング	パイスケ	バブレキ
襤褸	麻	土運箕	土篩	收入印紙
郵便切手	郵便端書	其他以上ニ類スルモノ		

動物

豕	鼠	兎	モロモット	鳩
牛	馬	犬	其他ノ動物	

東京市訓令甲第一二號別冊

（第一號様式）

何　年　度

備品（動物）出納簿

何　所

年月日	摘要	單位ノ稱	受	拂	現在				備考
					供増減	用現計	貯増減	藏現計	
治明 年									

（備考）

一　動物出納及現在數ノ報告ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ル

二　物品出納ノ區分ニ依リ別ニ消耗品ノ出納及貯藏數量ヲ整理ス

三　物品出納ノ整理ニ要スル帳簿ノ樣式ハ別ニ定ムル所ニ依ル

四　記帳ニ關スル事務ハ物品出納ノ事務ヲ掌ル者ニ於テ之ヲ處理ス

五　記帳ニ關スル事務ハ物品出納ノ事務ヲ掌ル者ニ於テ之ヲ處理ス

六　物品出納ノ事務ヲ掌ル者ハ毎月末ニ於テ現在數ヲ計算シ之ヲ證憑書類ニ依リ檢査スヘシ

七　物品出納ノ事務ヲ掌ル者ハ毎月末ニ於テ現在數ヲ計算シ之ヲ證憑書類ニ依リ檢査スヘシ

八　物品出納ノ事務ヲ掌ル者ハ毎月末ニ於テ現在數ヲ計算シ之ヲ證憑書類ニ依リ檢査スヘシ

九　物品出納ノ事務ヲ掌ル者ハ毎月末ニ於テ現在數ヲ計算シ之ヲ證憑書類ニ依リ檢査スヘシ

十　物品出納ノ事務ヲ掌ル者ハ毎月末ニ於テ現在數ヲ計算シ之ヲ證憑書類ニ依リ檢査スヘシ

（第一號様式）

何　年　度

備品出納簿

何　所

年月日	摘要	單位ノ稱	受	拂	現在				備考
					供増減	用現計	貯増減	藏現計	
明治 年									

（備考）

一　所屬經費ニ依リ區別シ消耗品ノ出納及貯藏數量ヲ整理ス

二　第一號様式ノ記載ニ準ス

第三號樣式
物品收納簿

品目	數量	單位之稱	單價	價格	收納事由 決議番號	科目	購入 契約月日	摘要	納期日	生產其他	管吏檢印	物品出納吏印	現品收納 年月日	調查者印	納人氏名	備考
			円	円												

（備考）
一　用紙ハ美濃判ヲ用フヘシ以下之ニ準ス

第四號樣式
備品交付簿

專用（又ハ共用）　課（又ハ掛名）　職　氏　名

科目	品目	數量	交付 管吏檢印	摘要	年月日	受領印	管吏檢印	返納亡失 事由	年月日	物品出納吏印	管吏檢印	事由届出年月日	物品出納吏印	備考

（備考）
一　共用、專用ニ依リ區別シ專用ハ更ニ專用吏員別ニ口座ヲ設クヘシ
二　物品取扱主任ニ各吏員專用備品ヲ交付スルトキハ前項ト區別シ且品目別ニ口座ヲ設クヘシ

第五號樣式
消耗品交付簿

交付 管吏檢印	年月日	科目	品目	數量	摘要	受領者職氏名	受領印	備考

（備考）
一　返納品アリタルトキハ其事由、年月日等ヲ備考欄ニ詳記シ管吏ノ檢印ヲ受クヘシ

第六號樣式
動物交付簿

專用（又ハ共用）　課（又ハ掛名）　職　氏　名

科目	品目	數量	交付 管吏檢印	摘要	年月日	受領印	返納死亡其他ノ處分 管吏檢印	摘要	年月日	物品出納吏印	備考

第七號樣式
物品修繕整理簿

品目	數量	修繕單價	同上價格	修繕決議番號	科目	修繕ノ爲メ拂渡 管吏檢印	年月日	摘要	納期日	修繕者氏名	修繕濟受納 管吏檢印	物品出納吏印	年月日	調查者印	備考
		円	円												

第八號樣式

廢棄品整理簿

廢棄決裁 管吏檢印	年月日	物品出納吏印	科目	品目	數量	廢棄事由	報告年月日	備考

第九號樣式

生産整理簿

生産ノ爲拂出 管吏檢印	年月日	物品出納吏印	科目	品目	數量	受領者 職氏名	受領印	生産收納月日	物品出納吏印	摘要

第十號樣式

物品受拂簿

年月日	摘要	受拂	拂先受領印	殘	備考

（備考）

一　共用品、消耗品ニ依リ區別シ品目毎ニ口座ヲ設クヘシ

二　簿首ニ各口座ノ索引ヲ附スヘシ

三　摘要欄ニハ受拂ノ事由及拂先等ヲ詳記スヘシ

四　拂先ヨリ返納品アリタルトキハ受トシテ整理スヘシ

五　備考欄ニハ共用品ノ所在等取扱上參考トナルヘキ事項ヲ記載スヘシ

第十一號樣式

専用備品交付簿

交付 品目	數量	摘要	年月日	受領印	返納 物品出納吏受領印	事由	年月日	亡失届出	備考

課（又ハ掛名）　職氏名

●市役所執務上半紙判使用方

明治四十五年三月十一日　市長　決判

本市ニ於テ執務上使用スル紙類ハ特別ノ規定アルモノ又ハ特殊ノ事由アルモノヲ除クノ外爾今總テ半紙ヲ用ユルモノトス

●物品取扱規程樣式中半紙判使用方

大正二年三月三十一日　市長判決一發第三千三百五十二號

物品取扱規程中樣式ノ部ニ於テ美濃判ヲ用フル旨明記シアルモ使用上支障ナキモノト認メタルトキハ半紙判ヲ以テ代用調製スルモノトス

●消耗品精算書提出方

大正二年五月十九日
第一部長通知一發第三千三百五十一號（各部長宛）

物品出納規程第十條ニ依リ交付セル物品ニ對シ大正二年四月以降各物品取扱主任者ヲシテ毎月精算書ヲ翌月五日迄ニ左記樣式ニ依リ提出セシメラレ度依命此段及通知候也

消耗員精算書樣式

本書ハ經濟種目別ニ調製シ當該課長ノ檢印ヲ受クルコト

何月中消耗品精算書					種目	
年　月　日						課物品取扱主任
左記精算候也						
物品出納吏宛						
名稱	單位ノ稱	越高	受高	拂高	殘高	備考
						使用ノ用途及參考トナルヘキ事項ヲ記スヘシ

●區役所會計掛長ヲシテ物品出納吏兼掌方

明治三十九年六月二十八日
市訓令甲第二十號（各區役所）

本年四月市訓令甲第十二號本市物品出納規程第五條ニ據ルヘキ物品出納吏ハ其區役所會計掛長ヲシテ之ヲ兼掌セシム（明治三十九年十月十三日市訓令甲第三十七號ニ基キ「出納掛長」ヲ「會計掛長」ト訂正ス）

●工事用物品購買豫定價格貳百圓未滿ノモノ契約保證物免除方

明治三十九年二月十九日
〔市參事會議決〕第七百二十四號

工事ニ要スル物品ニシテ購買豫定價格貳百圓未滿ノモノハ契約保證物ヲ徵セサルモノトス但製作其他ノ事由ニ依リ即納シ能ハサルモノハ此限ニアラス

●物件購入見積書及契約事項用紙ヲ一廉金貳百圓未滿ノ物品購入及修繕ニ關スル契約ノ場合使用方

明治四十三年一月十一日
〔市參事會議決〕第三十三號

別紙見積書兼契約事項用紙ハ從來百圓未滿ノ物件購入ニ際シ使用シ來リシモノナルモ今般市長委任事項擴張ニ付一廉貳百圓未滿ノ物品購入及修繕ニ關スル契約ニモ之ヲ使用スルモノトス但特殊ノモノニシテ別ニ示方書等ヲ付シ或ハ契約保證物ヲ領置スル必要アルモノハ此限ニ在ラス

（注意）三回以上納期ヲ怠リ又ハ違約處分ヲ受ケタル者ハ見積參加ヲ禁止スルコトアルヘシ

一金

內譯	品目	員數	單價	金額	摘要

前記見積價格ヲ以テ上納可仕候也

年　月　日

右前記見積金額ヲ以テ供給被命候ニ付テハ裏面ノ各項承諾ノ上無相違上納可仕御請仕候也

年　月　日　右

〔東京市參事會〕東京市長　殿

契約事項

〔東京市參事會〕ハ表記ノ物品ヲ購買スルニ付契約スル條項左ノ如シ

第一條　供給者ハ別紙示方書圖面等ニ遵由シ見本品ト同一ナル表記內譯ノ品種數量ヲ納付スヘク其納付ニ際シ若シ疑義ヲ生シタルトキハ掛員ノ解釋ニ從フ

第二條　納付期限ハ

納付場所ハ

第三條　納付物品ハ本市所定ノ檢査ニ合格シタルモノタルヘシ

前項檢査ニ要スル費用ハ供給者ノ負擔トス但本市ニ於テ特殊ノ檢査ヲ要スルモノト認ムルトキハ此限ニ在ラス

第四條　檢査ノ結果不合格品ヲ生シタルトキハ供給者ハ遲滯ナク之ヲ引取リ更ニ納品スヘシ但新タニ製作ヲ要スト認メタル不合格品ニ對シテハ特ニ相當日數ヲ指定シテ引換ヲ命スルコトアルヘシ

第五條　〔市參事會〕ハ都合ニ依リ表記內譯ノ品種數量ノ增減變更或ハ納付ノ中止ヲ命スルコトアルモ供給者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス此場合ニ於テ供給者ニ損害ヲ生スルコトアルモ之ヲ補償セス

第六條　第二條ノ納付期限又ハ第四條但書ノ指定日數ヲ經過シタルトキハ過怠金トシテ其經過日數ニ對シ一日ニ付ノ金額ヲ納付セシム

第七條　〔市參事會〕ハ物品ノ製作又ハ納入ニ際シ不正ノ所爲アリタルトキ若クハ製作所設備其他納入手配不充分ニシテ本契約履行ノ見込ナシト認メタル時ハ本契約ヲ解除スルコトアルヘシ」

前項ノ場合ニ於テ檢査結了受渡濟ノ數量ニ對シテハ表記內譯ノ

單價ニ據リ算定シタル金額ヲ支拂フ

第八條　代金ハ物品全部納付濟ノ上之ヲ支拂フ

第九條　本契約ヨリ生スル債權ハ讓渡スルコトヲ得ス

●給水用量水器購入契約方

明治四十二年十二月二十五日
市會議決第二百十九號

給水用量水器購入契約ハ其代金ノ支拂ヲ爲スヘキ年度ノ豫算決定前之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

●水道用鑄鐵管購買示方書

水改第二十一號）明治廿五年五月二十日市會議決（甲號）
同　年同月廿三日市會議決（乙號）

本市水道用鑄鐵管ハ別冊購買示方書ニ依リ甲號外國購買ノ契約ヲ爲スモノトス

甲日本帝國東京市水道用鑄鐵管購買示方書

第一章　總則

第一條　〔東京市參事會〕ハ本市水道用ノ爲メニ鑄鐵管ヲ購買スルニ付請負ヲ望ム者ハ本示方書ニ據リ納付ノ積ヲ以テ代價積書ヲ差出スヘシ

第二條　〔市參事會〕ハ前條ノ積書ニ就テ精密ナル調査ヲ遂ケ積書價格ノ高低ニ拘ハラス本市ニ最モ利益アリト認ムル製造人ニ請負ヲ命スルモノトス但〔市參事會〕ノ都合ニヨリ請負ヲ命セサルコトアルヘシ

第三條　請負ヲ命セラレタル請負人ハ第五條ノ代理人ト連署ヲ以テ請書ヲ差出スヘシ

第四條　請負人ハ契約保證トシテ請負金高ノ百分ノ十ニ對スル公債證書外國公債ヲ除ク又ハ〔市參事會〕ノ指定スル銀行或ハ會社ノ株券若クハ銀行ノ預金證書ヲ差出スヘシ

第五條　請負人ハ東京或ハ橫濱ニ於テ〔市參事會〕カ相當ト認ムル代理人ヲ置キ〔市參事會〕ニ對スル請負人ノ總テノ責任ヲ負ハシムヘシ

第六條　請負人ハ〔市參事會〕ノ認許ヲ經スシテ請負ノ全部或ハ其一部ヲ下請セシメ又ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第七條　請負人〔市參事會〕ノ認許ヲ經スシテ納付ノ日限ヲ遲延シタルトキハ〔市參事會〕ハ違約損害ノ賠償トシテ遲延日數每一日ニ付其遲延シタル物品代價ノ千分ノ五宛ヲ徵收ス

第八條　請負人請負契約後自己ノ都合ヲ以テ解約ヲ請フトキハ〔市參事會〕ハ第四條ノ保證金ヲ沒收ス

第九條　請負人示方書ノ條項ニ背戻シ到底請負ヲ完結スルコト能ハスト認ムルトキハ〔市參事會〕ハ請負契約ヲ解キ第四條ノ保證金ヲ沒收スルコトアルヘシ但此場合ニ於テ〔市參事會〕カ直接ニ蒙リタル損害ハ別ニ之ヲ賠償セシム

第十條　本示方書第二章以下ノ諸條項及附屬書類圖面ノ解釋物品ノ受否等ニ付テハ主任技師ノ判定ニ從フヘシ

第二章　鑄鐵管數量及代價

第十一條　購買スヘキ鑄鐵管ノ數量ハ本示方書ニ附屬スル材料表ノ通ニシテ大約貳萬噸トス但實際ノ需用量ハ多少增減アルヘシ

第十二條　鑄鐵管ハ別紙略圖ニ示ス如キ形狀ノ挿口及承口ヲ有スヘキモノトス

第十三條　各種鑄鐵管ノ代價ハ請負人ノ自費ヲ以テ東京市佃島埋地ニ運送陸揚受授ノ後ニ〔市參事會〕カ仕拂フヘキ重量每噸代價請負人本國ノ通貨ヲ以テ算出スト

第十四條　異形管卽チ彎管、丁字管、突緣管等ニ對スル重量每壹噸ノ代價ハ別ニ申出ヘシ但其數量ハ大約鑄鐵管全量ニ對シ普通水道工事ニ要スル割合トス

第三章　鐵質及製造法

第十五條　〔市參事會〕ハ製造人ニ各特有ノ製造法ヲ用フルノ便宜ヲ得セシメンカ爲メニ特ニ左ノ諸項ヲ一定セス故ニ代價積書ヲ附シテ各項トモ詳細ノ調書ヲ差出スヘシ

一　用鐵ノ抗張强、抗橫斷强及撓度

二　印籠繼管ノ承口及挿口ノ寸法但第十二條ニ揭クル形狀ヲ有スルモノ

三　各鐵管ノ有效長

四　各鐵管ノ厚

五　各鐵管壹本ノ豫定重量

第十六條　用鐵ハ其破碎面灰色ニシテ粒狀緻密全體同質ニシテ爐滓或ハ粗雜ノ金屬ヲ含有スヘカラス且其質强靭ニシテ容易ニ鑢ヲ以テ磨耗シ得ヘキモノタルヘシ

第十七條　鐵質試驗ノ爲メ鐵管鑄造ト同時ニ熔爐每ニ追テ指定スヘキ數ノ試驗片ヲ鑄造シ左ノ試驗ノ用ニ供ス

一　抗張强試驗

二　抗橫斷强及撓度試驗

三　分析試驗

第十八條　鑄鐵管ハ總テ所定ノ徑、長、挿口及承口ノ形狀ヲ有シ斷面ハ眞圓ニシテ內外面トモ同心圓タルヘシ

第十九條　總テ直管ハ承口ヲ下方ニ爲シ乾燥ナル砂製竪立模型ニテ鑄造シ心留栓ノ類ハ一切之ヲ使用スルコトヲ許サス又挿口ノ端ハ最初ニ充分長ク鑄造シ後ニ旋盤ヲ以テ切斷スルモノトス

第二十條　鑄鐵管各部ニ不等ノ收縮或ハ歪形ヲ生セサラシメン爲メニ鑄造後充分ノ時間其位置ニ靜止セシムヘシ

第二十一條　鑄鐵管ハ砂竅、氣泡、罅裂其他鑄造上ノ缺點ナク內外面トモ平滑ニシテ凸凹アルヘカラス又鉛其他ノモノヲ以テ缺點ヲ補塡スヘカラス

第二十二條　各鑄鐵管ニハ一定ノ場所ニ於テ製造所ノ名稱、東京市水道ナル文字、年號及番號ヲ少クトモ一分ノ高サニ鑄出スヘシ

第二十三條　鑄鐵管ハ其全體ヲ研磨シテ表面ニ附著シタル土砂塵埃等ヲ除去シ第二十五條ノ檢査ヲ經タル後之ヲ攝氏百五十度ノ熱度ニ燹メ主任技師ノ認可スル同熱度ノ防銹液中ニ浸シ適度ノ時間ヲ經テ之ヲ取出シ乾燥セシムヘシ但其被包面ハ黑色ニシテ稍光澤アリ堅固ニ附著シテ容易ニ剝脫シ能ハサルモノタルヘシ」

鑄鐵管ヲ研磨スルニハ酸類及其他ノ催腐劑ヲ使用スルコトヲ許サス又研磨ノ後直ニ塗料中ニ浸スコト能ハサルモノハ塗料ニ浸ス迄ノ間其面ニ亞麻仁油ヲ塗リテ之ヲ保存スヘシ

第四章　檢査

第二十四條　〔市參事會〕ハ製造中終始一人若クハ數人ノ代理者ヲシテ製造法ノ適否ヲ鑑査シ鐵質ノ良否強弱其他各種ノ試驗ヲ監督セシムヘシ

前項ノ試驗ハ總テ〔市參事會〕ノ代理者カ適當ト認ムル所ノ方法ニヨリ代理者ノ指揮ニ從ヒ之ヲ施行シ之ニ要スル費用及諸器械ノ設備ハ請負人之ヲ負擔スヘシ

第二十五條　鑄鐵管ハ內外ノ兩面ヲ檢査シ輕重大小厚薄ヲ計量シ且鎚ヲ以テ之ヲ打チ鑄造上缺點ノ有無ヲ檢査スヘシ

第二十六條　總テ鑄鐵管ハ拾五氣壓ノ水壓試驗ヲ爲シ試驗中ハ絕ヘス重量大約六百目ノ鐵鎚ヲ以テ管ノ各部ヲ打擊ス但自然流下用ノ管ハ拾氣壓ヲ以テ試驗ス

第二十七條　前條ノ試驗ヲ了シタル各管ハ白ペンキヲ以テ其重量及番號ヲ一定ノ箇所ニ記載スヘシ

第二十八條　左ノ諸項ニ該當スル者ハ之ヲ擯却ス

一　管ノ重量規程ヨリ百分　ノ以上過少ナルモノ

二　管ノ厚サ同一ナラス其薄部規程ヨリ　以上薄キモノ

三　管ノ內徑規程ヨリ　以上過少ナルモノ

四　管ノ承口ノ內徑　以上過少ナルモノ若クハ　以上過大ナルモノ

五　管ノ揷口ノ外徑　以上過大ナルモノ若クハ　以上過少ナルモノ

六　塗料ノ剝脫シタルモノ及錆蝕ヲ生シタルモノ

七　其他本示方書ニ明文アル規定ニ違背スルモノ

第二十九條　試驗ヲ爲スニ足ラスト認メタル鑄鐵管ハ直ニ之ヲ擯却ス

第三十條　東京市佃島埋地ヘ鑄鐵管到著ノ後更ニ〔市參事會〕ノ費用ヲ以テ試驗ヲ施行ス此場合ニ於テ第二十八條ニ規定セル諸項ニ該當スト認メタル鐵管ハ〔市參事會〕代理人ノ承認ヲ經タルモノト雖モ之ヲ擯却ス

第三十一條　擯却セラレタル鑄鐵管ハ請負人ノ自費ヲ以テ直ニ之ヲ破壞スルカ又ハ鑄出ノ東京市水道ナル文字ヲ削除シ且同番號ノ鐵管ヲ製造スヘカラサルモノトス

第五章　受授及仕拂

第三十二條　鑄鐵管ノ納付ハ〔市參事會〕ノ指定スル仕譯書ニ從ヒ請負契約濟ノ日ヨリ起算シ百二十日以內ニ之ヲ始メ爾後每二箇月ニ全請負額十分ノ一以上ヲ納付シ滿二年以內ニ請負全額ヲ納付スヘシ

第三十三條　請負人ハ納付ノ都度鐵管ノ種類內徑番號及重量ヲ記載シタル目錄及勘定書各二通宛ヲ差出スヘシ

第三十四條　諸鐵管代價ハ東京市佃島埋地ニ於テ受授ノ際秤量シタル重量ニ對シ左ノ規定ニ從ヒ之ヲ仕拂フヘシ

一　各鐵管ノ重量規定ヨリ　以內ノ過不足アルトキハ其實際ノ重量ニ對スル代價ヲ仕拂フヘシ

二　各鐵管重量ノ過百分　ヲ超過スルトキハ其超過重量ニ對シテハ代價仕拂ヲ爲ササルヘシ

三　前二項ノ規定ニヨリテ時時鐵管代價ノ仕拂ヲ爲スヘシト雖モ請負全額ニ付テ總計算ヲ爲シ代價仕拂ヲ爲シタル重量カ規定重量ノ百分ノ一ニ超過スル場合ニ於テハ其超過重量ニ對シテハ代價ヲ仕拂ハサルヘシ

第三十五條　受授以前ニ破碎シタル管ハ擯却スルコト勿論ナリト雖モ請負人自費ヲ以テ之ヲ切斷スルトキハ用途アル分ニ限リ之ヲ購買スルコトアルヘシ

第三十六條　擯却セラレタル鑄造品ハ其擯却ノ理由何タルヲ問ハス請負人ノ自費ヲ以テ直ニ之ヲ引取ルヘキモノトス

第三十七條　鑄鐵管ハ東京市佃島埋地ニ於テ主任技師カ檢査及試驗ヲ爲シタル後〔市參事會〕ヨリ受否ヲ通牒シタル日ヲ以テ受授ノ結了トス

第三十八條　代價仕拂ハ物品受授濟ノ後十五日以內ニ物品目錄ニ照シテ代價ヲ計算シ當日ノ金貨相場ニ據リ日本通貨ヲ以テ仕拂フヘシ

乙東京市水道用鑄鐵管購買示方書

第一章　總則

第一條　〔東京市參事會〕ハ本市水道用ノ爲メニ鑄鐵管ヲ購買スル ニ付請負ヲ望ム者ハ本示方書ニ據リ製造納付ノ積ヲ以テ製造ニ要スル諸設備ノ計畫及圖面相添代價積書ヲ差出スヘシ

第二條　〔市參事會〕ハ前條ノ積書ニ就テ精密ナル調査ヲ遂ケ積書價格ノ高低ニ拘ハラス本市ニ最モ利益アリト認ムル製造人ニ請負ヲ命スルモノトス但〔市參事會〕ノ都合ニヨリ受負ヲ命セサルコトアルヘシ

第三條　請負人ハ冶金學士及機械學士各一名以上ヲ製造ニ從事セシムルヲ要ス

第四條　請負ヲ命セラレタル請負人ハ保證人連署ヲ以テ請書ヲ差出スヘシ

第五條　請負人ハ契約保證トシテ請負金高ノ百分ノ十ニ對スル公債證書又ハ〔市參事會〕ノ指定スル銀行或ハ會社ノ株券若クハ銀行ノ預金證書ヲ差出スヘシ

第六條　請負契約後　箇月以內ニ鐵管鑄造ニ著手スヘシ

第七條　請負人ハ〔市參事會〕ノ認許ヲ經スシテ請負ノ全部或ハ其一部ヲ下請負セシメ又ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第八條　請負人ハ〔市參事會〕ノ認許ヲ經スシテ納付ノ日限ヲ遲延シタルトキハ〔市參事會〕ハ違約損害ノ賠償トシテ遲延日數毎一日ニ付其遲延シタル物品代價ノ千分ノ五宛ヲ徵收ス

第九條　請負人請負契約後自己ノ都合ヲ以テ解約ヲ請フトキハ〔市參事會〕ハ第五條ノ保證金ヲ沒收ス

第十條　請負人示方書ノ條項ニ背戻シ到底請負ヲ完結スルコト能ハスト認ムルトキハ〔市參事會〕ハ請負契約ヲ解キ第五條ノ保證金ヲ沒收スルコトアルヘシ但此場合ニ於テ〔市參事會〕カ直接ニ蒙リタル損害ハ別ニ之ヲ賠償セシム

第十一條　本示方書第二章以下ノ諸條項及附屬書類圖面ノ解釋物品ノ受否等ニ付テハ主任技師ノ判定ニ從フヘシ

第二章　鑄鐵管數量及代價

第十二條　購買スヘキ鑄鐵管ノ數量ハ本示方書ニ附屬スル材料表ノ通ニシテ大約貳萬噸トス但實際ノ需用量ハ多少增減アルヘシ

第十三條　各種鑄鐵管ノ代價ハ請負人ノ自費ヲ以テ本市内ニ於テ時時指定スヘキ河岸物揚場ニ運送陸揚受授ノ後ニ〔市參事會〕カ仕拂フヘキ重量毎壹噸（一千キログラム）ノ代價トス

第十四條　異形管即チ彎管、丁字管、突緣管等ニ對スル重量毎壹噸ノ代價ハ別ニ申出ヘシ但其數量ハ大約鑄鐵管全量ニ對シ普通水道工事ニ要スル割合トス

第三章　鐵質及鑄造法

第十五條　用鐵ハ其破碎面灰色ニシテ粒狀緻密全體同質ニシテ爐滓或ハ粗雜ノ金屬ヲ含有スヘカラス且其質强靭ニシテ容易ニ鑢ヲ以テ磨耗シ得ヘキモノタルヘシ

第十六條　鐵質試驗ノ爲メ鐵管鑄造ト同時ニ熔爐毎ニ追テ指定スヘキ數ノ試驗片ヲ鑄造シ左ノ試驗用ニ供スヘシ

一　抗張强試驗

壹平方ミリメートルニ付拾四キログラム以上ノ强度ヲ要ス

二　抗橫斷强試驗

長六百五拾ミリメートル幅貳拾五ミリメートル高五拾ミリメートルノ試驗片ヲ六百ミリメートルノ距離ニ於ケル二個ノ圭子ニテ支柱シ中央ニ載荷シテ其重量九百七拾キログラム以上ニ耐ヘ且中央ニ於テ六ミリメートル以上ノ撓度ヲ示スヘキモノトス

三　分析試驗

第十七條　鑄鐵管ハ總テ所定ノ徑、長、厚、挿口及承口ノ形狀ヲ有シ斷面ハ眞圓ニシテ内外面トモ同心圓タルヘシ

第十八條　總テ直管ハ承口ヲ下方ニ爲シ乾燥ナル砂製竪立模型ニテ鑄造シ心留栓ノ類ハ一切之ヲ使用スルコトヲ許サス又挿口ノ端ハ最初ニ充分長ク鑄造シ後ニ旋盤ヲ以テ之ヲ切斷スルモノトス

第十九條　鑄鐵管各部ニ不等ノ收縮或ハ歪形ヲ生セサラシメン爲メニ鑄造後充分ノ時間其位置ニ靜止セシムヘシ

第二十條　鑄鐵管ハ砂竇、氣泡、罅裂其他鑄造上　缺點ナク内外面トモ平滑ニシテ凸凹アルヘカラス又鉛其他ノモノヲ以テ缺點ヲ補塡スヘカラス

第二十一條　各鑄鐵管ニハ一定ノ場所ニ於テ製造所ノ名稱、東京市水道ナル文字、年號及番號ヲ少クトモ一分ノ高サニ鑄出スヘシ

第二十二條　鑄鐵管ハ其全體ヲ研磨シテ表面ニ附著シタル土砂塵埃等ヲ除去シ第二十四條ノ檢查ヲ經タル後之ヲ攝氏百五十度ノ熱度ニ煖メ主任技師ノ認可スル同熱度ノ防錆液中ニ浸シ適度ノ時間ヲ經テ之ヲ取出シ乾燥セシムヘシ但其被包面ハ黑色ニシテ稍光澤アリ堅固ニ附著シテ容易ニ剝脫シ能ハサルモノトス

鑄鐵管ヲ研磨スルニハ酸類及其他ノ催腐劑ヲ使用スルコトヲ許サス又研磨ノ後直ニ塗料中ニ浸スコト能ハサルモノハ塗料ニ浸ス迄ノ間其面ニ亞麻仁油ヲ塗リテ之ヲ保存スヘシ

第四章　檢查

第二十三條　〔市參事會〕ハ製造中終始主任技師若クハ其代理人ヲシテ製造法ノ適否ヲ鑑查シ鐵質ノ良否强弱其他各種ノ試驗ヲ監督セシムヘシ

前項ノ試驗ハ總テ主任技師カ適當ト認ムル所ノ方法ニヨリ其指揮ニ從ヒ之ヲ施行シ之ニ要スル費用及諸器械ノ設備ハ請負人之ヲ負擔スヘシ

第二十四條　鑄鐵管ハ内外ノ兩面ヲ檢查シ輕重大小厚薄ヲ計量シ且鎚ヲ以テ之ヲ打チ鑄造上缺點ノ有無ヲ檢查スヘシ

第二十五條　總テ鑄鐵管ハ十五氣壓ノ水壓試驗ヲ爲シ試驗中ハ絕ヘス重量一百目ノ鐵鎚ヲ以テ管ノ各部ヲ打擊ス但自然流下用ノ管ハ拾氣壓ヲ以テ試驗ス

第二十六條　前條ノ試驗ヲ了シタル各管ハ白ペンキヲ以テ其重量及番號ヲ一定ノ箇所ニ記載スヘシ

第二十七條　左ノ諸項ニ該當スル者ハ之ヲ擯却ス

一　管ノ重量規定ヨリ百分ノ　以上過少ナルモノ

二　管ノ厚サ同一ナラス其薄部規定ヨリ　以上薄キモノ

三　管ノ内徑規定ヨリ　以上過少ナルモノ

四　管ノ承口ノ内徑　以上過少ナルモノ若クハ　以上過大ナルモノ

五　管ノ挿口ノ外徑　以上過大ナルモノ若クハ　以上過少ナルモノ

六　塗料ノ剝脫シタルモノ及銹蝕ヲ生シタルモノ

七　其他本示方書ニ明文アル規定ニ違背スルモノ

第二十八條　試驗ヲ爲スニ足ラスト認メタル鑄鐵管ハ直ニ之ヲ擯却ス

第二十九條　前數條ニ規定セル試驗及檢查ノ際主任技師或ハ其代理人カ擯却セサリシ諸鐵管ト雖モ最後ノ受授以前ニ不合格品タルコトヲ發見スルコトアレハ〔市參事會〕ハ尙之ヲ擯却ス

第三十條　擯却セラレタル鑄鐵管ハ請負人ノ自費ヲ以テ直ニ之ヲ破壞スルカ又ハ鑄出ノ東京市水道ナル文字ヲ削除シ且同番號ノ

鐵管ヲ製造スヘカラサルモノトス

第五章　受授及仕拂

第三十一條　鑄鐵管納付期限ハ製造者手ノ日ヨリ起算シ毎二箇月ニ弐千噸以上ヲ納付スヘシ

第三十二條　請負人ハ納付ノ都度鐵管ノ種類内徑番號及重量ヲ記載シタル目錄及勘定書各二通宛ヲ差出スヘシ

第三十三條　諸鐵管代價ハ其重量ニ對シ左ノ規定ニ從ヒ之ヲ仕拂フヘシ

一　各鐵管ノ重量規定ヨリ百分ノ　以内ノ過不足アルトキハ其實際ノ重量ニ對スル代價ヲ仕拂フヘシ

二　各鐵管重量ノ過百分　ヲ超過スルトキハ其超過重量ニ對シテハ代價仕拂ヲ爲ササルヘシ

三　前二項ノ規定ニヨリテ時時鐵管代價ノ仕拂ヲ爲スヘシト雖モ請負全額ニ付テ總計算ヲ爲シ代價仕拂ヲ爲シタル重量カ規定重量ノ百分ノ一ニ超過スル場合ニ於テハ其超過重量ニ對シテハ代價ヲ仕拂ハサルヘシ

第三十四條　受授以前ニ破碎シタル管ハ擯却スルコト勿論ナリト雖モ請負人自費ヲ以テ之ヲ切斷スルトキハ用途アル分ニ限リ之ヲ購買スルコトアルヘシ

第三十五條　鑄鐵管ハ「市參事會」ヨリ受否ヲ通牒シタル日ヲ以テ受授ノ結了トス

第三十六條　代價支拂ハ物品受授濟ノ價格金五萬圓ニ達スル毎ニ之ヲ仕拂フヘシ

●水道用具購買ニ鐵管購買示方書準用方

明治二十五年十一月七日
市會議決水改第二十六號

水道用具ノ內阻水弁、量水器、安全瓣、消火栓、共用栓、水留栓、喞筒機等ニシテ鑄鐵管購買手續ニ類セル購買契約ヲ爲スモノハ水道用鑄鐵管購買示方書ニ準ス

●水道用異形管無試驗採用方

明治三十年三月二日
市會議決水改第二百九號

本市水道用異形管中彎管及丫字管ヲ試驗スルニハ新ニ水壓試驗機ヲ調製セサルヘカラサルニヨリ其費用尠少ナラス且非常ノ手數ヲ要スルヲ以テ實用上差支ナシト認定スルモノハ水壓試驗ヲ施行セス又重大ニシテ備付機械ヲ以テ重量檢査ヲ施行シ難キモノハ計算重量ヲ以テ採用スルモノトス

●市「ポルトランドセメント」試驗規程

大正二年五月十二日（各部）
市訓令甲第三十三號（各課）

第一條　本市ニ於テ施行スル「ポルトランドセメント」試驗法ハ以下各條ニ定ムルモノヲ除クノ外明治三十八年農商務省告示第三十五號及明治四十二年同省告示第四百八十五號「ポルトランドセメント」試驗法ニ依ルモノトス

第二條　「セメント」ハ各二十樽ヲ以テ一口トシ之ヲ試驗スヘシ但シ場合ニ依リ增減スルコトヲ得

第三條　容器ノ外見檢查ハ樽ノ構造堅牢ノ度合損所竝ニ「セメント」散出ノ有無ヲ檢查シ其不良ト認ムルモノ及不審ノ箇所アルモノハ之ヲ擯却スヘシ

第四條　「セメント」ノ外見檢查ハ本市ノ指定シタル各一口ノ樽數ニ對シ其一割以上ノ樽ヲ選定シ鏡蓋ヲ取リテ檢查ヲ施行シ不良ト認ムルトキハ之ヲ擯却スヘシ

第五條　「セメント」ノ重量ハ各樽ニ就キ重量ヲ量リ其重量ヨリ空樽ノ重量ヲ控除シタル殘數ヲ正味重量トス

第六條　試驗ノ供試品ハ第二條乃至第五條ノ檢查ヲ終リタル後本市ノ指定シタル各一口樽數ノ二割以上ニ就キ之ヲ採取シ供試品容器ニ收メ且ツ密封シ所定ノ要項ヲ記載シ採取ヲ行ヒタル吏員其容器ニ封印ヲ施スヘシ

供試品採取法ハ第四條ニ依リ外見檢查ヲ了シタルモノヨリ供試品ノ半數ヲ均等ニ採取シ他ノ半數ハ鏡蓋ヲ取ラサル樽ヨリ「ポールト」錐ヲ以テ穿孔シ金差ニテ均等ニ採取スヘシ

第七條　「セメント」ノ膨脹性龜裂ニ關スル檢定ニハ浸水法及沸煮法ヲ併用スルモノトス但シ浸水法ニ依ル檢定時日ヲ猶豫シ得サル場合ハ沸煮法ニ依リ之ヲ檢定シ浸水法ヲ省略スルコトヲ得

第八條　純「セメント」ノ耐伸强ハ七日間（但空氣中二十四時間）固結セシメタル後ニ於テ其耐伸强ハ每平方「センチメートル」ニ付キ四拾「キログラム」以上タルヘシ

第九條　「セメント」試驗ニ使用スル砂ハ玉川產洗砂トシ其篩分方法等ハ總テ標準砂ノ規定ニ準ス

以上

●調度課試驗場及月島鐵管試驗場勤務ノ吏員ニ對シ水道吏員特別手當支給標準準用方

明治四十四年六月十六日
（市參事會議決）第三千四十八號

本年五月十六日（市參事會議決）第二四二一號水道吏員特別手當支給方ノ件ヲ調度課試驗場及月島鐵管試驗場勤務ノ吏員ニ準用スルモノトス

●職工定工夫ノ使役ニ關係アル調度掛員ノ勤務時間及休暇日

明治三十九年一月三十一日（調度課）
市訓令甲第四號（調度課）

職工定工夫ノ使役ニ關係アル各係員ノ勤務時間竝ニ休暇日ハ當分ノ內明治三十八年十二月市訓令甲第五十號ノ規程ヲ準用ス

●調度ニ屬スル職工定工夫規程

明治三十九年一月三十一日（調度課）
市訓令甲第五號

職工定工夫規程ハ當分ノ內明治三十八年十二月市訓令甲第四十九號ノ規程ヲ準用ス（明治四十四年三月三十日市訓令甲第十二號ヲ以テ職工定工夫規程中改正ニ付右實施ノ日ヨリ之ヲ調度課職工定工夫ニ準用ノ件同年四月二十一日市參事會第千九百八十八號ヲ以テ議決）

●月島材料置場番人服務心得

明治三十五年十一月五日
市長判決土發第二千五百九號

月島材料置場番人之儀ハ便宜直營砂利採掘月島事務所ヲシテ管理セシムル方得策ト認ムルニ付自今同事務所ノ管理ヲ受ケシムルモノト爲シ尙左記之通リ番人服務心得ヲ制定スルモノトス

一　月島材料置場番人ハ東京多摩川砂利採掘月島事務所ノ指揮ニ從フヘシ
二　諸材料積卸之際ハ當該吏員ノ指揮ニ從ヒ物件ノ散亂セサル樣注意スヘシ
三　番人ハ場內日誌ヲ整ヘ其日ノ事故ヲ記入スヘシ
四　場內ハ每ニ巡視シ物件ニ異狀ナキヤ否ヲ注意シ異狀アリト認メタルトキハ事務所ヘ申出テ指揮ヲ受クヘシ

●土木工事用準備樁材使用方

明治三十七年十二月十二日
（市參事會議決）第六千十一號

本市土木工事ニシテ準備樁材ヲ使用スヘキ設計ノ場合ニ於テ所定寸法ノモノナキトキハ現存セル他ノ寸法ノモノヲ隨時使用スルモノトス但工事落成ノ上其實際使用セシ數量ヲ報告スルモノトス

●多摩川砂利及砂直營採掘事務規程

明治三十八年五月十五日
市訓令甲第三十一號（土木課、土木課出張所多摩川砂利採掘事務所）

（明治三十九年一月二十日市訓令甲第三號ヲ以テ本規程中第四、九、十一、十三、十七、十八、二十五、二十六、二十八、二十九、三十一、三十六、三十八、四十一、四十二條中「土木課長」ヲ「調度課長」ト改メ第十四、十五、二十一、二十四、四十六條中「土木課」ヲ「調度課」ト改メ第六條中目的トシノ下「土木課長」ヲ「調度課長、土木課長ト協議シテ」ト改メ第七條中土木課長ノ下ニ「調度課長ト協議シテ」ノ九字ヲ加ヘ第二十七條中「正一寸目砂拔飾砂利立一坪ニ付」「金參圓壹錢」ヲ「金參圓七拾六錢」ニ「正八分目砂拔飾砂利立一坪ニ付」「金參圓八拾壹錢」ヲ「金四圓五拾六錢」ニ「切込砂利（砂利四分）立一坪ニ付」「金貳圓拾壹錢」ヲ「貳圓八拾六錢」ニ「洗砂立一坪ニ付」「金壹圓四拾壹錢」ヲ「金貳圓拾六錢」ニ「大玉砂利立一坪ニ付」「金貳圓六拾壹錢」ヲ「金參圓參拾六錢」ニ改正シ「中玉砂利立一坪ニ付」「金貳圓四拾壹錢」ヲ「金參圓拾六錢」ト改正シ第三十二條中「枡立貫」「金五錢」ヲ「金貳拾錢」ト改正シ計金ニ何レモ「金拾五錢宛」ヲ追加シ第三十三條、第三十四條、第三十五條中「安宅町土木課出張所」ヲ「月島調度課出張所」ト改正シ書式第一號、二號、三號、四號、五號、七號中「土木課長」ヲ「調度課長」ト改メ同九號中「枡立貫」「五錢」ヲ「貳拾錢」ト改正同四十年五月二十五日市訓令甲第十四號、同年十一月二十二日市訓令甲第三十五號、同四十二年十月十六日市訓令甲第三十三號、同四十三年三月三十日市訓令甲第十六號ヲ以テ第三十二條運送賃及第九號書式運送賃改正、同四十年七月一日市訓令甲第十七號ヲ以テ第二、三、五、二十一條中改正、同四十一年五月六日市訓令甲第三十號及同四十二年五月十九日市訓令甲第十五號、同四十三年一月十七日市訓令甲第二號、同年三月三十日市訓令甲第十六號ヲ以テ第二十七條中採掘賃改正、同四十四年四月十九日市訓令甲第二十號ヲ以テ第二十七、三十二條及附屬第九號書式中改正、同年七月四日市訓令甲第三十二號ヲ以テ第二十七條中改正シ卽日ヨリ實施ス同年九月七日市訓令甲第四十二號ヲ以テ第三十二條及第九號書式中改正卽日ヨリ實施ス同四十五年五月一日市訓令甲第二十三號ヲ以テ第三十二條及第九號書式中改正卽日ヨリ實施ス大正元年八月三十日市訓令甲第二號ヲ以テ第二十七條中改正同月二十一日ヨリ實施ス）

第一章　總則

第一條　本市ニ於テ直營スル多摩川砂利及砂採掘ニ關スル事務ハ此規程ニ依リ處理スルモノトス

第二條　採掘ニ關スル事務ヲ處辨スル爲メ事務所及出張所ヲ左ノ通リ設置ス

	名稱	位置
東京市多摩川砂利採掘事務所		東京府下荏原郡六鄕村大字古川
月島調度課出張所		東京市京橋區月島

第三條　事務所及出張所ニ左ノ職員ヲ置ク但主任ハ採掘事業ニ經

驗ヲ有シ且身元確實ナル者ニ囑託スルモノトス

多摩川砂利採掘事務所

一　主任　一名
一　助手　一名

主任ハ事務ヲ掌理シ助手ハ主任ノ指揮監督ヲ承ケ所務ニ從事ス

月島調度課出張所

一　事務擔當　一名
一　副擔當　一名

事務擔當ハ調度課長ノ指揮監督ニ從ヒ砂利配途其他ニ關スル事務ヲ掌理ス

第四條　事務所ニ小使一名ヲ置キ調度課長之ヲ任免ス

第五條　事務所及出張所ニ左ノ帳簿及圖面ヲ備置クモノトス但整理上必要アルトキハ別ニ設クルコトヲ得

多摩川砂利採掘事務所

一　出勤簿
一　解船臺帳
一　仁田利船臺帳
一　同附屬品臺帳
一　備品臺帳
一　採掘場圖面
一　定繫場圖面
一　小頭及副小頭名簿

一　船頭名簿
一　採掘日計簿
一　運送日計簿
一　附屬品受渡簿
一　消耗品受拂簿
一　船舶附屬品其他修繕ニ關スル書類綴
一　諸報告書控綴
一　往復文書綴
一　備品、消耗品、附屬品其他請求ニ關スル書類綴
一　採掘事務ニ關スル例規綴
一　日誌
一　雜綴

月島調度課出張所

一　出勤簿
一　砂利受拂簿
一　砂利配付計算簿
一　消耗品受拂簿
一　備品臺帳
一　往復文書綴
一　日誌

第六條　採掘運送スヘキ品種、數量及陸揚場所ハ毎年度ノ始メニ於テ豫算額ヲ目的トシ調度課長土木課長ト協議シテ之ヲ定ム但必要ニ應シ之ヲ變更スルコトアルヘシ

第七條　各區ニ配付スヘキ一箇年度ノ品種、數量ハ土木課長調度課長ト協議シテ之ヲ定ム

第八條　採掘場所其他ノ關係上採掘量ヲ減シタルトキハ解船ヲ借入レ又ハ現品ヲ購買スルコトアルヘシ

第九條　第六條ノ品種、數量ヲ年度内ニ採掘、運送スルコト能ハサル狀況アルトキハ主任ハ事實ヲ具シ調度課長ニ報告スヘシ

第二章　所員服務心得

第十條　所員出勤シタルトキハ出勤簿ニ捺印スヘシ

第十一條　所員ハ休日ト雖モ所務ニ從事スヘシ但地方ノ慣習ニ依リ採掘運送ヲ休業スルトキハ所務ニ差支ナキ限リハ更替休暇スルコトヲ得此場合ニ於テハ其時時調度課長ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條　所員ハ所内ニ在リテ事務ヲ處理スル場合ノ外ハ採掘場所及運送ノ狀況ヲ巡檢監督スヘシ

第十三條　所員疾病事故ノ爲メ缺勤スルトキハ事務所經由即日調度課長ニ届出ヘシ但疾病ノ爲メ缺勤一週間以上ニ渉ルトキハ一週間毎ニ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ届出ルモノトス

第十四條　主任缺勤二週間以上ニ渉ルトキハ臨時調度課員ヲ派遣シ處理セシムルコトアルヘシ

第十五條　所員ハ執務上必要アルトキハ臨時調度課ニ出頭スルコトヲ得

第十六條　所員ハ非常災害ノ場合ニ於テハ建物船舶其他ノ物件ニ對シ損害ナキ樣小頭副小頭及船頭ヲ指揮シ防禦ニ努ムヘシ

第十七條　主任ハ採掘運送ニ關シ異狀アルトキハ事實ヲ具シ直チニ調度課長ニ報告スヘシ

第十八條　所員ハ毎月三回別紙一號書式ニ依リ勤務日誌ヲ調製シ主任ニ於テ取絡メ三日以内ニ調度課長ニ報告スヘシ

第十九條　事務所ニ宿直ヲ置キ夜間ノ取締ヲ爲スモノトス但宿直ハ所員一名トス

第三章　所員給與ニ關スル事項

第二十條　此章ニ規定ノ外ハ一般市吏員服務規程ニ據ルモノトス

第二十一條　所員ニ支給スヘキ旅費及手當ハ左ノ區分ニ依ル

一　多摩川砂利採掘事務所員調度課ニ出頭シタルトキハ旅費トシテ主任ハ一日金九拾錢助手ハ同金六拾錢ヲ給與シ滯在日當及宿泊料ハ支給セス

二　第十二條ノ巡廻ニ對シテハ手當トシテ主任ハ一日金拾五錢助手ハ同金拾錢ヲ給與ス

三　月島調度課出張所員ニハ特別手當トシテ一日金七錢以上金拾錢以下ヲ給與ス

第二十二條　宿直賄料ハ一回ニ付左ノ通支給ス

一　主任及助手　金八錢
一　小使　金六錢

第二十三條　囑託手當及給料ハ毎月二十一日（休日ニ相當スルトキハ翌日）第二十一條第二號ノ手當及前條ノ賄料ハ一箇月分取絡メ其他ハ隨時

支給スルモノトス

第二十四條　事務所ニ要スル備品及消耗品ノ品種、數量ハ毎年度ノ始メニ於テ豫算ヲ以テ定ムルモノトス

主任ハ前項ノ豫算ヲ目的トシ一箇月間ノ使用高ヲ豫定シ毎月五日マテニ現品ノ交付ヲ調度課ニ請求スベシ但備品其他止ヲ得サルモノニ在テハ其時時請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ便宜ト認ムルトキハ豫算金額ヲ指定シ主任ヲシテ直ニ購入セシムルコトアルヘシ

第二十五條　消耗品ノ出納ハ別紙二號書式ニ依リ毎月五日迄ニ其前月分ヲ調度課長ニ報告スヘシ

備品ハ三箇月毎ニ現在數ヲ取調ヘ別紙三號書式ニ依リ翌月五日迄ニ調度課長ニ報告スヘシ

第四章　採掘ニ關スル事項

第二十六條　艀船十艘乃至十五艘ヲ一組トシ一組毎ニ小頭及副小頭一名ヲ置キ採掘セシムルモノトス但小頭及副小頭ハ調度課長ニ於テ雇入罷免ス

小頭ハ一箇月金拾圓以内副小頭ハ一箇月金七圓以内ノ月手當ヲ支給ス

小頭及副小頭ヲ採用シタルトキハ別紙八號書式ノ請書ヲ徴スルモノトス

第二十七條　採掘賃ハ左ノ通トシ小頭又ハ副小頭ニ拂渡スモノトス但此ノ採掘賃ハ採掘人夫賃及附屬品其他仁田利船積込マテニ要スル一切ノ費用トス

一	正一寸目砂拔篩砂利	立一坪ニ付　金四圓參拾錢
一	正八分目砂拔篩砂利	立一坪ニ付　金四圓五拾錢
一	切込砂利（砂利四分　砂六分）	立一坪ニ付　金貳圓八拾錢
一	洗砂	立一坪ニ付　金貳圓拾錢
一	大玉砂利	立一坪ニ付　金參圓參拾錢
一	中玉砂利（明治三十八年十一月十三日市訓令甲第四十八號ヲ以テ大、中玉砂利二項追加）	立一坪ニ付　金參圓拾錢
一	一寸五分砂利	立一坪ニ付　金參圓五拾錢
一	正六分目篩砂利	立一坪ニ付　金五圓五拾錢以内

第二十八條　採掘ノ品種數量ハ別紙四號書式ニ依リ毎月二回五日以内ニ調度課長ニ報告スヘシ

第五章　運送ニ關スル事項

第二十九條　仁田利船ニ船頭一名ヲ置キ運送ニ從事セシムルモノトス但船頭ハ調度課長ニ於テ雇入罷免ス

舟子ヲ乘込マシムルハ船頭ノ隨意トシ其乘込舟子ノ人名ハ事務所ニ届出シムヘシ但異動ノ場合亦同シ

船頭ヲ雇入レタルトキハ別紙九號書式ノ請書ヲ徴スルモノトス

第三十條　仁田利船一艘ノ積載量ハ立一坪五合以上トス

第三十一條　仁田利船ハ間斷ナク各船平等ニ運送セシムルモノトス

仁田利船一艘ノ運送度數ハ一箇月六回以上トス但一箇月九回以上ノ運送ヲ爲シタルトキハ一回ニ付金壹圓マテノ賞與金ヲ與フルコトアルヘシ

仁田利船ノ運送度數及數量ハ別紙五號書式ニ依リ毎月二回五日以内ニ調度課長ニ報告スヘシ

第三十二條　仁田利船ノ運送賃金ハ立一坪ニ付左ノ通トス但容器ヲ以テ量リタルトキハ栟立賃ヲ支給セサルモノトス

運送賃	河岸廻賃及河岸揚賃			栟立賃	計金
	坪當	河岸地名			
參圓四拾錢以内	金拾錢	京橋區（月島共）芝區ノ内（土橋銀行河岸）			參圓七拾錢以内
	金拾五錢	日本橋區本所區ノ内（兩國橋際百本杭ヨリ南大川通）			參圓七拾五錢以内
		深川區ノ内（大川通リ永代橋新大橋附近）			
	金貳拾錢	芝區淺草區神田區ノ内（神田川籠閑橋外濠）		貳拾錢	參圓八拾錢以内
		麹町區（數寄屋橋附近外濠、新川）深川區ノ内（大川通ヨリ小名木川上ノ橋下ノ橋練兵場ヲ入ル其他總テ横堀川）			
		本所區ノ内（竪川及横綱町一丁目百本杭以北大川通源森川其他横堀川）			
		牛込區			

第三十三條　仁田利船ハ月島調度課出張所ニ向ケ出航セシメ別紙六號書式ノ送狀ヲ船頭ニ添付スルモノトス

第三十四條　陸揚場所ハ月島調度課出張所ニ於テ指定スルモノトス

月島調度課出張所ハ第七條ニ依リ各土木課出張所ニ配送スヘシ

第三十五條　仁田利船到著シタルトキハ月島調度課出張所ハ配送スヘキ土木課出張所ニ陸揚場所支障ノ有無ヲ問合セタル上送狀ニ陸揚場所及土木課出張所名ヲ記シ船頭ニ交付スヘシ但著船ノ豫定時刻ハ豫メ通知スルモノトス

第三十六條　配送ヲ受ケタル土木課出張所ハ船頭ヲシテ栟立又ハ容器ニ納レシメタル上其數量ヲ檢査シ其檢査シタル數量ヲ別紙六號書式ノ受取狀ニ記入押印ノ上船頭ニ交付シ送狀ハ土木課出張所ニ受取書ハ事務所ニ保管スルモノトス但二艘以上ノ分ヲ併セテ栟立又ハ容器ニ納レシメタルトキハ其檢査數量ヲ送狀記載數量ノ比例ニ依リ各船別ニ算定スルモノトス

土木課出張所ハ別紙七號書式ニ依リ毎月二回二日以内ニ送狀ヲ添ヘ配送ヲ受ケタル品種、數量ヲ調度課長ニ報告スヘシ但積載數量ト檢査數量ト甚シキ差違アリタルトキハ其時時調度課長ニ報告スヘシ

第六章　船舶及附屬品ノ保管及修理保存ニ關スル事項

第三十七條　左ノ箇所ヲ船舶ノ定繫場トス

東京府下荏原郡六郷村大字古川所在多摩川筋左右兩岸

第三十八條　艀船ハ小頭及副小頭、仁田利船及附屬品ハ船頭ヲシテ保管セシメ過失懈怠ノ爲メ流失、沈沒破損シタルトキハ小頭、

副小頭及船頭ノ責任トス

前項ノ場合ニ於テハ原形ト同等ノ物ヲ代償セシメ若クハ其修理シ得ヘキ物ハ原形ノ通修理セシメ又ハ相當ノ金額ヲ辨償セシムルモノトス

本條ノ場合ニ於テハ主任ハ事實ヲ調査シ意見ヲ具シ調度課長ニ申告シテ指揮ヲ請フヘシ

第三十九條　災害ノ場合ニ於ケル防禦ニ要スル費用ハ小頭、副小頭及船頭ノ負擔トスト雖モ平水ヨリ十尺以上ノ增水其他非常災害ノ場合ニ於テ多數ノ人夫及費用ヲ要シタルトキハ其實費ニ對シ相當ノ補給ヲ爲スモノトス

第四十條　立船ハ材料ヲ交付シ小頭、副小頭及船頭ヲシテ施行セシムルモノトス

第四十一條　船舶及附屬品ノ修繕ヲ要スルモノアルトキハ主任ハ船名、番號、品名、數量等ヲ調度課長ヘ報告スヘシ

第四十二條　附屬品ハ三箇月毎ニ現在數ヲ取調ヘ（書式ハ第二十五條ノ備品ニ準ス）五日以内ニ調度課長ニ報告スヘシ

一號書式

何　月自一日（自十一日至二十日）至十日（自二十一日至末日）勤務日誌

主任（助手）何某

月日	勤務別	事由
一日	出勤	所内ニ於テ事務ニ從事ス

第七章　採掘及運送費ハ河岸揚ノ上檢査シタル數量ニ依リ支拂フモノトス

第四十三條　採掘及運送費ハ河岸揚ノ上檢査シタル數量ニ依リ支拂フモノトス

二組以上ノ艀船ニ積込ミタル場合ニ於テ其積込數量ト河岸揚檢査數量ト差違アルトキハ積込數量ノ比例ニ依リ各組ノ檢査數量ヲ算定スルモノトス

第四十四條　山代ハ營業者ノ慣行ニ依リ支拂フモノトス

第四十五條　仁田利船運送途中災害ニ遭遇シタル場合ニ於テ自衞ノ爲メ投棄シタル砂利又ハ砂ニ對シテハ其採掘及運送賃ヲ支給ス

第四十六條　採掘及運送賃ハ毎月二回（自一日至十五日自十六日至末日）支拂フモノトス

主任ハ小頭又ハ副小頭及船頭ノ請求書ヲ五日以内ニ取絡メ夫夫調査ヲ遂ケ證印ノ上調度課ニ送付スヘシ

二號書式

消耗品出納報告

二日	出張	何何ノ爲メ何處ヘ出張
三日	缺勤	病氣又ハ何何ノ爲メ缺勤
、、	、、	
、、	、、	
、、	、、	
、、	、、	
、、	、、	

右ノ通ニ候也

年月日

調度課長宛

主任（助手）何某

種目	受			拂			差引殘
	前月迄ノ受高	本月受高	累計	前月迄ノ拂高	本月拂高	累計	
何何							
同同							
同同							
同同							
同同							
同同							

右及報告候也

年月日

調度課長宛

三號書式

備品現在報告

種目	員數	現在使用數	廢棄數	事由
何何				何何ニヨリ破損廢棄又ハ
同同				
同同				
同同				

右及報告候也

年月日

主任

調度課長宛

四號書式

何月自一日(自十六日)至十五日(至末日)解船採掘數量報告

組別	解船數	品種	前回マテノ採掘數量	今回ノ採掘數	累計	事由
イ組	何艘	正八分目砂利砂利切込(又ハ何何)	一〇〇坪 一一〇坪	三〇坪 五坪	一三〇坪 一五坪	解船何艘修理ノ爲メ使用スルヲ得サリシト又風雨ノ爲メ何日間作業スル能ハサリシニヨリ採掘數量ヲ減ス又ハ何何
何組	〃	〃	〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	
計	〃	〃	〃	〃	〃	

右及報告候也

年月日

調度課長宛

主任

備考

解船修繕、風雨其他ノ事故ニ依リ採掘數量ヲ減シタルトキハ其事由ヲ各組別ニ記載スルコト

五號書式

何月自一日(自十五日)至十五日(至末日)仁田利船運送數量及度數報告

船名番號	品種	前回マテノ分				今回ノ分				累計				事由
		度數	積込數量	度數	檢査數量	度數	積込數量	度數	檢査數量	度數	積込數量	度數	檢査數量	
何丸	正八分目砂利	一〇	一五〇坪	六	三〇坪	一六	一八〇坪							
第何號	何	一	一四五坪	二	二九坪	二	一七四坪							
			二坪	一	二坪	二	四坪							
			一坪九		一坪九		三坪八							
	〃													
	〃													
	〃													
	〃													
	〃													
	〃													
計	〃													

右及報告候也

第二篇　類規　第十八類　物品

年　月　日

調度課長　宛

備考

仁田利船修繕、風雨其他ノ事故ニ依リ運送回數ヲ減シタルトキハ其事由ヲ各船毎ニ記載スルコト

主任

六號書式

送狀

第何號

一　船名及番號
一　品種及積載量
一　檢查數量
一　陸揚場所
一　出航ノ月日時
一　摘要

土木課出張所御中

受取狀

第何號

一　船名及番號
一　品種及積載量
一　檢查數量

主任

契印

船頭氏名

東京市多摩川砂利採掘古川事務所印

船頭氏名

一　陸揚場所
一　檢查濟ノ月日時
一　摘要

東京市多摩川砂利採掘事務所御中

何何土木課出張所　檢查員印

七號書式

何月自一日（自十六日）至十五日（至末日）直營砂利收受報告

河岸別	使用區別	品種	數量
何川、筋何處	何區	正八分目砂利	切込砂利
		〃	〃
		〃	〃
		〃	〃
		〃	〃
		計	

右及報告候也

年　月　日

擔任者

調度課長　宛

備考　數量ハ檢查坪ヲ記載スルコト

八號書式

御請書

私儀今般小頭(副小頭)トシテ御備入相成候ニ付テハ左ノ廉廉確守シ誠實ニ相勤メ可申候依テ保證人連署ヲ以テ請書差上候也

一　艀船第何號第何號ノ何艘ヲ以テ採掘ニ從事可致候事

二　艀船ハ叮嚀ニ使用保管可致候事

三　採掘ニ要スル附屬品ハ一切自辨可致候事

四　左ノ賃金ヲ以テ採掘可致候事但仁田利船積込マデ一切トス

正一寸目砂拔篩砂利　立一坪ニ付　金

正八分目砂拔篩砂利　立一坪ニ付　金

大玉砂利　立一坪ニ付　金

中玉砂利　立一坪ニ付　金

切込砂利(砂六分砂利四分)　立一坪ニ付　金

洗砂　立一坪ニ付　金

五　採掘賃ハ仁田利船運送ノ上御檢査相成タル數量ニ依リ御支拂相受可申候事

六　災害ノ場合ニ於テハ艀船ノ防禦ニ十分注意シ之ニ要スル費用ハ負擔可致候事但非常災害ノ際ニ於テ多額ノ費用ヲ要シタルトキハ其實費ニ對シ相當ノ補給相成候事

七　立船ハ材料ノ御下付ヲ受ケ其施行ハ負擔可致候事

八　過失懈怠ノ爲メ艀船ヲ流失、沈沒、破損致シ候トキハ御指揮ニ從ヒ辨償可致候事

九　小頭(副小頭)勤務中ハ他ノ採掘ニハ決シテ從事致間敷候事

十　艀船ハ御市ノ採掘事業ニ使用スルノ外決シテ他ニ使用致間敷候事

十一　本人若シ辨償ノ義務ヲ怠リタルトキハ保證人ニ於テ一切引受履行可致候事

年　月　日

住所　小頭(副小頭)　何某

住所　保證人　何某

〔東京市參事會〕

市長　宛

九號書式

御請書

私儀今般仁田利船船頭ニ御備入相成候ニ付テハ左ノ廉廉確守シ誠實ニ相勤メ可申候依テ保證人連署ヲ以テ御請書差上候也

一　何丸第何號ニ乘込古川東京間ノ砂利及砂ノ運送ニ從事可致候事

二　仁田利船及附屬品ハ叮嚀ニ使用保管可致候事

三　左ノ賃金ヲ以テ運送可致候事

運送賃　立一坪ニ付　金參圓四拾錢以內

栈立賃　立一坪ニ付　金貳拾錢也

東京市內月島ニ陸揚スルトキハ別ニ河岸揚賃ヲ申受間敷

其他ノ河岸ニ陸揚スルトキハ御指定ノ賃金申受候事

四　前號ノ賃金ハ陸揚御檢査ヲ受ケタル數量ニ對シ御支拂相成候事

五　運送品ノ數量ハ栈立又ハ容器ニ納メタル上御檢査相受可申候事

六　積載量ハ立一坪五合以上ノ事

七　一箇月六回以上運送可致候事

八　災害ノ場合ニ於テハ十分防禦シ之ニ要スル費用ハ負擔可致候事但非常災害ノ際ニ於テ多額ノ費用ヲ要シタルトキハ其實費ニ對シ相當補給相成候事

九　立船ハ材料ノ御下付ヲ受ケ其施行ハ負擔可致候事

十　過失、懈怠ノ爲メ仁田利船及附屬品ヲ流失、沈沒破損致候トキハ御指揮ニ從ヒ辨償可致候事

十一　仁田利船ハ御市ノ運送ニ使用スルノ外決シテ他ニ使用致間敷候事

十二　本人若シ辨償義務ヲ怠リタルトキハ保證人ニ於テ一切引受履行可致候事

年　月　日

住所　船頭　何某

住所　保證人　何某

〔東京市參事會〕

市長　宛

第十九類　電氣

第十九類　電氣

●市電氣局設置

明治四十四年八月一日
市告示第六十一號

本市電氣局ハ麹町區有樂町一丁目一番地ニ設置シ本日ヨリ其事務ヲ開始ス（明治四十五年四月二十八日市告示第四十五號ヲ以テ位置ヲ變更ス）

●市電氣局條例

明治四十四年八月一日
市條例第三號

第一條　電車、電燈其他電氣ニ關聯スル事務ヲ掌理セシムル爲電氣局ヲ置ク

第二條　電氣局ニ局長及理事其他必要ノ吏員ヲ置ク

第三條　局長ハ（市參事會）ノ命ヲ承ケ一切ノ局務ヲ總理シ局員ヲ指揮監督ス

附　則

第四條　本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●市電氣局處務規程

大正二年三月四日
市訓令甲第五號（各部、局、所、院、館）

第一條　電氣局ニ左ノ主室及部課ヲ置ク

主　室
庶務課　監理課　經理課　工務課
電車部
運輸課
電燈部
營業課　主計課

第二條　主室ハ局長ニ直隷ス

第三條　部ニ部長ヲ置キ理事ヲ以テ之ニ充ツ部長ハ局長ノ命ヲ承ケ其部ノ事務ヲ掌理シ部員ヲ指揮監督ス

第四條　課ニ課長ヲ置キ主事又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ但經理課長ハ副收入役ヲ以テ之ニ充ツ

課長ハ上司ノ命ヲ承ケ其課ノ事務ヲ處理シ課員ヲ指揮監督ス

第五條　電氣局ニ技術長ヲ置キ技師ヲ以テ之ニ充ツ

技術長ハ局長ノ命ヲ承ケ技術上ノ責ニ任シ技術ニ關スル一切ノ事項ヲ指揮監督ス

第六條　主室、部、課ノ事務分掌左ノ如シ

庶務課

一　局員ノ進退賞罰服務其他人事ニ關スル事項
二　公印ノ保管竝ニ特別乘車券ノ發行ニ關スル事項
三　內規ニ關スル事項
四　文書ノ收受、發送及編纂ニ關スル事項
五　從事員ノ衞生及救濟ニ關スル事項

六　訴訟、訴願ニ關スル事項
七　局ノ土地建物ニ關スル事項
八　局内取締給仕小使ニ關スル事項
九　他ノ主管ニ屬セサル事項

監理課

一　業務上各般ノ調査考究ニ關スル事項
二　業務ノ檢閱ニ關スル事項
三　統計報告ニ關スル事項

經理課

一　金錢ノ出納ニ關スル事項
二　收支計算ニ關スル事項
三　豫算決算ニ關スル事項
四　回數乘車券、乘車切符ノ製造、配分ニ關スル事項
五　電車、電柱其他ノ廣告ニ關スル事項
六　物品ノ調度處分及出納竝ニ保管ニ關スル事項
七　公債ニ關スル事項
八　諸給與ニ關スル事項
九　請負入札ニ關スル事項
十　舟車馬及人夫ノ雇入ニ關スル事項

工務課

一　發電所受電設備及變壓所ノ建設竝ニ維持ニ關スル事項
二　電路及軌道ノ建設改良保修ニ關スル事項
三　電燈電力ニ關スル發電所變電所及其他必要ナル電線路（外線迄）ノ建設改良ニ關スル事項
四　車輛竝ニ附屬諸機械ノ製作及修理ニ關スル事項
五　營繕ニ關スル事項
六　工務用舟車馬及人夫ノ雇入ニ關スル事項

運輸課

一　運輸ニ關スル事項
二　現業員ノ養成訓練ニ關スル事項
三　車輛ノ整理及維持ニ關スル事項
四　電車事故ニ關スル事項

營業課

一　電燈及電力供給ニ關スル事項
二　電燈ノ内線ニ關スル事項
三　電燈電力ニ關スル發電所變電所ノ維持ニ關スル事項

主計課

一　電氣料金ノ計算徵收ニ關スル事項

第七條　電氣局ニ理事ヲ置キ重要ナル事務ヲ審議ス

第八條　本規程ニ關スル細則ハ局長之ヲ定ム

附　則

本規程ハ大正二年三月一日ヨリ之ヲ實施ス

●市電氣事業擔任市參與委任事項

大正二年三月七日
市訓令甲第六號（各部局）

電氣局ニ屬スル事務中左ニ揭クル事項ハ電氣事業ヲ擔任スル市參與ニ委任ス

一　事務員技手以下ノ進退給與ニ關スル件
二　收入支出命令ノ件

以　上

●市電氣局吏員特別任用方

明治四十四年八月一日
市告示第六十五號

第一條　本市ニ於テ東京鐵道買收ノ際現ニ同會社ノ職員タル者ハ市吏員任用規程第二條及第三條ノ規定ニ依ラス直ニ電氣局ニ任用スルコトヲ得

前項ニ依リ任用セラレタル者ハ市吏員試驗委員ノ銓衡ヲ經ルニ非サレハ他ノ局課ニ轉スルコトヲ得ス

第二條　東京鐵道株式會社ノ職員ニシテ引續キ清算事務ニ從事スルモノニ對シテモ亦前條ノ規定ヲ準用ス

●市電氣事業擔任市參與委任事項

大正二年三月七日
市訓令甲第六號（各部局）

電氣局ニ屬スル事務中左ニ揭クル事項ハ電氣事業ヲ擔任スル市參與ニ委任ス

一　事務員技手以下ノ進退給與ニ關スル件
二　收入支出命令ノ件

以　上

●市電氣局吏員諸願屆書提出方

明治四十四年八月十五日
達

一　自今傭員格以上ノ者ヨリノ諸願屆ハ總テ局長宛ニシテ其課ヲ經由シテ總務部庶務課ニ提出スヘシ
其他ノ者ヨリノ諸願屆ハ課長宛ニシテ其課ノ庶務係ニ提出スヘシ

●市電氣局吏員服務ニ關スル注意

明治四十四年十二月十三日
局長内訓

本年九月二十二日發布ノ内務省令第十六號市町村吏員服務紀律ハ總テ之ヲ嚴守スヘキハ勿論ナレトモ特ニ歲末年始ニ際シ同紀律ニ違背無之樣注意アルヘシ

●市電氣局吏員除服出仕ニ關シ市吏員除服出仕規程等適用方

明治四十五年四月三十日
局長決定予達第十三號

爾今當局吏員除服出仕ニ關シテハ明治三十四年三月市訓令甲第十

六號市吏員除服出仕規程ヲ車掌運轉手信號人職工工夫雜役夫給仕小使傭夫船夫ニ對シテハ明治四十二年十月九日市訓令甲第三十號使丁職工定工夫等忌引區別ヲ適用スヘキ儀ト相心得ヘシ但車掌運轉手ニ對シテハ忌引中一日金四十錢ノ手當ヲ支給ス

●市電氣局宿直規程

明治四十五年四月二十七日
局長決定子規第七號

第一條　本局ニ左ノ宿直ヲ置キ事務員傭員ノ內ヲ以テ之ニ充ツ

一　總務部　一名
一　運輸部　一名
一　電燈部　一名

第二條　總務部宿直ハ文書ノ收受發送ヲ爲シ又ハ守衛小使ヲ監督シテ廳中ノ取締ニ任シ非常事變ノ際ニハ他ノ宿直員ト協力シテ臨機ノ措置ヲ爲シ若クハ課長部長局長等ニ通報シテ其指揮ヲ請フヘシ

收受ノ文書ハ每朝執務時迄ニ各課ニ分送シ局長理事課長宛至急親展書及電報其他至急ヲ要スルモノト認ムルモノハ速ニ其手續ヲ爲スヘシ

第三條　運輸部宿直ハ電車ノ事故ニ關スル件其他各出張所ヨリノ諸報告ニ留意シ其至急ヲ要スルモノ若クハ稍稍重大ナリト認ムルモノニ付テハ其課ノ課長若クハ部長ニ電話ヲ以テ之カ指揮ヲ請フヘシ

第四條　電燈部宿直ハ電燈ノ事故ニ關スル件其他各出張所ヨリノ諸報告ニ留意シ其至急ヲ要スルモノ若クハ稍稍重大ナリト認ムルモノニ付テハ其課ノ課長若クハ部長ニ電話ヲ以テ之カ指揮ヲ請フヘシ

第五條　宿直室ニハ左ノ諸帳簿ヲ備ヘ置キ當番中一切ノ事項ヲ記錄シ翌朝各關係課長ニ報告スヘシ

一　宿直日誌
一　文書ノ收受發送簿
一　局員宿所錄

第六條　日曜祝祭日等公休日ノ當直ハ總テ宿直ノ例ニ依ル

第七條　本規程ニ依ル宿直員ニハ別ニ休暇ヲ與ヘス

第八條　宿直員ニハ宿直料トシテ一回ニ付事務員ニ金四十錢傭員ニ金三十錢ヲ支給ス

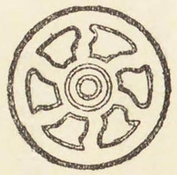
附　則

第九條　本規程ハ明治四十五年四月二十八日ヨリ之ヲ施行ス

●市電氣局徽章雛形

明治四十四年八月二十六日
市告示第七十三號

本市電氣局ノ徽章ヲ左ノ通相定メ職員以下ノ襟章及帽章其他電氣局ヲ表示スルニ必要ナルモノニ限リ之ヲ使用ス



徽章ノ大小及色合ハ其使用スルモノニ依リテ之ヲ種別ス

●市電氣局吏員佩用徽章ニ關スル規程

明治四十四年八月二十六日
達

第一條　當局職員ノ佩用スル徽章ハ左ノ三種トシ局紋七寶ニシテ直徑六分トス

第一種　局長理事用
　外緣金色　內部白色
第二種　主事技師事務員技手用
　外緣銀色　內部海老色
第三種　傭員格用
　外緣銀色　內部櫻色

第二條　徽章ハ洋服著用ノトキノ外之ヲ佩用スルコトヲ得ス

第三條　徽章ハ必ラス其表面ヲ露ハシ上衣左襟ノ上部ニ佩用シ外套著用ノトキハ外套ノ左襟上部ニ佩用スヘシ

第四條　前二條ニ違反シタルトキハ車掌運轉手ハ電車ノ便乘ヲ拒絕スヘシ

第五條　徽章ヲ紛失シタルトキハ辨償金トシテ第一種ニ屬スル分ハ金三圓第二種ニ屬スル分ハ金一圓五十錢第三種ニ屬スル分ハ金一圓ヲ徵收スルモノトス

●市電氣局ニ於ケル俸給支給方法

明治四十四年十二月二十七日(各課)
決定(各出張所)

爾今俸給支給方法ハ明治四十年三月十三日市告示第十四號俸給支給規程ヲ遵守スル儀ト相心得ヘシ

從前ノ俸給假規程ハ之ヲ廢止シ車掌以下ニ對スル支給方ハ左ノ通リ相定ム

一　車掌、運轉手、信號人、轉轍手、雜役夫(以上運轉課所屬)ノ給料ハ前月十六日ヨリ其月十五日迄ノ分ヲ二十八日建設、作業課所屬ノ職工夫、雜役夫ノ給料ハ前月二十一日ヨリ其月二十日迄ノ分ヲ二十六日主計課傭夫及經理課所屬ノ傭夫以下ノ給料ハ前月二十六日ヨリ其月二十五日迄ノ分ヲ二十六日ニ於テ支給ス但シ每年十二月ニ限リ二十五日ニ之ヲ支給

ス

二　前項支給ノ外毎年三月十六日ヨリ三月三十一日ニ至ル分ハ其年四月十五日迄ニ之ヲ支給ス（明治四十四年十二月二十八日本項追加）

●市電氣局吏員以下ノ勤務、手當、給與等東京鐵道株式會社當時ノ例ニ準據方

明治四十四年八月一日市訓令甲第三十八號（部局所）

電氣局職員以下ノ勤務、諸手當、諸給與等ハ追テ何分ノ規定アル迄東京鐵道株式會社當時ノ例ニ據ル儀ト心得ヘシ

●市電車乘車券雛形

明治四十四年八月一日市訓令甲第四十號（電氣局）

本市電車乘車券左ニ掲クル雛形ノ通定ム

（雛形略ス）

●市電車割引乘車券發行時限

明治四十四年八月一日市告示第六十六號

學生、勞働者ニ對スル電車割引乘車券發行時間左ノ通定ム

自三月一日　至十月三十一日　午前七時迄

自十一月一日　至翌年二月末日　午前八時迄

●市電車乘車賃、電氣料及電量計使用料設定

明治四十四年八月一日市告示第六十二號

本市會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ受ケ本市電車乘車賃、電氣料及電量計使用料左ノ通設定シ本日ヨリ施行ス

電車乘車賃

普通乘車賃

片道券	金四錢	（外ニ通行稅金一錢）
往復券	金八錢	（同　金一錢）
二十回券	金八十錢	（同　金五錢）
三十回券	金一圓二十錢	（同　金五錢）
五十回券	金二圓	（同　金五錢）

特別乘車賃

學生勞働者割引片道券	金二錢	（同　金一錢）
同往復券	金四錢	（同　金一錢）

但割引時間ハ（市參事會）ノ定ムル所ニ依ル

軍人往復券	金四錢	（同　金一錢）

電燈料

定額電燈料

白熱終夜	五燭光	一箇月一燈ニ付	金五十錢
同	十燭光	同	金九十錢
同	十六燭光	同	金一圓二十五錢
同	二十四燭光	同	金一圓七十錢
同	三十二燭光	同	金二圓十五錢
弧光燈終夜千二百燭光		同	金十三圓五十錢

但料金月額金五十圓以上　割引百分ノ二

同	金七十五圓以上	同	百分ノ三
同	金百圓以上	同	百分ノ四
同	金百五十圓以上	同	百分ノ六
同	金二百圓以上	同	百分ノ八
同	金三百圓以上	同	百分ノ十

從量電燈料

使用電量	一「キロワット」時ニ付		金十八錢
但一箇月一燈使用電量三「キロワット」時以上二「キロワット」時ニ付			金十七錢五厘

同	四「キロワット」時以上	同	金十七錢
同	五「キロワット」時以上	同	金十六錢五厘
同	六「キロワット」時以上	同	金十六錢
同	八「キロワット」時以上	同	金十五錢
同	十「キロワット」時以上	同	金十四錢

電力料

使用電量	一「キロワット」時ニ付		金十錢
電量計使用料			
一箇月一個ニ付	三百「ワット」用		金四十錢
同	五百「ワット」用		金七十錢
同	一「キロワット」用		金一圓
同	二「キロワット」用		金二圓
同	二「キロワット」用以上一「キロワット」増ス毎ニ		金五十錢

乘車賃及使用料ハ（市參事會）限リ特ニ割引又ハ免除ヲ爲スコトヲ得

●貯藏品及工場資金規程

大正元年十月二十六日市告示第二十五號

第一條　電氣鐵道用品及電燈用品ノ購入及製作修理ノ爲金三百萬圓ヲ限度トシ貯藏品及工場資金ヲ置ク

第二條　貯藏品及工場資金ハ東京鐵道株式會社ヨリ承繼シタル貯藏品及工場勘定ヲ基本トシ之ヲ超過スル所要ノ金額ハ市有財産中ヨリ繰替支出ス

第三條　購入品ハ買價及之ニ要シタル運搬費其他ノ經費、製作品修理品ハ材料費、工費及操業費ヲ併算シタルモノヲ以テ原價トス

第四條　振替計算ノ原價ニ依ル

第五條　貯藏品ノ取扱費及減損ハ其狀況ニ依リ負擔ヲ定メ事業費及建設費ノ支辨トス

第六條　工場勘定ノ過不足及資金ニ關スル利息ハ事業費ノ收入支出トス

第七條　貯藏品及工場資金收支ノ歳入出豫算ハ市參事會ニ於テ之ヲ議決ス

●市電氣事業會計條例

明治四十四年十月十三日
市條例第五號

第一條　電氣事業ヲ經營スル爲之ニ要シタル買收資金竝將來投資スル金額ヲ以テ資本トシ特別會計ヲ設置ス

第二條　電氣事業會計ハ其收入ヲ以ヲ事業經營費本會計ニ屬スル市債ノ利子、市債諸費、減損補塡金ヲ支辨シ及本會計ニ屬スル市債ノ償還ニ充ツ

特許命令ニ依リ負擔スル道路・橋梁及横切下水ノ修繕、掃除、撒水、除雪ノ費用ハ前項ノ事業經營費中ニ包含ス

第三條　本會計ノ收入ハ前條支出ノ外其一部ヲ普通會計ニ編入スルコトヲ得

第四條　市區改正事業トシテ軌道ヲ敷設スヘキ道路ノ擴築ヲ爲ス場合ニ於テ特許命令ノ幅員制限ヲ充タス迄ノ擴築ニ要スル費用ノ半額ハ本會計ヨリ支辨ス

橋梁ノ改築費ニ關シテハ前項ノ規定ヲ準用ス

附則

第五條　本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●市副收入役ニ於テ電氣事業ニ屬スル會計事務分掌方

大正二年二月二十八日
市告示第十六號

電氣事業ニ屬スル會計事務ハ市副收入役ニ分掌セシム

●市電燈料金算定方

大正二年四月一日
市告示第四十五號

市ノ電燈料金徴收上一錢未滿ノ端數アルトキハ四捨五入ノ方法ニ依リ之ヲ錢位ニ止ム內譯ヲ要スル場合ニ於テ一厘未滿ノ端數アルトキハ其端數ヲ切捨ツ

●市電氣局專用市長印章設定及雛形

明治四十四年八月九日
〔市參事會議決〕第四千五百三十五號

電氣局用市長印章左ノ通制定スルモノトス

電氣局	東京市長	專用印

分九方

書體篆書

●市電氣局創業日特別休暇差許方

大正元年八月二十日（電氣宛局長）
助役通牒一發第九千九百七十四號

本月七日付子庶第二七七號ヲ以テ貴局記念日ノ義ニ就キ御開申ノ趣了承右ハ公休日ト見做サス單ニ貴局ノ創業ヲ記念スル爲特別ノ休暇ヲ與フルモノトシ承認相成候條依命此段及回答候也

●市電氣局廳中取締規程

明治四十五年四月二十六日
局長決定子規第六號

第一條　廳中取締ノ爲本局ニ守衛若干名ヲ配置ス

第二條　守衛ハ一晝夜交代隔日勤務トス

第三條　守衛ハ廳舍ノ內外ヲ巡視警戒シ出入者ノ取締ヲ爲スヘシ

第四條　守衛ハ一般勤務時間中ハ裏門見張所ニ交番シ局員退廳後ハ火ノ元取締、掃除其他各室ノ內外ヲ檢査シ表玄關ヲ除クノ外總テ出入口ヲ閉鎖スヘシ各出入口ノ鍵ハ守衛之ヲ保管ス

第五條　閉鎖中ノ出入口開扉ノ必要アルトキハ守衛ニ請求シテ開扉セシムヘシ其用濟ノ後ハ守衛ニ通告スルモノトス

第六條　各課各係ハ非常事變ニ際シ特ニ持退ヲ要スル書類器具等重要物ハ搬出ニ便ナル設備ヲ施シ且其標章ヲ附シ置クヘシ

第七條　廳中ニ於テノ喫煙ハ必ス一定ノ場所ニ於テシ決シテ吸殼等ヲ濫リニ棄ツヘカラス

第八條　失火災防備ノ爲メ廳中各要所々々ニ消火器ヲ備ヘ置クモノトス

各消火器ニ付テハ守衛之ヲ保管シ時時試驗ノ上不慮ノ變ニ遺憾ナキヲ期スヘシ

（藍　色）

収入命令書

副収入役	大正　年　月　日

下記金額収入スヘシ　　市長

収入濟年月日	大正年月日	科目照合

大正年度		款		項		納人氏名	

種目	摘要	金額
備考 金額ハ塗抹改竄ヲ許サス	合計	

東京市電氣局

（赤　色）

支出命令書

副収入役	大正　年　月　日

下記金額支出スヘシ　　市長

支拂濟年月日	大正年月日	豫算照合

大正　年度		款		項		債主氏名	

種目	摘要	金額
備考 金額ハ塗抹改竄ヲ許サス	合計	

東京市電氣局

第九條　廳中取締事務執行ニ付テハ守衛ヲシテ小使給仕ヲ監督セシム

第十條　守衛ハ當番中ニ於ケル總テノ事項ハ日誌ニ詳記シ翌朝庶務課長ニ報告スヘシ

第十一條　守衛ノ夜勤ニ對シテハ一回ニ付金二十錢ノ割當料ヲ支給ス

附則

第十二條　本規程ハ明治四十五年四月二十八日ヨリ施行ス

●市電氣局吏員非常線通行證携帶方心得

明治四十五年三月十八日局長決定ヲ達第八號

失火災ノ際其筋ニ於テ施設スル非常線通行ニ要スル證票ヲ携帶スル者ハ自今左ノ條項ヲ堅ク遵守スヘシ

一　本證票ハ特ニ便宜ヲ計リ通行區域市内一般ニ渉レルヲ以テ交付セラレタル者ハ苟モ當局管理ニ屬スル建物若クハ其附近ニ於テ失火災アルトキハ直ニ驅付ケ救護ニ盡力スルヲ要ス

一　本證票ハ何レノ場合ト雖モ濫用ヲ愼ミ他人ニ貸與シ又ハ紛失セサル樣注意スヘシ

一　紛失シタルトキハ其顚末ヲ具シ直ニ庶務課ニ届出ヘシ

一　退職又ハ轉職シタルトキハ庶務課ニ返納スヘシ

●市電氣事業會計特別取扱規程

大正二年八月十一日市告示第百三號

第一條　左ニ揭クル場合ニ於テハ指名入札又ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一　軌道、軌道專用橋、電纜橋、電線路、發電所、變電所、配電所及開閉所ニ關スル工事ヲ請負ニ付スルトキ

二　電氣事業用ノ諸材料、車輛、船舶及機械ヲ賣買又ハ貸借シ及被服ヲ購入スルトキ

第二條　本會計ニ屬スル現金ノ出納及保管ハ會計規程第十八條ノ規定ニ依ラサルモノトス

第三條　本會計ニ使用スル收支命令書ハ左ノ樣式ニ依ル

（樣　式）

第二十類　報償契約

第二十類　報償契約

◉東京瓦斯株式會社報償契約書

明治四十四年十二月一日
市會議決第二百三十一號

明治四十四年十一月二十五日東京市長（以下單ニ市ト稱ス）ト東京瓦斯株式會社取締役（以下單ニ會社ト稱ス）トノ間ニ左ノ契約ヲ締結ス

第一條　市ハ其ノ所有又ハ管理ニ屬スル道路橋梁堤塘公園其他ノ土地工作物ニ對シ會社ノ營業上必要ナル埋管其他ノ裝置ヲ爲スコトヲ承諾ス

第二條　會社カ前條ノ土地工作物ヲ使用セントスルトキハ豫メ設計書ヲ提出シ市ノ認許ヲ受ケ其ノ命令ニ遵フヘシ若シ其使用ニ因リテ市ニ損害ヲ及ホシタルトキハ會社ハ之ヲ賠償スヘシ

第三條　市ハ一般ノ市稅ヲ除ク外第一條ノ使用ニ對シ何等ノ料金若ハ市稅ヲ賦課徵收セス

第四條　市ハ本契約期間内ハ自ラ瓦斯事業ヲ經營セス又新タニ生スル瓦斯供給營業者ニ對シテ第一條ノ承諾ヲ與ヘス但會社カ獨占權ヲ濫用シ不法ニ市ノ公益ヲ害シタル場合ハ此限ニ在ラス

第五條　會社ノ供給スル瓦斯料金ハ一千立方呎ニ付當分金一圓八十錢トシ明治四十六年七月一日以降ハ金一圓七十一錢トス

第六條　會社ハ其拂込資本額ニ對スル年率九分ノ配當ヲ標準トシ尚ホ過剩アルトキハ其過剩額ヲ會社及需用者ニ均分スルノ主義ニ據リ次ノ事業年度ニ於テハ該過剩金ノ半額ニ比準スル料金ヲ引下クヘシ若シ九分ニ達セサル場合ハ特ニ料金一圓七十五錢マテヲ限度トシ其不足金ノ半額ニ比準スル引上ヲ爲スコトヲ得炭價ノ激變其他特別ノ事情ニ因リ更ニ料金ノ引上ヲ必要トスル場合ハ別ニ市ノ承認ヲ求ムヘシ

第七條　會社ハ市有又ハ市ノ管理ニ屬スル道路橋梁公園其他ノ土地營造物ニ供給スル瓦斯料ニ限リ普通料金ヨリ二割ヲ減スヘシ

第八條　會社ハ每決算期ニ於ケル總益金ヨリ總損金ヲ差引キタル殘額ノ百分ノ六ニ相當スル金額ヲ市ニ納付スルモノトス但總損金中ニハ各種ノ積立金及賞與金其他之ニ類スル支出ヲ包含セス」

第九條　會社ノ積立金及賞與金其他之ニ類スル支出ハ通シテ總純益金ノ百分ノ十五ヲ超過スルコトヲ得ス

第十條　會社ハ市ノ要求アルトキハ第六條及第八條ノ計算ヲ證明スルノ責アルモノトス

第十一條　市ハ前條ノ場合ニ於テ其計算ノ當否ヲ調査スル必要アルトキハ會社ニ對シ營業ノ報告ヲ求メ又ハ會社ノ帳簿財產諸般ノ文書ヲ檢査スルコトヲ得

第十二條　左ノ各號ニ付テハ會社ハ豫メ市ノ承認ヲ受クヘキモノトス

一　會社ノ資本金ヲ增加シ又ハ減少スルコト
二　拂込資本ノ四分ノ一以上ノ社債又ハ借入金ヲ爲スコト
三　會社ノ財産ヲ以テ義務履行ノ擔保ニ供スルコト
四　會社ノ營業種目ヲ變更シ又ハ本契約期間內ニ廢業スルコト

第十三條　市ニ於テ會社ノ營業物件ノ全部ヲ買收セントスルトキハ會社ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

本契約期間內ニ於ケル買收價格ハ東京市內ノ株式取引所ニ於ケル會社株式ノ既往五箇年間平均相場ニ依ル但其半均相場カ右五箇年間ノ利益配當平均年額ノ二十倍以上ナルトキハ其二十倍額ヲ以テ買收價格ト定ム

契約期間滿了後ニ於ケル買收價格ハ會社最近ノ財產目錄ニ記載シタル價格ニ依ルモノトス

第十四條　前條ノ買收價格其他本契約ノ效力及履行上ニ付市ト會社トノ意見一致セサルトキハ双方ヨリ協議委員各二名ヲ選定シ其多數ノ決定スル所ニ依ル若シ其協議委員ニ於テ尙ホ決定シ得サルトキハ協議委員ノ選定シタル一人ノ裁決ニ依リテ之ヲ決ス

第十五條　本契約有效期間ハ滿三十年トス

第十六條　左ノ場合ニ於テハ市ハ本契約ヲ解除スルコトヲ得

一　會社カ正當ノ理由ナクシテ六箇月以上市ノ注意ヲ無視シ本契約ノ義務ヲ履行セサルトキ
二　一箇月以上休業シタルトキ

前項契約解除ノ場合ニ於テハ會社ハ市指定ノ期間內ニ第一條ノ埋管其他ノ裝置ヲ撤却シ原形ニ復スヘシ若シ之ヲ履行セサルトキハ其物件ハ當然市ノ所有ニ歸シ尙ホ損害アルトキハ會社ハ之ヲ賠償スヘシ

第十七條　法令ノ結果本契約消滅ニ歸シ又ハ其條項ニ變更ヲ及ホスコトアルモ會社ハ市ニ對シ何等ノ要求ヲ爲ササルモノトス

第十八條　此契約ハ市カ市會ノ議決ヲ得及會社カ株主總會ノ承認ヲ得タル日ヨリ其效力ヲ發生スルモノトス（明治四十四年十二月二十七日株主總會承認）

契約附屬覺書

明治四十四年十一月二十五日東京市長ト東京瓦斯株式會社取締役トノ間ニ締結シタル契約ノ趣旨ヲ明ニスル爲當事者間ニ此覺書ヲ爲取換置クモノトス

一　本契約締結ノ日ニ於テ現ニ會社及千代田瓦斯株式會社ト需用者トノ間ニ存シタル瓦斯料金又ハ計量器使用料等ニ關スル特別契約ハ其總合併後ノ會社ニ於テ之ヲ繼承シ合併ノ結果ニ依リ需用者ノ負擔ヲ增加スルヲ得サルモノトス
二　瓦斯導管瓦斯引用裝置及取付工事費ハ從前通リ會社ノ負擔トス但特別ノ設計又ハ工費ヲ要スルモノハ此限ニ在ラス
三　契約第六條ノ實施ニ關スル方法ハ市ト會社トノ協議ニ依リ別ニ規定ヲ設クルモノトス
四　前項ノ實施ニ際シテハ會社ハ特ニ留意シテ其效果ヲ擧クルニ努メ且其標準年率其他ニ對シテハ他日更ニ考量ノ機會アルヘキヲ期ス
五　契約第四條ノ瓦斯事業トハ天然瓦斯ヲ含マサルモノトス
六　契約第五條ノ瓦斯料金及同第八條ノ納付金ニ關スル規定ハ明治四十五年一月一日ヨリ實施スルノトス
七　契約第八條ノ總損金中ニハ從前通リ減價償却金ヲ包含スルコトヲ得但其割合ハ從前ノ比準ヲ超過スルコトヲ得サルモノトス
八　契約第九條ノ積立金及賞與金其他之ニ類スル支出ハ補塡金償却基金其他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス會社ノ配當金額ニ影響スヘキ總テノ控除金ヲ包含スルモノトス

●瓦斯料金率改定方法ニ關スル協定書

大正二年七月二十八日
市會議決第百七號

本市ト東京瓦斯株式會社トノ間ニ明治四十四年十一月二十五日締結シタル契約第六條ノ實施ニ關シ左ノ通協定スルモノトス

協定書

明治四十四年十一月二十五日東京市長ト東京瓦斯株式會社取締役トノ間ニ取換セタル覺書第三ニ基キ同日締結シタル契約第六條ノ實施ニ關スル方法ヲ協定スルコト左ノ如シ

一　契約第六條ニ於テ過剩額ト稱スルハ契約第八條ノ納付金ヲ控除シタル額カ拂込資本額ニ對スル年率九分ノ配當金及契約第九條制限內支出金ノ合計額ニ對シ超過シタル場合ノ差額ヲ指シタルモノトシ之ニ達セサル場合ノ差額ヲ同條ノ所謂不足金トス
二　瓦斯料金率改定ノ標準ト爲スヘキ契約第六條ノ過剩額及不足金ハ會社ノ上半、下半兩營業期ヲ通シテ計算スルモノトス
三　契約第六條ニ依リ瓦斯料金率ノ改定ヲ爲ス場合ニ於テ新料金率算定ノ標準ト爲スヘキ瓦斯數量ニ過剩額若クハ不足金ヲ生シタル當該營業期ノ製造所發送數量ヨリ其四割ヲ減シタル數量ニ依ルモノトス
四　契約第六條ノ過剩額又ハ不足金ハ本協定第一及第二ニ基キ算出シタル金額ニ依ルノ外他ニ一切ノ增減ヲ加ヘサルモノトス
五　契約第六條ニ依リ瓦斯料金率ノ改定ヲ爲ス場合ニ於テ一千立方呎ニ對スル算出額ニ一錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ引上又ハ引下共ニ四捨五入ノ法ニ依リ計算スルモノトス
六　點火契約ニ依ル街燈及裝飾點火其他特殊ノ供給ヲ爲ス場合ノ料金率竝ニ特別割引契約ニ係ル引用家ニ供給スル瓦斯料金率ハ契約第六條ノ範圍外トス
七　改定瓦斯料金率ノ適用ハ每二月一日ヨリ始マルモノトス

八　大正三年二月一日ヨリ改定スヘキ瓦斯料金率算定ノ標準ハ本協定第二ニ拘ラス大正二年七月ヨリ十二月ニ至ル下半期間ノ實績ニ依ルモノトス

本協定ヲ證スル爲本書二通ヲ作製シ東京市長及東京瓦斯株式會社取締役各其一通ヲ保有スルモノトス

東京電燈株式會社報償契約書

大正元年十月十八日
市會議決第二十三號

東京市（以下單ニ市ト稱ス）ト東京電燈株式會社（以下單ニ會社ト稱ス）トノ間ニ左ノ契約ヲ締結ス

第一條　會社ハ市ノ所有又ハ管理ニ屬スル道路、橋梁、公園其他市有物件ニ供給スル電燈料ハ普通料金ヨリ二割ヲ減スルモノトス

第二條　會社ハ每決算期ニ於テ純益金ノ百分ノ六ニ相當スル金額ヲ決算後三十日内ニ市ニ納付スルモノトス但會社ノ株主ニ對スル配當ニシテ年率一割迄ナルトキハ其期ニ於ケル納付金率ハ之ヲ百分ノ五半トス

前項純益金ハ總益金ヨリ總損金及減損補塡金ヲ控除シタル額トス但總損金中ニハ各種積立、及賞與金其他之ニ類スル支出ヲ包含セス

減損補塡金ハ總益金ヨリ總損金ヲ控除シテ得タル額ノ百分ノ十五ヲ超過スルコトヲ得ス

各種積立金及賞與金其他之ニ類スル支出ハ通シテ第一項ノ納付ヲ爲シタル殘餘ノ百分ノ十五ヲ超過スルコトヲ得ス

第三條　會社ハ每決算後二十日以内ニ其前期ニ於ケル供給電燈個數、電力馬力數竝收入料金月別表及其他ノ決算表ヲ市ニ提出スルモノトス

第四條　市ハ前條事項ノ當否ヲ調査スル爲會社ニ對シ營業ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第五條　市ハ其所有又ハ管理ニ屬スル道路、橋梁、堤塘、公園其他土地工作物ニ對シ會社ニ於テ營業上必要ナル電柱ノ建設或ハ地中ニ電線ノ敷設ヲ爲スコトヲ承諾ス

會社ハ前項土地工作物ヲ使用セントスルトキハ豫メ設計書ヲ提出シ市ノ許可ヲ受ケ其命令ニ遵フモノトス若シ使用ニ因リテ市ニ損害ヲ及ホシタル場合ハ會社ハ之ヲ賠償スルモノトス

第六條　市ハ一般市稅ヲ除ク外電燈事業ニ關スル特別稅ノ賦課及前條ノ使用ニ對シ何等ノ料金ヲ徵收セス現ニ賦課スル電路稅ハ明治四十五年四月一日ヨリ課稅セス

第七條　會社ハ本契約ノ全部ヲ承繼セシムルニ非サレハ他ノ會社ト合併シ又ハ他人ニ事業ヲ讓渡スルコトヲ得ス

第八條　會社カ東京府外ニ於テ將來新ニ營業ヲ開始シタルトキハ其營業ノ損益ハ第二條ノ計算ヨリ除外スルモノトス

前項ノ計算ハ總益金ニ比例シテ定ムルモノトス

第九條　本契約有效期間ハ締結ノ日ヨリ二十年トス但第二條ノ納付金ハ明治四十五年四月一日ヨリ計算スルモノトス

第十條　左ノ場合ニ於テ市ハ本契約ヲ解除スルコトヲ得

一　會社カ本契約ニ依ル義務ヲ履行セサルトキ

二　一月以上休業シタルトキ但天災又ハ不可抗力ノ場合ハ此限ニ在ラス

前項契約解除ノ場合ニ於テ會社ハ市ニ對シ何等ノ要求ヲ爲シ得サルハ勿論市指定ノ期限内ニ第五條ニ依リ建設セル電柱其他ノ裝置ヲ原形ニ復スヘシ若シ之ヲ履行セサルトキハ其物件ハ當然市ノ所有ニ歸シ尙ホ損害アルトキハ會社ハ之ヲ賠償スルモノトス

第十一條　法令ノ結果本契約消滅ニ歸シ又ハ條項ニ變更ヲ及ホスコトアルモ會社ハ市ニ對シ何等ノ要求ヲ爲スコトヲ得ス

契約附屬覺書

大正元年十月二十二日東京市ト東京電燈株式會社トノ間ニ締結シタル契約中第二條及第九條ニ關シ當事者間ニ此覺書ヲ取交置クモトスノ

一　契約第二條ノ各種積立金賞與金其他之ニ類スル支出ニハ準備金、償却基金其他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス會社ノ配當金額ニ影響スヘキ總テノ控除金ヲ包含スルモノトス

二　契約期間十五年ヲ經過シタル後ニ於テハ當事者孰レカノ申出ニ依リ契約期間ヲ短縮スルコトヲ得ルモノトス

附錄

東京市例規類集 畢

附錄

●市制

明治四十四年四月六日
法律第六十八號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル市制改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

市制

第一章　總則
　第一款　市及其ノ區域
　第二款　市住民及其ノ權利義務
　第三款　市條例及市規則
第二章　市會
　第一款　組織及選擧
　第二款　職務權限
第三章　市參事會
　第一款　組織及選擧
　第二款　職務權限
第四章　市吏員
　第一款　組織選擧及任免
　第二款　職務權限
第五章　給料及給與
第六章　市ノ財務
　第一款　財產營造物及市稅
　第二款　歲入出豫算及決算
第七章　市ノ一部ノ事務
第八章　市町村組合
第九章　市ノ監督
第十章　雜則

市制

第一章　總則

第一款　市及其ノ區域

第一條　市ハ從來ノ區域ニ依ル

第二條　市ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍內ニ於テ其ノ公共事務竝從來法令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ市ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條　市ノ廢置分合ヲ爲サムトスルトキハ關係アル市町村會及府縣參事會ノ意見ヲ徵シテ內務大臣之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ財產アルトキハ其ノ處分ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

第四條　市ノ境界變更ヲ爲サントスルトキハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム所屬未定地ヲ市ノ區域ニ編入セントスルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ財産アルトキ其ノ處分ニ關シテハ前項ノ例ニ依ル

第五條 市ノ境界ニ關スル爭論ハ府縣參事會之ヲ裁定ス其ノ裁定ニ不服アル市町村ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

市ノ境界判明ナラサル場合ニ於テ前項ノ爭論ナキトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル市町村ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ裁定及前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ關係市町村ニ交付スヘシ

第一項ノ裁定及第二項ノ決定ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六條 勅令ヲ以テ指定スル市ノ區ハ之ヲ法人トス其ノ財產及營造物ニ關スル事務其ノ他法令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理ス

區ノ廢置分合又ハ境界變更其ノ他區ノ境界ニ關シテハ前二條ノ規定ヲ準用ス但シ第四條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テハ關係アル市會ノ意見ヲモ徵スヘシ

第七條 市ハ其ノ名稱ヲ變更セムトスルトキハ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

市役所ノ位置ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ市ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

前條ノ市カ其ノ區ノ名稱ヲ變更シ又ハ區役所ノ位置ヲ定メ若ハ之ヲ變更セムトスルトキハ前項ノ例ニ依ル

第二款 市住民及其ノ權利義務

第八條 市內ニ住所ヲ有スル者ハ其ノ市住民トス

市住民ハ本法ニ從ヒ市ノ財產及營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ市ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第九條 帝國臣民ニシテ獨立ノ生計ヲ營ム年齡二十五年以上ノ男子二年以來市ノ住民トシテ其ノ市ノ負擔ヲ分任シ且其ノ市內ニ於テ地租ヲ納メ若ハ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムルトキハ其ノ市公民トス但シ貧困ノ爲公費ノ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者、禁治產者、準禁治產者及六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

市ハ前項二年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

家督相續ニ依リ財產ヲ取得シタル者ニ付テハ其ノ財產ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

市公民ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

市稅ヲ賦課セサル市ニ於テハ市公民ノ要件中市ノ負擔分任ニ關スル規定ヲ適用セス

第十條 市公民ハ市ノ選擧ニ參與シ市ノ名譽職ニ選擧セラルル權利ヲ有シ市ノ名譽職ヲ擔任スル義務ヲ負フ

左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニシテ名譽職ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ職ヲ辭シ若ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルトキハ市ハ一年以上四年以下其ノ市公民權ヲ停止シ場合ニ依リ其ノ停止期間以內其ノ者ノ負擔スヘキ市稅ノ十分ノ一以上四分ノ一以下ヲ增課スルコトヲ得

一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者

二 業務ノ爲常ニ市內ニ居ルコトヲ得サル者

三 年齡六十年以上ノ者

四 官公職ノ爲市ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者

五 四年以上名譽職市吏員、名譽職參事會員、市會議員又ハ區會議員ノ職ニ任シ爾後同一ノ期間ヲ經過セサル者

六 其ノ他市會ノ議決ニ依リ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第三項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十一條 市公民第九條第一項ニ揭ケタル要件ノ一ヲ闕キ又ハ同項但書ニ當ルニ至リタルトキハ其ノ公民權ヲ失フ

市公民租稅滯納處分中ハ其ノ公民權ヲ停止ス家資分散者ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄又ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ市ノ公務ニ參與スルコトヲ得ス其ノ他ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ召集セラレタルトキ亦同シ

第三款 市條例及市規則

第十二條 市ハ市住民ノ權利義務又ハ市ノ事務ニ關シ市條例ヲ設クルコトヲ得

市ハ市ノ營造物ニ關シ市條例ヲ以テ規定スルモノノ外市規則ヲ設クルコトヲ得

市條例及市規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第二章 市會

第一款 組織及選擧

第十三條 市會議員ハ其ノ被選擧權アル者ニ就キ選擧人之ヲ選擧ス

議員ノ定數左ノ如シ

一	人口五萬未滿ノ市	三十人	
二	人口五萬以上十五萬未滿ノ市	三十六人	
三	人口十五萬以上二十萬未滿ノ市	三十九人	
四	人口二十萬以上三十萬未滿ノ市	四十二人	
五	人口三十萬以上ノ市	四十五人	

人口三十萬ヲ超ユル市ニ於テハ人口十萬、人口五十萬ヲ超ユル市ニ於テハ人口二十萬ヲ加フル毎ニ議員三人ヲ增加ス

議員ノ定數ハ市條例ヲ以テ特ニ之ヲ增減スルコトヲ得

議員ノ定數ハ總選擧ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ增減セス但シ著シク人口ノ增減アリタル場合ニ於テ內務大臣ノ許可ヲ得タルト

キハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 市公民ハ總テ選擧權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者又ハ第十一條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

帝國臣民ニシテ直接市稅ヲ納ムル者其ノ額市公民ノ最多ク納稅スル者三人中ノ一人ヨリモ多キトキハ第九條第一項ノ要件ニ當ラスト雖選擧權ヲ有ス但シ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及第十一條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

法人ニ關シテモ亦前項ノ例ニ依ル

直接市稅ヲ賦課セサル市ニ於テハ其ノ市內ニ於テ納ムル直接國稅額ニ依リ前二項ノ規定ヲ適用ス

前三項ノ直接市稅及直接國稅ノ納額ハ選擧人名簿調製期日ノ屬スル會計年度ノ前年度ノ賦課額ニ依ルヘシ

第十五條 選擧人ハ分チテ三級トス

選擧人中直接市稅ノ納額最多キ者ヲ合セテ選擧人全員ノ納ムル總額ノ三分ノ一ニ當ルヘキ者ヲ一級トス但シ一級選擧人ノ數議員定數ノ三分ノ一ヨリ少キトキハ納額最多キ者議員定數ノ三分ノ一ト同數ヲ以テ一級トス

一級選擧人ヲ除クノ外直接市稅ノ納額最多キ者ヲ合セテ選擧人全員ノ納ムル直接市稅ノ總額中一級選擧人ノ納ムル額ヲ除キ其ノ殘額ノ半ニ當ルヘキ者ヲ二級トシ其ノ他ノ選擧人ヲ三級トス

但シ二級選擧人ノ場合ニハ前項但書ノ規定ヲ準用ス

各級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ルヘシ兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二人以上アルトキハ其ノ市內ニ住所ヲ有スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ル住所ヲ有スル年數同シキトキハ年長者ヲ以テシ年齡ニ依リ難キトキハ市長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

選擧人ハ每級各別ニ議員定數ノ三分ノ一ヲ選擧ス但シ選擧區アル場合ニ於テ議員ノ數三分シ難キトキハ其ノ配當方法ハ第十六條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

被選擧人ハ各級ニ通シテ選擧セラルルコトヲ得

直接市稅ヲ賦課セサル市ニ於テハ第二項乃至第四項ノ納稅額ハ選擧人ノ市內ニ於テ納ムル直接國稅額ニ依ルヘシ

第二項乃至第四項及前項ノ直接市稅及直接國稅ノ納額ニ關シテハ前條第五項ノ規定ヲ適用ス

第十六條 市ハ市條例ヲ以テ選擧區ヲ設クルコトヲ得二級又ハ三級選擧人ノ爲ノミニ付亦同シ

選擧區ノ數及其ノ區域竝各選擧區ヨリ選出スル議員數ハ前項ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第六條ノ市ニ於テハ區ヲ以テ選擧區トス其ノ各選擧區ヨリ選出スル議員數ハ市條例ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

選擧人ハ住所ニ依リ所屬ノ選擧區ヲ定ム市內ニ住所ナキ者ハ直接市稅若ハ直接國稅ノ賦課ヲ受ケタル物件又ハ營業所ノ所在ニ依リ物件又ハ營業所ニシテ數選擧區ニ在ル場合ニハ之ニ對スル課稅ノ最多キ所ニ依リ其ノ之ニ依リ難キ場合ニハ本人ノ申出ニ依リ其ノ申出ナキトキハ市長其ノ選擧區ヲ定ムヘシ

選擧區ニ於テハ前條ノ規定ニ準シ選擧人ノ等級ヲ分ツヘシ但シ一級選擧人ノ數其ノ選出スヘキ議員配當數ヨリ少キトキハ納額最多キ者議員配當數ト同數ヲ以テ一級トス二級選擧人ニ付亦同シ

被選擧人ハ各選擧區ニ通シテ選擧セラルルコトヲ得

第十七條 特別ノ事情アルトキハ市ハ府縣知事ノ許可ヲ得區劃ヲ定メテ選擧分會ヲ設クルコトヲ得二級又ハ三級選擧ノ爲ノミニ付亦同シ

第十八條 選擧權ヲ有スル市公民ハ被選擧權ヲ有ス

左ニ揭クル者ハ被選擧權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一月ヲ經過セサル者亦同シ

一 所屬府縣ノ官吏及有給吏員

二 其ノ市ノ有給吏員

三 檢事警察官吏及收稅官吏

四 神官神職僧侶其ノ他諸宗教師

五 小學校教員

市ニ對シ請負ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、重役及支配人ハ其ノ市ニ於テ被選擧權ヲ有セス

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ市會議員ノ職ニ在ルコトヲ得

ス其ノ同時ニ選擧セラレタルトキハ同級ニ在リテハ得票ノ數ニ依リ其ノ多キ者一人ヲ當選者トシ同數ナルトキ又ハ等級若ハ選擧區ヲ異ニシテ選擧セラレタルトキハ年長者ヲ當選者トス其ノ時ヲ異ニシテ選擧セラレタルトキハ後ニ選擧セラレタル者議員タルコトヲ得ス

議員ト爲リタル後前項ノ緣故ヲ生シタル場合ニ於テハ年少者其ノ職ヲ失フ

市長市參與又ハ助役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ市會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス

第十九條 市會議員ハ名譽職トス

議員ノ任期ハ四年トシ總選擧ノ第一日ヨリ之ヲ起算ス

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲解任ヲ要スル者アルトキハ每級各別ニ市長抽籤シテ之ヲ定ム選擧區アル場合ニ於テハ第十六條ノ市條例中ニ其ノ解任ヲ要スル者ノ選擧區及等級ヲ規定シ市長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ但シ解任ヲ要スル選擧區及等級ニ闕員アルトキハ其ノ闕員ヲ以テ之ニ充ツヘシ

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲新ニ選擧セラレタル議員ハ總選擧ニ依リ選擧セラレタル議員ノ任期滿了ノ日迄在任ス

選擧區又ハ其ノ配當議員數ノ變更アリタル場合ニ於テ之ニ關シ必要ナル事項ハ第十六條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第二十條 市會議員中闕員ヲ生シ其ノ闕員議員定數ノ三分ノ一以上ニ至リタルトキ又ハ府縣知事市長若ハ市會ニ於テ必要ト認ム

ルトキハ補闕選擧ヲ行フヘシ

補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

補闕議員ハ前任者ノ選擧セラレタル等級及選擧區ニ於テ之ヲ選擧スヘシ

第二十一條　市長ハ選擧期日前六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選擧人ノ資格ヲ記載セル選擧人名簿ヲ調製スヘシ但シ選擧區アルトキハ選擧區毎ニ名簿ヲ調製スヘシ

第六條ノ市ニ於テハ市長ハ區長ヲシテ前項ノ名簿ヲ調製セシムヘシ

市長ハ選擧期日前四十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間毎日午前八時ヨリ午後四時迄市役所第六條ノ市ニ於テハ區役所又ハ告示シタル場所ニ於テ選擧人名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ關係者ニ於テ異議アルトキハ縱覽期間內ニ之ヲ市長第六條ノ市ニ於テハ區長ヲ經テ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市長ハ縱覽期間滿了後三日間以內ニ市會ノ決定ニ付スヘシ市會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ七日以內ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第五項ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前四項ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ市長ハ其ノ要領ヲ告示シ第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ告示セシムヘシ

選擧人名簿ヲ修正シタルトキハ市長ハ直ニ其ノ要領ヲ告示シ第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ告示セシムヘシ

選擧分會ヲ設ルトキハ市長ハ確定名簿ニ依リ分會ノ區劃毎ニ名簿ノ抄本ヲ調製スヘシ第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ選擧ニ參與スルコトヲ得ス但シ選擧人名簿ニ登錄セラルヘキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ選擧ノ當日選擧會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ選擧人ハ等級ノ標準タル直接市稅又ハ直接國稅ニ依リ其ノ者ノ納額ニシテ名簿ニ登錄セラレタル一級選擧人中ノ最少額ヨリ多キトキハ一級ニ於テ二級選擧人中ノ最少額ヨリ多キトキハ二級ニ於テ其ノ他ハ三級ニ於テ選擧ヲ行フヘシ

確定名簿ニ登錄セラレタル者選擧權ヲ有セサルトキハ選擧ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス

第三項乃至第六項ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿無效ト爲リタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ其ノ名簿ノ調製、縱覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル名簿ノ喪失シタルトキ亦同シ

選擧人名簿調製後ニ於テ選擧期日ヲ變更スルコトアルモ其ノ名簿ヲ用ヰ縱覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ前選擧期日ニ依リ之ヲ算定ス

第二十二條　市長ハ選擧期日前少クトモ七日間選擧會場投票ノ日時及各級ヨリ選擧スヘキ議員數ヲ告示スヘシ選擧區アル場合ニ於テハ各級ヨリ選擧スヘキ議員數ヲ選擧區毎ニ分別シ選擧分會ヲ設クル場合ニ於テハ併セテ其ノ等級及區劃ヲ告示スヘシ

各選擧區ノ選擧ハ同日時ニ之ヲ行ヒ選擧分會ノ選擧ハ本會ト同日時ニ之ヲ行フヘシ天災事變等ニ依リ同日時ニ選擧ヲ行フコト能ハサルトキハ市長ハ其選擧ヲ終ラサル選擧會又ハ選擧分會ノミニ關シ更ニ選擧會場及投票ノ日時ヲ告示シ選擧ヲ行フヘシ」

選擧ヲ行フ順序ハ先ツ三級ノ選擧ヲ行ヒ次ニ二級ノ選擧ヲ行ヒ次ニ一級ノ選擧ヲ行フヘシ天災事變等ニ依リ選擧ヲ行フコト能ハサルニ至リタルトキハ市長ハ其ノ選擧ヲ終ラサル等級ノミニ關シ更ニ選擧會場及投票ノ日時ヲ告示シ選擧ヲ行フヘシ

第二十三條　市長ハ選擧長ト爲リ選擧會ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス」

各選擧區ノ選擧會ハ市長又ハ其ノ指名シタル吏員第六條ノ市ニ於テハ區長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

選擧分會ハ市長ノ指名シタル吏員選擧分會長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

市長第六條ノ市ニハ選擧人中ヨリ二人乃至四人ノ選擧立會人ヲ於テハ區長選任スヘシ但シ選擧區アルトキ又ハ選擧分會ヲ設ケタルトキハ各別ニ立會人ヲ設クヘシ

選擧立會人ハ名譽職トス

第二十四條　選擧人ニ非サル者ハ選擧會場ニ入ルコトヲ得ス但シ選擧會場ノ事務ニ從事スル者、選擧會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者又ハ警察官吏ハ此ノ限ニ在ラス

選擧會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧擾ニ渉リ又ハ投票ニ關シ協議者ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他選擧會場ノ秩序ヲ紊ス者アルトキハ選擧長又ハ分會長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ選擧會場外ニ退出セシムヘシ

前項ノ規定ニ依リ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ選擧長又ハ分會長會場ノ秩序ヲ紊スノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ投票ヲ爲サシムルヲ妨ケス

第二十五條　選擧ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選擧人ハ選擧ノ當日投票時間内ニ自ラ選擧會場ニ到リ選擧人名簿又ハ其ノ抄本ノ對照ヲ經テ投票ヲ爲スヘシ

投票時間内ニ選擧會場ニ入リタル選擧人ハ其ノ時間ヲ過クルモ投票ヲ爲スコトヲ得

選擧人ハ選擧會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選擧人一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ但シ確定名簿ニ登錄セラレタル每級選擧人ノ數其ノ選擧スヘキ議員數ノ三倍ヨリ少キ場合ニ於テハ連名投票ノ法ヲ用ウヘシ

自ラ被選擧人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

投票用紙ハ市長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

選擧區アル場合ニ於テ選擧人名簿ノ調製後選擧人ノ所屬ニ異動ヲ生スルコトアルモ其ノ選擧人ハ前所屬ノ選擧區ニ於テ投票ヲ爲スヘシ選擧分會ニ於ヲ爲シタル投票ハ分會長少クトモ一人ノ選擧立會人ト共ニ投票函ノ儘之ヲ本會ニ送致スヘシ

第二十六條 增員選擧及補闕選擧ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選擧ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第二十七條 第十四條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ選擧權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選擧ヲ行フコトヲ得但シ年齡二十五年以上ノ男子ニ非サル者、禁治產者及準禁治產者ハ必ス代人ヲ以テスヘシ

代人ハ帝國臣民ニシテ年齡二十五年以上ノ男子ニ限ル

第九條第一項但書ニ當ル者、第十條第二項ノ規定ニ依ル公民權停止中ノ者及第十一條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ代人タルコトヲ得ス又一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス

代人ハ委任狀其ノ他代理ヲ證スル書面ヲ選擧長又ハ分會長ニ示スヘシ

第二十八條 左ノ投票ハ之ヲ無效トス

一 成規ノ用紙ヲ用ヰサルモノ

二 現ニ市會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

三 一投票中二人以上ノ被選擧人ノ氏名ヲ記載シタルモノ

四 被選擧人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ

五 被選擧權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

六 被選擧人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

連名投票ノ法ヲ用キタル場合ニ於テハ前項第一號及第六號ニ該當スルモノ竝其ノ記載ノ人員選擧スヘキ定數ニ過キタルモノハ之ヲ無效トシ前項第二號第四號及第五號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミヲ無效トス

第二十九條 投票ノ拒否及效力ハ選擧立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ選擧長之ヲ決スヘシ

選擧分會ニ於ケル投票ノ拒否ハ其ノ選擧立會人之ヲ決定ス可否

同數ナルトキハ分會長之ヲ決スヘシ

第三十條 市會議員ノ選擧ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ各級ニ於テ選擧スヘキ議員數ヲ以テ選擧人名簿ニ登錄セラレタル各級ノ人員數ヲ除シテ得タル數ノ七分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ選擧長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

第三十一條 選擧長又ハ分會長ハ選擧錄ヲ調製シテ選擧又ハ投票ノ顚末ヲ記載シ選擧又ハ投票ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選擧立會人二人以上ト共ニ之ニ署名スヘシ

各選擧區ノ選擧長ハ選擧錄第六條ノ市ニ於ヲ添ヘ當選者ノ住所氏名ヲ市長ニ報告スヘシ

選擧分會長ハ投票函ト同時ニ選擧錄ヲ本會ニ送致スヘシ

選擧錄ハ投票、選擧人名簿其ノ他ノ關係書類ト共ニ選擧及當選ノ效力確定スルニ至ル迄之ヲ保存スヘシ

第三十二條 當選者定マリタルトキハ市長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ告知セシムヘシ」

當選者當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ市長ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數級又ハ數選擧區ニ於テ當選シタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ何レノ當選ニ應スヘキカヲ市長ニ申立ツヘシ其ノ期間内ニ之ヲ申立テサルトキハ市長抽籤シテ之ヲ定ム

第三十三條 市會議員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ市長ハ直ニ之ヲ補フヘキ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十條ノ規定ヲ準用ス

第三十四條 選擧ヲ終リタルトキハ市長ハ直ニ選擧錄ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第三十二條第二項ノ期間ヲ經過シタルトキ、同條第三項若ハ第五項ノ申立アリタルトキ又ハ同條第三項ノ規定ニ依リ抽籤ヲ爲シタルトキハ市長ハ直ニ當選者ノ住所氏名ヲ告示シ併セテ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第三十五條 選擧ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選擧ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選擧ノ全部又ハ一部ヲ無效トス

第三十六條 選擧人選擧又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選擧ニ關シテハ選擧ノ日ヨリ當選ニ關シテハ第三十四條第二項ノ告示ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合

ニ於テハ市長ハ七日以内ニ市會ノ決定ニ付スヘシ市會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

府縣知事ハ選擧又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選擧ニ關シテハ第三十四條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ同條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

前項ノ決定アリタルトキハ同一事件ニ付爲シタル異議ノ申立及市會ノ決定ハ無效トス

第二項若ハ第六項ノ裁決又ハ第三項ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定ニ付テハ市長ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第二項若ハ前項ノ裁決又ハ第三項ノ決定ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

市會議員ハ選擧又ハ當選ニ關スル決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第三十七條 當選無效ト確定シタルトキハ市長ハ直ニ第三十條ノ例ニ依リ更ニ當選者ヲ定ムヘシ

選擧無效ト確定シタルトキハ更ニ選擧ヲ行フヘシ

議員ノ定數ニ足ル當選者ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ付更ニ選擧ヲ行フヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十條第一項但書ノ規定ヲ適用セス

第三十八條 市會議員ニシテ被選擧權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ヲ除クノ外其ノ被選擧權ノ有無ハ市會之ヲ決定ス

市長ハ市會議員中被選擧權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ市會ノ決定ニ付スヘシ

第一項ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得」

第三十六條第八項ノ規定ハ第一項及前三項ノ場合ニ之ヲ準用ス」

第一項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第三十九條 第二十一條及第三十六條ノ場合ニ於テ府縣參事會ノ決定及裁決ハ府縣知事、市會ノ決定ハ市長直ニ之ヲ告示スヘシ

第四十條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ設置スル議會ノ議員ノ選擧ニ付テハ衆議院議員選擧ニ關スル罰則ヲ準用ス

前項ノ罰則中選擧人ニ關スル規定ハ第二十七條ノ代人ニ之ヲ準用ス

第二款 職務權限

第四十一條 市會ハ市ニ關スル事件及法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ

屬スル事件ヲ議決ス

第四十二條 市會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

一 市條例及市規則ヲ設ケ又ハ改廢スル事

二 市費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關スル事但シ第九十三條ノ事務及法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

三 歲入出豫算ヲ定ムル事

四 決算報告ヲ認定スル事

五 法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手數料、加入金、市稅又ハ夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事

六 不動產ノ管理處分及取得ニ關スル事

七 基本財產及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關スル事

八 歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

九 財產及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

十 市吏員ノ身元保證ニ關スル事

十一 市ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事

第四十三條 市會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ヲ市參事會ニ委任スルコトヲ得

第四十四條 市會ハ法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル選擧ヲ行フヘシ

第四十五條 市會ハ市ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閱シ市長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理、議決ノ執行及出納ヲ檢查スルコトヲ得

市會ハ議員中ヨリ委員ヲ選擧シ市長又ハ其ノ指名シタル吏員立會ノ上實地ニ就キ前項市會ノ權限ニ屬スル事件ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十六條 市會ハ市ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ市長又ハ監督官廳ニ提出スルコトヲ得

第四十七條 市ニハ行政廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

市會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ市會成立セス、招集ニ應セス若ハ意見ヲ提出セス又ハ市會ヲ招集スルコト能ハサルトキハ當該行政廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十八條 市會ハ議員中ヨリ議長及副議長一人ヲ選擧スヘシ

議長及副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第四十九條 議長故障アルトキハ副議長之ニ代ハリ議長及副議長共ニ故障アルトキハ年長ノ議員議長ノ職務ヲ代理ス年齡同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 市長及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第五十一條 市會ハ市長之ヲ招集ス議員定數三分ノ一以上ノ請求

アルトキハ市長ハ之ヲ招集スヘシ

市長ハ必要アル場合ニ於テハ會期ヲ定メテ市會ヲ招集スルコトヲ得

招集及會議ノ事件ハ開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ告知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

市會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ市長ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得三日前迄ニ告知ヲ爲シタル事件ニ付亦同シ」

市會ハ市長之ヲ開閉ス

第五十二條 市會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ第五十四條ノ除斥ノ爲半數ニ滿タサルトキ、同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席議員定數ヲ闕キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條 市會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第五十四條 議長及議員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ市會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第五十五條 法律勅令ニ依リ市會ニ於テ選擧ヲ行フトキハ本法中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外一人毎ニ無記名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二人ヲ取リ之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二人ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス同數ナルトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テハ第二十五條及第二十八條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ市會之ヲ決定ス

第一項ノ選擧ニ付テハ市會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選又ハ連名投票ノ法ヲ用ウルコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依ル

第五十六條 市會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 市長ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長又ハ議員三人以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

前項議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須キス其ノ可否ヲ決スヘシ

第五十七條 議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第五十八條 議員ハ選擧人ノ指示又ハ委囑ヲ受クヘカラス

議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用キ又ハ他人ノ身上ニ渉リ言論スルコトヲ得ス

第五十九條 會議中本法又ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ス議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ又ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ當日ノ會議ヲ終ル迄發言ヲ禁止シ又ハ議場外ニ退去セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第六十條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騷ニ渉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第六十一條 市會ニ書記ヲ置キ議長ニ隷屬シテ庶務ヲ處理セシム

書記ハ議長之ヲ任免ス

第六十二條 議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ調製シ會議ノ顚末及出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ

會議錄ハ議長及議員二人以上之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ議員ハ市會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

議長ハ會議錄ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ市長ニ報告スヘシ

第六十三條 市會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設クヘシ

會議規則ニハ本法及會議規則ニ違反シタル議員ニ對シ市會ノ議決ニ依リ三日以內出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三章 市參事會

第一款 組織及選擧

第六十四條 市ニ市參事會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 市長

二 助役

三 名譽職參事會員

前項ノ外市參與ヲ置ク市ニ於テハ市參與ハ參事會員トシテ其ノ擔任事業ニ關スル場合ニ限リ會議ニ列席シ議事ニ參與ス

第六十五條 名譽職參事會員ノ定數ハ六人トス但シ第六條ノ市ニ在リテハ市條例ヲ以テ十二人迄之ヲ增加スルコトヲ得

名譽職參事會員ハ市會ニ於テ其ノ議員中ヨリ之ヲ選擧スヘシ其ノ選擧ニ關シテハ第二十五條第二十八條及第三十條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ市會之ヲ決定ス

名譽職參事會員中闕員アルトキハ直ニ補闕選擧ヲ行フヘシ

名譽職參事會員ノ任期ハ市會議員ノ任期ニ依ル但シ市會議員ノ任期滿了ノ場合ニ於テハ後任名譽職參事會員選擧ノ日迄在任ス

第六十六條 市參事會ハ市長ヲ以テ議長トス市長故障アルトキハ市長代理者之ヲ代理ス

第二款 職務權限

第六十七條 市參事會ノ職務權限左ノ如シ

一 市會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事

二 市長ヨリ市會ニ提出スル議案ニ付市長ニ對シ意見ヲ述フル

事

三　其ノ他法令ニ依リ市參事會ノ權限ニ屬スル事件

第六十八條　市參事會ハ市長之ヲ招集ス名譽職參事會員定數ノ半數以上ノ請求アルトキハ市長ハ之ヲ招集スヘシ

第六十九條　市參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第七十條　市參事會ハ議長又ハ其ノ代理者及名譽職參事會員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ第二項ノ除斥ノ爲名譽職參事會員其ノ半數ニ滿タサルトキ同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍名譽職參事會員其ノ半數ニ滿タサルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席名譽職參事會員定數ヲ闕キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

議長及參事會員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ市參事會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

議長及其ノ代理者共ニ前項ノ場合ニ當ルトキハ年長ノ名譽職參事會員議長ノ職務ヲ代理ス

第七十一條　第四十六條第四十七條第五十條第五十一條第二項及第五項第五十三條第五十五條第五十七條乃至第五十九條第六十一條竝第六十二條第一項及第二項ノ規定ハ市參事會ニ之ヲ準用ス

第四章　市吏員

第一款　組織選擧及任免

第七十二條　市ニ市長及助役一人ヲ置ク但シ第六條ノ市ノ助役ノ定數ハ內務大臣之ヲ定ム

助役ノ定數ハ市條例ヲ以テ之ヲ增加スルコトヲ得

特別ノ必要アル市ニ於テハ市條例ヲ以テ市參與ヲ置クコトヲ得

其ノ定數ハ其ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第七十三條　市長ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四年トス

內務大臣ハ市會ヲシテ市長候補者三人ヲ選擧推薦セシメ上奏裁可ヲ請フヘシ

市長ハ內務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス

第七十四條　市參與ハ名譽職トス但シ定數ノ全部又ハ一部ヲ有給吏員トス爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第七十二條第三項ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

市參與ハ市會ニ於テ之ヲ選擧シ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

名譽職市參與ハ市公民中選擧權ヲ有スル者ニ限ル

第七十五條　助役ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四年トス

助役ハ市長ノ推薦ニ依リ市會之ヲ定メ市長職ニ在ラサルトキハ市會ニ於テ之ヲ選擧シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣知事ノ不認可ニ對シ市長又ハ市會ニ於テ不服アルトキハ內務大臣ニ具狀シテ認可ヲ請フコトヲ得

助役ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス

第七十六條　市長有給市參與及助役ハ第九條第一項ノ規定ニ拘ラス在職ノ間其ノ市ノ公民トス

第七十七條　市長市參與及助役ハ第十八條第二項ニ揭ケタル職ト兼ヌルコトヲ得ス又其ノ市ニ對シ請負ヲ爲スコトヲ得ス

市長ト父子兄弟タル緣故アル者ハ市參與又ハ助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス

市參與ト父子兄弟タル緣故アル者ハ助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス」

父子兄弟タル緣故ヶル者ハ同時ニ市參與又ハ助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス第十八條第五項ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十八條　市長有給市參與及助役ハ府縣知事ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他ノ報償アル業務ニ從事スルコトヲ得ス

市長有給市參與及助役ハ會社ノ重役又ハ支配人其ノ他ノ事務員タルコトヲ得ス

第七十九條　市ニ收入役一人ヲ置ク但シ市條例ヲ以テ副收入役ヲ置クコトヲ得

第七十五條第一項乃至第三項第七十七條第一項及第四項竝前條ノ規定ハ收入役及副收入役ニ第七十六條ノ規定ハ收入役ニ之ヲ準用ス

市長市參與又ハ助役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ收入役又ハ副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得ス收入役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得ス

第八十條　第六條ノ市ノ區ニ區長一人ヲ置キ市有給吏員トシ市長之ヲ任免ス

第七十七條第一項及第七十八條ノ規定ハ區長ニ之ヲ準用ス

第八十一條　第六條ノ市ノ區ニ區收入役一人又ハ區收入役及區副收入役各一人ヲ置ク

區收入役及區副收入役ハ第八十六條ノ吏員中市長、助役、市收入役、市副收入役又ハ區長トノ間及其ノ相互ノ間ニ父子兄弟タル緣故アラサル者ニ就キ市長之ヲ命ス

區收入役又ハ區副收入役ト爲リタル後市長、助役、市收入役、市副收入役又ハ區長トノ間ニ父子兄弟タル緣故生シタルトキハ區收入役又ハ區副收入役ハ其ノ職ヲ失フ

前項ノ規定ハ區收入役及區副收入役相互ノ間ニ於テ區副收入役ニ之ヲ準用ス

第八十二條　第六條ノ市ヲ除キ其ノ他ノ市ハ處務便宜ノ爲區ヲ劃シ區長及其ノ代理者一人ヲ置クコトヲ得

前項ノ區長及其ノ代理者ハ名譽職トス市會ニ於テ市公民中選擧權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選擧ス

內務大臣ハ前項ノ規定ニ拘ラス區長ヲ有給吏員ト爲スヘキ市ヲ指定スルコトヲ得

前項ノ區ニ付テハ第八十條第八十一條第九十四條第二項第九十七條第四項第九十八條及第九十九條ノ規定ヲ準用スルノ外必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十三條　市ハ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得